

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 長崎 孝

講義内容・テーマ

この時間は、ドイツ文学の代表的な作品を、映像化されたものを中心に取り上げ、解説、講義する。作家が生きた時代や社会との関連を押さえながら、各作品とそれを生み出した作家の生涯について講じていくことにしたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

筆記試験による評価。講義中随時出席をとる。定期試験期間中に行なわれる試験を受けることが、単位認定の前提である。

講義スケジュール

第1回～第3回

ドイツ文学の巨匠の一人であるゴットフリート・ケラーの生涯と作品について解説、講義する。

第4回～第6回

ドイツ中世最高の叙事詩である「ニーベルンゲン」について解説、講義したのち、作品をビデオで鑑賞する。

第7、8回

19世紀スイスの女流作家ヨハンナ・スビリについて解説したのち、代表作「ハイジ」の一部をビデオで鑑賞する。

第9回

グリム兄弟について解説したのち、ビデオでその生涯をたどる。

第10、11回

20世紀ドイツ文学最高の作家であるトーマス・マンの代表作「魔の山」について解説、講義したのち、作品をビデオで鑑賞する。

第12回～14回

ベルトルト・ブレヒトの代表作「三文オペラ」について解説、講義したのち、作品をビデオで鑑賞する。

授業の方法:講義である。またビデオを利用する。

テキスト

ケラー作品集第1巻「ゼルトヴィーラの人々。第1話」

参考書

講義中に取り上げる各作品の翻訳書

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 井上 泰也

講義内容・テーマ

〔隋唐帝国の形成〕本講義は、主として唐代史を手掛かりに、前近代中国社会の変動の諸局面に焦点を合わせる。今以て中国社会が抱え込む、一筋縄では行かない多様性と驚異的な一元性は、一体どのように堆積され形作られたのか。当該時代をめぐる最新の研究事情のみならず、中国史を貫く通時的な視点や、同時代的な話題も盛り込むよう心掛けたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講生諸君は、新聞・テレビ等を通じ、広く中国に関心を持つと共に、本講義を単なる知識の寄せ集めではなく、是非自らの漠然としたイメージを再検討する機会にしていきたい。

評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施

\*日常点：加味する

論述式筆記試験。平常点加味。

講義スケジュール

1. 中国史の環境、パターン
2. 分裂の400年(184 - 589年)
  - (1) 黄巾・魏晋南北朝・五胡十六国
  - (2) 北魏の動向
  - (3) 胡漢の融合
3. 隋唐の300年(581 - 907年)
  - (1) 科挙・長安城・旧唐書
  - (2) 則天武后
  - (3) 安史の乱
  - (4) 藩鎮
  - (5) 唐末三大反乱

テキスト

なし。プリント配布。

参考書

礪波護・武田幸男『隋唐帝国と古代朝鮮』中央公論社その他。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 原 秀禎

### 講義内容・テーマ

講義では、我々の生活面である地形環境について明らかにしていく。講義で取り上げる丘陵、河岸段丘、海岸段丘、扇状地、自然堤防、後背湿地、三角州の各地形は、第四紀における海水準変動の影響を受けて形成されてきた。これらの地形がどのように形成され今日に至っているか、また、我々がこれらの地形をどのように利用してきたのかを詳細に解説する。

一方、ビデオ教材においては、「地球温暖化」問題を取り上げ、危機的状況にある地球環境を紹介し、その問題点を明らかにしていきたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

地球の環境や歴史、自然環境、地形環境、植生環境等に興味のある学生を対象とします。興味のない、やる気のない学生諸君にとっては、退屈な講義となりますので受講しないようお願いいたします。

また、「私語」については、やる気のある学生諸君に非常に迷惑ですし、教室の雰囲気も悪くなりますから、退室を命じます。

### 評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

後期試験の結果をもとに、出席点を加味して総合的に評価する。講義を受けずに、試験のみに出て来る学生については評価しない。

### 講義スケジュール

- 第1回 第四紀とはどのような時代か
- 第2回 氷河時代と氷河地形
- 第3回 第四紀の気候変化
- 第4回 第四紀の植生変化
- 第5回 花粉分析とは何か
- 第6回 古植生の復原と人類の生活
- 第7回 氷河性海水準変動の特色
- 第8回 丘陵の形成とニュータウン開発
- 第9回 河岸段丘の発達と土地利用
- 第10回 海岸段丘と漁業集落
- 第11回 扇状地と湧水帯
- 第12回 自然堤防と平野の生活
- 第13回 後背湿地と水田開発
- 第14回 三角州と工業地帯
- 第15回 補講日

### テキスト

使用しない。

### 参考書

- 横山卓雄著『地球の自然史』三和書房
- 成瀬洋著『第四紀』岩波書店
- 田淵洋著『新版自然環境の生い立ち』朝倉書店
- 小林・阪口著『第四紀』岩波書店

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 山口 幸二

講義内容・テーマ

ことばは人間にとって、あまりにも本質的であり、つね日頃は空気のごとく意識されることはない。それが正常な言語活動と云うべきであろう。しかし空気に異変を感じた時、我々はそれを意識せざるを得ない。

言語においては、それは価値観の変動を伴う「時代の転換期」にあたるであろう。言語そのものが「人間を自立させると同時に、従属させる」という原理を内包しているからであろう。

言語は自分自身のものであると同時に、他者のものでもある。

この自明の事実の意味を問い直し、冷静に言語をみつめてみたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特になし。

評価方法・基準

\* 筆記試験、定期試験として実施

講義スケジュール

- 第 1回 - 第3回 ことばをめぐる諸問題、記号としての言語、言語と精神、言語と文化
- 第 4回 世界の諸言語…言語類型論
- 第 5回 近代言語学の成立…ソシュール以前と以後
- 第 6回 構造主義と言語学、アメリカの行動主義言語学
- 第 7回 - 第8回 チョムスキーの言語理論
- 第 9回 言語の相対性と普遍性
- 第10回 言語社会学
- 第11回 言語と民族、国家
- 第12回 言語と価値(イデオロギー)
- 第13回 - 14回 言語と現代社会…多元価値社会と言語
- 第15回 まとめ

テキスト

児玉 徳美・山口 幸二編 『ことばと人間と社会と』京都修学社

参考書

- 田中 克彦 『言語学とは何か』岩波新書
- P・トラッドギル、土田 滋訳 『言語と社会』 岩波新書
- 井上 ひさし 『国語元年』 新潮文庫

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

## 考古学 S

13142

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 和田 晴吾

講義内容・テーマ

水稲農耕社会の定着と古代国家の形成

この講義では、日本列島に初めて本格的な水稲農耕社会が出現してから、長い国家形成期間を経て、本格的な古代国家形成に至るまでの歴史過程を概説する。弥生・古墳・飛鳥時代が中心となる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

熱心な聴講を期待する。

評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施

講義スケジュール

- 1 ~ 3回目 考古学の方法論
- 4 ~ 6回目 弥生時代
- 7 ~ 11回目 古墳時代
- 12 ~ 14回目 飛鳥時代
- 15 回目 まとめ

途中でビデオやスライドを用いる。

テキスト

なし。

参考書

講義中適宜指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 岸田 秀樹

講義内容・テーマ

外国の日本観察者の中には「日本人は宗教に無節操である」という見解がよく見られる。たしかに思い当たる節がないではない。しかし、だからと言って、日本には多数の宗教がバラバラに存在しているだけ、あるいはそもそも日本には宗教は存在しないとは言えないであろう。と言うのは、阪神大震災などの諸々の危機に直面した時、市民なら誰でも一致することのできる感情・見解が垣間見られることがなかったであろうか。

この講義では、このわれわれの共同感情・見解にアプローチするため、社会学的方法に基づいて「宗教の定義」を検討し、「日本人は人間の死と誕生をどのようにとらえ、どのように対処してきたのか」という問題を取り上げ、深めてゆきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法にもかわるが、受講する中で関心をもった事象、論点について諸他の見解を検索してみることをお勧めする。そうしたことを念頭におくなら、図書館の利用方法については習熟する必要があると思います。

評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

\*日常点:加味する

レポート:講義で提起する諸論点について関連資料・文献の検索、紹介、検討を行ってもらう。書式等の要綱は講義の節目・節目にアナウンスする。適確かつ簡潔な文章を書く能力を要求します。

日常点:講義の妨げとなる行為が発見された場合、その行為者に警告を発し、改善がないようだと最終的にレポート受領を拒否する場合があります。

講義スケジュール

- 1 日本人は宗教的に無節操か。
- 2 宗教とは何か。1)国民社会を構成する文化要素としての宗教。
- 3 2)宗教現象の識別.....聖俗二元論。
- 4 日本のお寺にはなぜ墓地があるのか。
- 5 1)問題設定、墓とはなにか.....儀礼の対象はお骨か、霊魂か。
- 6 2)仏教「四聖諦」.....補論;中道としての仏教。
- 7 3)ヒンドゥ・仏教文化圏の死体の扱い。
- 8 4)インドにおける葬送(ビデオ)
- 9 5)儒教の宗教性と墓。
- 10 6)日本の仏教・儒仏融合。
- 11 産育習俗における宗教的局面。
- 12 1)妊娠・出産事情における急激な変化。
- 13 2)伝統的習俗:産婦の空間的隔離 別火生活、産小屋。
- 14 3)空間的隔離の例外事例の検討。
- 15 4)産婦の時間的隔離.....外忌みと内忌み。
- 16 5)産小屋の宗教的意味。
- 17 以上のまとめ、現代個人主義文化との関連。

テキスト

テキストは特に定めない。講義に使用する文献については、講義の中でなるべくレビューする予定である。

なお、この講義の骨格については『社会学フォーラム・落ち着かない私と社会』第12章「死と誕生から見た日本の宗教」を参照してください。

参考書

『宗教生活の原初形態』E.デュルケム著、岩波文庫

『デュルケム宗教社会学論集』同上、行路社

『沈黙の宗教・儒教』加地伸行著、ちくまライブラリー

『母性を問う』脇田晴子編、人文書院 など

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他



|     |    |       |
|-----|----|-------|
| 心理学 | S  | 12273 |
| 心理学 | SG |       |
| 心理学 | S  |       |

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1回生  
 担当教員 齋藤 憲一郎

#### 講義内容・テーマ

テーマ:「心理学の研究方法について」人は誰でも人の心を理解したいと思うことがある。しかし、そのためにはどうすればよいのか。どのような方法をとるべきなのか。人の心を体系的に理解しようとした心理学は、どのような方法をとってきたのか。心理学は、科学的客観的に人の心を明らかにすることを目指して19世紀末、哲学から独立した。科学的客観的方法で人の心を明らかにしようとしてきたのだ。その方法は一般的な人の理解の仕方とはかなり異なるが、有効なのだろうか。なぜそのような方法をとることが重要視されてきたのだろうか。限界はないのか。本講義ではそれらを考察し「人を理解すること」を再考する。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講上の注意: 私語は他者への迷惑行為である。そのような行為を行う者には、退場を求める。

#### 評価方法・基準

\* 筆記試験: 定期試験として実施

\* 日常点: 加味する

評価は、講義期間中のレポートと期末テストによる。細かい知識よりも、自分の言葉で自分の考えをまとめられているかどうか重点をおいて評価を行う。

#### 講義スケジュール

1. はじめに
2. 「心」探求の歴史と心理学の登場
3. 心理学史にみる心理学の対象と方法
4. 心理学史にみる心理学の対象と方法
5. 心理学における客観性
6. 具体的方法の概観
7. 具体的方法の概観
8. 客観的方法としての実験
9. 客観的方法としての実験
10. 客観的方法としての実験
11. 客観的方法としての実験
12. 客観性を保証する統計的検定
13. 客観性を保証する統計的検定
14. 心理学方法論再考
15. 心理学方法論再考

#### テキスト

使用しない。

#### 参考書

適宜紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他



授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 遠藤 保子

### 講義内容・テーマ

スポーツは、社会のは反映であり、社会の発展と変容にかかわる社会的事実でもある。こうしたスポーツの意味は、時代と場所によって変化するため、スポーツの概念も多岐にわたり、さまざまな定義をすることが可能である。そこで、この講義で人類の誕生とともに行われてきたスポーツの歴史をひもときながら私たちにとってスポーツとは何かを考えたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業は、テキスト教材を中心に行うが、適宜プリントを配布し視聴覚教材も使用する。

### 評価方法・基準

- \*レポート:試験に代わるレポートとして実施
  - \*日常点:加味する
- 評価は、期末テストおよび出席点も考慮し総合的に行う。

### 講義スケジュール

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 初めの豊かな社会におけるスポーツ(1)
- 第3回 初めの豊かな社会におけるスポーツ(2)
- 第4回 古代のスポーツ(古代オリンピックを中心に)
- 第5回 古代オリンピックと近代オリンピックの比較
- 第6回 前近代のスポーツ(1)
- 第7回 前近代のスポーツ(2)
- 第8回 近代のスポーツ
- 第9回 スポーツの個別史(1)
- 第10回 スポーツの個別史(2)
- 第11回 スポーツの個別史(3)
- 第12回 スポーツの個別史(4)
- 第13回 後近代のスポーツ
- 第14回 まとめと討論
- 第15回 閉講

### テキスト

稲垣正浩・谷釜了正編・著1995『スポーツ史講義』大修館書店、東京

### 参考書

授業中に紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 小石原 美保

### 講義内容・テーマ

20世紀は「スポーツの世紀」とも言われている。21世紀を迎え、今後スポーツはどのような意味づけがなされていくのであろうか。文化のなかにスポーツの占める位置についてその歴史的背景を知る必要がある。本講義では、スポーツを広い意味での身体文化にとらえ、古代から中世、近代を経て現代に至るまで、それぞれの時代において身体、および身体活動にいかなる意味が付与されてきたかを概観する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義は原則としてシラバスに沿って行うが、講義の状況に応じて変更することもありうる。その場合は受講生への周知と了解をとることにする。

### 評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

定期試験を基本とする。数回に1度の割合で講義のなかで受講生に書いてもらうミニレポートも日常点として加味し、評価に組み入れることにする。

### 講義スケジュール

- 1 古典、古代の身体観
- 2 古代オリンピックと身体文化
- 3 古代オリンピックをめぐる言説
- 4 日本の伝統的身体技芸(1)
- 5 日本の伝統的身体技芸(2)
- 6 中世の身体観(1)
- 7 中世の身体観(2)
- 8 近代スポーツの誕生(1)
- 9 近代スポーツの誕生(2)
- 10 近代スポーツの誕生(3)
- 11 スポーツ文化の伝播と受容(1)
- 12 スポーツ文化の伝播と受容(2)
- 13 スポーツ文化の伝播と受容(3)
- 14 スポーツ文化の伝播と受容(4)
- 15 最終講義日試験

### テキスト

テキストは使用しない。講義のなかで参考となりうる文献をその都度紹介する。

### 参考書

A. グットマン『スポーツと帝国』昭和堂  
A. グットマン『スポーツとエロス』柏書房  
松井良明『近代スポーツの誕生』講談社現代新書  
ほか

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 遠藤 保子

講義内容・テーマ

スポーツは、社会のは反映であり、社会の発展と変容にかかわる社会的事実でもある。こうしたスポーツの意味は、時代と場所によって変化するため、スポーツの概念も多岐にわたり、さまざまな定義をすることが可能である。そこで、この講義で人類の誕生とともに行われてきたスポーツの歴史をひもときながら私たちにとってスポーツとは何かを考えたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業は、テキスト教材を中心に行うが、適宜プリントを配布し、視聴覚教材も使用する。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

評価は、期末テストおよび受験感想文をみて総合的に行う。

講義スケジュール

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 初めの豊かな社会のスポーツ(1)
- 第3回 初めの豊かな社会のスポーツ(2)
- 第4回 古代のスポーツ(古代オリンピックを中心に)
- 第5回 古代および近代オリンピックの比較
- 第6回 前近代のスポーツ(1)
- 第7回 前近代のスポーツ(2)
- 第8回 近代のスポーツおよび小テスト
- 第9回 スポーツの個別史(1)
- 第10回 スポーツの個別史(2)
- 第11回 スポーツの個別史(3)
- 第12回 スポーツの個別史(4)
- 第13回 後近代のスポーツ
- 第14回 まとめと総合討論
- 第15回 閉講

テキスト

稲垣正浩・谷釜了正編著1995『スポーツ史講義』大修館書店

参考書

授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 小石原 美保

### 講義内容・テーマ

20世紀は、「スポーツの世紀」とも言われている。21世紀を迎え、今後スポーツはどのような意味づけがなされていくのであろうか。文化のなかにスポーツの占める位置についてその歴史的背景を知る必要がある。本講義では、スポーツを広い意味での身体文化にとらえ、古代から中世、近代を経て現代に至るまで、それぞれの時代において身体、および身体活動にいかなる意味が付与されてきたかを概観する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義は原則としてシラバスに沿って行うが、講義の状況に応じて変更することもありうる。その場合は受講生への周知と了解をとることにする。

### 評価方法・基準

\*筆記試験:最終講義日試験で実施

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

\*日常点:加味する

最終講義日試験を基本とする。数回に1度の割合で講義のなかで受講生に書いてもらうミニレポートも日常点として加味し、評価に組み入れることにする。

### 講義スケジュール

- 1 古典、古代の身体観
- 2 古代オリンピックと身体文化
- 3 古代オリンピックをめぐる言説
- 4 日本の伝統的身体技芸(1)
- 5 日本の伝統的身体技芸(2)
- 6 中世の身体観(1)
- 7 中世の身体観(2)
- 8 近代スポーツの誕生(1)
- 9 近代スポーツの誕生(2)
- 10 近代スポーツの誕生(3)
- 11 スポーツ文化の伝播と受容(1)
- 12 スポーツ文化の伝播と受容(2)
- 13 スポーツ文化の伝播と受容(3)
- 14 スポーツ文化の伝播と受容(4)
- 15 最終講義日試験

### テキスト

テキストは使用しない。講義のなかで参考となりうる文献をその都度紹介する。

### 参考書

A. グットマン『スポーツと帝国』昭和堂  
A. グットマン『スポーツとエロス』柏書房  
松井良明『近代スポーツの誕生』講談社現代新書  
ほか

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 前期 単位数 2 担当回生 1回生のみ

担当教員 長崎 孝  
ANJA HOPF  
久津内 一雄  
文 楚雄  
仲井 邦佳  
嚴 敬俊

#### 講義内容・テーマ

この授業ではドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、朝鮮語の五つの言語とそれらの言語を話す国の文化について、それぞれ3回ずつ講義する。外国語特に初修外国語を学習する意義や目的、各言語の現状や特徴、それらの言語を話す国の、歴史、文化、社会問題、日本とのかかわりなどを学習する。この講義は国際化の観点から、異文化理解、多言語・多文化の共生、平和と共存などといったことの重要性を学生諸君に学ばせる。と同時にコース選択の参考にもなる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、朝鮮語の五つの言語を3回ずつインパクト的に講義するから、自分の選択する言語が決まっても、是非欠席せずに、他の言語をも聞いていただきたい。国際化の社会では多数の外国語を知るのは武器だよ。教室での私語は厳禁。他の人に迷惑をかける。ひいては他人の学習権を侵害することになる。

#### 評価方法・基準

- \* 筆記試験：定期試験として実施
  - \* 日常点：加味する
- 筆記試験による評価。配点は、講義内容の基礎知識の確認が六割、講義内容と関連した論述が四割。

#### 講義スケジュール

およそ次のような内容で授業を進めていく。(担当者の考えにより一部変更する場合がある。)

##### 講義1 初修外国語を学習する意義と目的

外国語を学習する意義や目的  
各初修外国語を学習する重要性や目的  
異文化理解を深めると同時に、自国の文化への理解をも深める視点  
外国語、とくに初修外国語を勉強する勉強法など  
立命館大学における初修外国語履修システムや環境について

##### 講義2 各初修外国語の言語的な特徴

それぞれの初修外国語の文字、発音、語彙、文法などの基本的な特徴。  
それぞれの言語が使われている国や地域の人口、地理、自然環境などの特徴。

##### 講義3 各初修外国語を話す国や地域の文化と社会

それぞれの言語を話す国や地域の歴史的・文化的・経済的・社会的な事情など。  
話題となっている現代社会の現象。  
歴史的、文化的、経済的、日本とのかかわりなど。  
後期から始まる各初修外国語の授業運営。  
試験について

#### テキスト

授業時プリントを配布する。

#### 参考書

- 『外国語をどう学んだか』(講談社現代新書)。
- 『外国語上達法』(千野栄一、岩波書店)
- 『外国語学習の視点 多言語・多文化の学習をめざして』(横田勉、リーベル出版)

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 向井 俊彦

### 講義内容・テーマ

世界観と認識論の学問としての哲学入門

この授業では、哲学史を学ぶよりも、問いを立て、議論し、考えを吟味する、そういう仕方で、私達に当然疑問になるような問題(例えば、世界は本当は何なのか、自分の人生の処し方はこれでいいのか、など)を直接に考えようとしています。が、今回は、町田宗鳳氏の『野性』の哲学―生き抜く力を取り戻す』をテキストとします。生きる力ということが、現在、(大学以前も含めて)教養教育の大きな課題となっていると考えるからです。担当者は西洋哲学が専門で、野性 的人間像としてあげられる人物については、これから勉強するところですが、著者(お呼びするわけではありません)と議論するというスタイルの講義とする予定です。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

レポートと若干の平常点

### 講義スケジュール

第1回 大学で学ぶとは何か、教養とは何か、簡単に解説し、14回の授業の進め方を説明します。

第2回 芥川龍之介『藪の中』をめぐって。

第3回 哲学とはどういう学問か、世界観と認識論について一般的な解説をします。

第4回 テキスト第1章 人間という自然現象

第5回 テキスト第2章 文明社会と 野性

第6～12回 テキスト第3章 野性 的人間像を求めて

1, 織田信長の決断力 2, 坂本龍馬の行動力 3, 円空の造形力 4, 宮澤賢治の想像力 5, 松下幸之助の直感力

第13回 テキスト第4章 野性 が創る日本の未来像

第14・15回 テキストが終れば、認識論について(とくに知覚と因果性を中心に)

授業の方法: 講義形式 テキストに沿ってすすめます。毎回感想文を書いてもらいます。

### テキスト

町田宗鳳著『野性』の哲学―生きぬく力を取り戻す』ちくま新書

### 参考書

門脇厚司著『子どもの社会力』岩波新書

阿部謹也著『世間』とは何か』講談社現代新書

中村雄二郎著『問題群』岩波新書

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 平尾 昌宏

### 講義内容・テーマ

さまざまな科学はそれぞれに特定の対象、研究の方法を持ちますが、それらすべての母体となった哲学の場合には何を扱うかも、その方法もまったく自由です。そこで、哲学を学ぶには、哲学者たちが何を考えてきたかを見てゆく哲学史的方法と、様々な問題に焦点を当てて考えてゆく方法とが考えられます。ここでは後者のやり方を取り、しかも、問題を絞ってみました。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特に予備知識は必要としません。

### 評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

基本的には筆記試験によります。内容は、講義からの出題(主に知識を問う問題)と、自由な論述です。

その他に、講義中に感想・意見を書いてもらい、成績評価の際に加味することがあります。

### 講義スケジュール

まず「哲学とは何か」についてお話しし、その後、本論として、「悪の問題」をテーマとして、哲学の歴史を辿りながら考えてゆくことにします。

その際に主に取り上げる哲学者は、

- 1 プラトン、
- 2 アリストテレス
- 3 アウグスティヌス
- 4 デカルト
- 5 スピノザ
- 6 ライブニッツ
- 7 カント
- 8 シェリング

です。こうした哲学史的な考察から、悪の問題について体系的な考察(悪と人間、悪と自由、悪と神など)も同時に行う予定にしています。

### テキスト

特定のもの是指定ませんが、哲学史の教科書を手元に置くといいでしょう。どんなものがよいかは講義中に紹介します。

### 参考書

必要に応じて講義のなかで紹介いたします。出来れば、参考文献の一覧を配布する予定ですので、それを見て下さい。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

学問は本質的にITとは相容れませんが、現在のところまともなウェブ・ページもそんなにありません。

### その他

文化人類学 GA  
文化人類学入門 SA

11785

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 鈴木 清史

#### 講義内容・テーマ

世界にはさまざまな民族が生活しており、かれらは固有の生活様式を有している。文化人類学では、こうした民族の個別研究を積み重ね、比較することによって人間とは何かを考えようとしている。本講義は文化人類学入門であり、この分野の基本的な考え方や概念を事例を用いて紹介する。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

#### 評価方法・基準

出席・レポート・期末試験などで総合的に判断する。

#### 講義スケジュール

講義で取りあげる予定のテーマは以下の通りである。

- 1) 文化人類学とは何か
- 2) 人類の起源と進化
- 3) 環境と人間
- 4) 生業の諸相
- 5) 文化・社会そして個人
- 6) 社会組織 1
- 7) 社会組織 2
- 8) 世界観
- 9) 言語
- 10) まとめ

理解を深めてもらうために、視聴覚教材も積極的に用いる予定である。

講義形式である。資料は適宜配布する予定。

#### テキスト

とくに指定しない。

#### 参考書

鈴木清史『都市のアボリジニ 抑圧と伝統のはざままで』明石書店

鈴木・山本編『装いの人類学』人文書院

鈴木・山本編『装いの人類学』人文書院

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他



文化人類学 GB  
文化人類学入門 SB

11894

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 鈴木 清史

#### 講義内容・テーマ

世界にはさまざまな民族が生活しており、かれらは固有の生活様式を有している。文化人類学では、こうした民族の個別研究を積み重ね、比較することによって人間とは何かを考えようとしている。本講義は文化人類学入門であり、この分野の基本的な考え方や概念を事例を用いて紹介する。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

#### 評価方法・基準

出席・レポート・期末試験などで総合的に判断する。

#### 講義スケジュール

講義で取りあげる予定のテーマは以下の通りである。

- 1) 文化人類学とは何か
- 2) 人類の起源と進化
- 3) 環境と人間
- 4) 生業の諸相
- 5) 文化・社会そして個人
- 6) 社会組織 1
- 7) 社会組織 2
- 8) 世界観
- 9) 言語
- 10) まとめ

理解を深めてもらうために、視聴覚教材も積極的に用いる予定である。

講義形式である。資料は適宜配布する予定。

#### テキスト

とくに指定しない

#### 参考書

鈴木清史『都市のアボリジニ 抑圧と伝統のはざままで』明石書店

鈴木・山本編『装いの人類学』人文書院

鈴木・山本編『装いの人類学』人文書院

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 門屋 秀一

### 講義内容・テーマ

「どのようにすれば人間は善く生きることができるのか」ということを永遠の根本問題にする倫理学について、その基礎的な知識と考え方を初学者・入門者向けになるべく平易に説明し、学生諸君の教養豊かな人格の形成に資するつもりである。倫理学には新しい分野として応用倫理学もあるけれども、本講義ではむしろいわゆる伝統的古典的な倫理学(プラトン、アリストテレス、カント、ヘーゲル)を取り上げ、各論証方法を参照することによって人間にとって根本的な思考のあり方とはいかなるものか、理論の構築術とはどうあるべきか、を概説する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

出席率50%以上を期末試験受験の最低条件とする。

### 評価方法・基準

\*筆記試験:最終講義日試験で実施

\*日常点:加味する

期末試験40%

出席状況60%

小レポート +

### 講義スケジュール

以下の流れで行う。

序論 倫理学と哲学

本論

第1章 プラトンの倫理学

第2章 アリストテレスの倫理学

第3章 カントの倫理学

第4章 ヘーゲルの倫理学

講義の中では、四者の説をただ羅列するのではなく、相互の思想的連関をできるだけ明らかにしていきたい。

### テキスト

有福孝岳編『エチカとは何か』(ナカニシヤ出版、一九九九年)

### 参考書

有福孝岳著『行為の哲学』(情況出版)、F.カウルバツハ著・有福孝岳監訳『行為の哲学』(勁草書房)、門屋秀一『カント第三批判と反省的主観性』(京都大学学術出版会)、その他

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

平素地道に努力している学生を落とさないため、出席は重視する。大学も実社会も根本的なルールはまったく同じでなければならないと思うからである。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 伊勢 俊彦

### 講義内容・テーマ

本講義では、言語の形式的な論理規則ではなく、言語が意味する内容を含めた言語規則について考えていく。テーマは、「我々は、言語規則にどのように従っているか」という問題である。この問題に関して、「我々が言語規則に従っているという事実は存在しない。つまり言語規則は存在しない。よって言語は無意味である」という「規則のパラドックス」が提出された。講義では、この驚くべき「パラドックス」を導き出した議論は間違いであるということ、だがこの議論にはある意義があるということを明らかにしていきたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

試験(またはレポート)

### 講義スケジュール

### テキスト

テキストは使用しないが、次の本を参考文献として挙げておく。  
ウイゲンシュタイン『哲学探究』(ウイゲンシュタイン全集・大修館書店)  
クリプキ『ウイゲンシュタインのパラドックス』(産業図書)

### 参考書

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

講義は全体を通して一つの流れを形成するので、全ての講義に出席することが望ましい。専門的な話になることもあるが、専門的知識を前提としない、出来るだけ分かりやすい説明を心がけるつもりである。一方的な講義ではなく、講義の内容について出席者諸君と討論をしていきたいと考えている。出席者諸君の哲学的偏見にとらわれない意見を期待している。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回数 1回生  
担当教員 小松 史朗

### 講義内容・テーマ

本講では、現代企業の経営システム・経営法則の基本について、主に経営学・経済学の理論をベースとして概説する。講義内容は、コーポレートガバナンス、経営組織論、経営戦略論、人事労務管理論、生産管理論、財務管理論と広範に及ぶが、レジュメや資料を充実させることによって、受講者の理解を促進させる。

また、講師は、現代企業における事例を豊富に取り入れながら分かり易く説明するよう努める。受講者には、講義を通して企業経営についての基礎知識を固めるのと共に、現代企業の在り方についての独自の「観点」を養うことを期待する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講条件は特に設けない。講師は、初学者にも理解できるように講義することを心がける。ただし、講義中の私語、携帯電話の使用、飲食等、他の受講者の迷惑となる行為を取る者に対しては、厳しい態度で臨む。

### 評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施

\*日常点：加味する

主に定期テストの結果によって評価する。

定期テストでは、あらかじめ指定した課題に基づいて論述回答して頂く。持ち込みは一切不可とする。

### 講義スケジュール

- 第1講 企業経営に関する基礎知識  
(企業とは何か、企業の種類、株式会社の仕組み、企業における資金調達など)
- 第2～3講 コーポレートガバナンスの概要  
(企業統治の諸形態、日本型メインバンクシステムの生成・特質、企業集中運動、戦略的提携、企業の社会的責任など)
- 第4～5講 経営戦略の概要  
(経営戦略とは？、経営理念・経営計画と経営戦略、アンゾフの経営戦略論、PLC理論、PPMなど)
- 第6～7講 経営組織の概要  
(「個人と組織」：アメリカ管理論史の概説(テイラーシステム、人間関係論、バーナード理論など) )  
(「戦略と組織」：経営組織の諸形態、チャンドラー理論、事業部制組織の特質と限界、SBU、マトリックス組織、プロジェクトチームなど)
- 第8～10講 日本の雇用慣行・人事労務管理の概要  
(産業技術革新・労働市場・労使関係から見た日本の経営雇用慣行・人事労務管理の特質とその生成過程、転換期における日本の雇用慣行・人事労務管理・労働市場)  
(年功賃金制から能力主義賃金管理へ、非正規雇用の拡大、専門職制、企業内教育訓練制度、CDP、キャリアパス、目標管理、労働法など)
- 第11～13講 生産管理・生産システムの概要  
(生産システムとは？、生産形態と生産管理、QC・TQC・TQM、サプライチェーン・マネジメント、購買管理の潮流など)  
(トヨタ生産方式の仕組みと日本の特質)
- 第14講 財務管理の概要  
(財務管理とは？ 資金調達と財務戦略、貸借対照表・損益計算書の見方、損益分岐点分析など)

講義の進行状況により、上記の講義スケジュールに若干の変更の可能性があることは予めご了承下さい。

### テキスト

青木三十一『入門の入門 経営のしくみ(最新版)』日本実業出版社、2001年  
(衣笠キャンパス・生協書籍部に発注済み)

### 参考書

武藤泰明『日経文庫 ビジュアル経営の基本(新版)』日本経済新聞社、2002年  
その他、講義時にトピックごとの参考文献リストを配布する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

<http://member.nifty.ne.jp/mbon/j-management.htm>(「日本の経営を論じている文献一覧」)

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 守屋 貴司

### 講義内容・テーマ

本講義では、まず、日本における企業と社会の関係を、「日本企業社会」というキーワードで説明をおこない、企業と国家の関係や企業と個人の関係について分析をおこないます。その上で、本講義では、学生諸君が実社会にでて働いてゆく上で必要な「企業や企業経営とは何か」という基本的問題から「近年の企業経営における成果主義人事制度導入実態やリストラの現状」、「中小企業におけるアウトソーシング」といったアップトゥデイトな話題まで紹介してゆき、企業レベル・産業レベルの「企業と社会」の関係について見ていきます。また、21世紀の日本における「企業と社会」の新しい関係のあらわれとして、女性の社会進出とNPO・NGOやコミュニティビジネスの台頭を紹介してゆきます。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

文学部・産業社会学部で、今後、企業に就職を希望する諸君やNPO・NGOに就職を考えている諸君、企業と社会の歪みのあらわれであるナイローゼなどに対処する産業カウンセラーなどを志望する諸君に、特に本講義をおすすめします。

### 評価方法・基準

- \* 筆記試験：定期試験として実施
  - \* レポート：試験に代わるレポートとして実施
- 評価方法は、テスト(70点)とレポート(30点)によっておこないます。

### 講義スケジュール

- 第1回 日本企業社会の変容
- 第2回 企業社会と個人
- 第3回 現代日本企業における人事管理制度改革の方向性
- 第4回 現代日本企業における退職管理制度の実態
- 第5回 自動車産業におけるリストラ問題
- 第6回 銀行業における成果主義人事制度の導入
- 第7回 過労死・過労自殺
- 第8回 アウトソーシングと中小企業
- 第9回 企業社会の変容と女性の就業意識
- 第10回 企業支援と雇用の男女平等
- 第11回 性別役割分業と男女共同参画社会
- 第12回 母親と職業人の両立のための環境整備
- 第13回 企業社会の変容とNPO
- 第14回 コミュニティビジネスにおけるリーダーシップ

### テキスト

浪江巖・木田融男・平澤克彦・守屋貴司編著  
『変容期の企業と社会 現代日本の再編』八千代出版、2003年

### 参考書

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

現代社会と法 S  
現代社会と法 SG

10627

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 本田 稔

### 講義内容・テーマ

21世紀は、私たちが社会の主人公になる時代であってほしいと思います。しかし、そのためには解決しておかなければならない社会問題がまだまだ数多く残されています。その解決方法の一つとして法律があるのであれば、私たちは法律の視点から考えてみたいと思います。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特にありませんが、ただ漫然と授業に出席しているだけでは問題関心ははぐくまれないでしょう。テキストは最小限のこしか伝えてくれません。日常的に新聞や書物を読み、友人と論じあうことに心がけてください。

### 評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

期末試験の成績に、出席点などの平常点を加えて評価します。必要に応じて、小テストなどを実施することもあります。

### 講義スケジュール

- 第1回 講義の目的など
- 第2回 身体障害者の人権状況
- 第3回 病気の人々の人権状況
- 第4回 精神障害者の人権状況
- 第5回 少数民族の人権状況
- 第6回 外国人の人権状況
- 第7回 「部落」の人々の人権状況
- 第8回 「ホームレス」の人々の人権状況
- 第9回 信教の自由と人権問題
- 第10回 性的マイノリティーの人権状況
- 第11回 子どもの人権状況
- 第12回 「犯罪者」の人権状況
- 第13回 男女平等と法律の課題
- 第14回 予備日
- 第15回 講義のまとめ

### テキスト

大谷恭子『共生の法律学(新版)』(ゆうひかく選書・有斐閣)

### 参考書

必要に応じて講義で紹介します。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

必要に応じて講義で紹介します。

### その他

特にありません。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 岡林 伸夫

### 講義内容・テーマ

われわれは「今の日本の政治をどう思うか」と問われて「理念がない」とか「関心がない」という答えを容易に返す。そのくせそれを「国民性」や「文化」のせいにして、あげくには「日本は単一民族国家」という虚偽でしかない奇妙な「国家意識」を気づかぬところで豊富に持ち合わせていたりする。皮肉な言い方をすれば、大量の無関心や奇妙な「国家意識」を作り出したことに現代の日本政治における最大の「成功」(少なくとも利権政治家は安泰だ)があるのかもしれない。もとより政治は国民の意識を作り、その国民の意識が政治を動かすからである。本講では戦後から現在にいたる日本の政治社会を、「国民」の政治・社会意識(あり方とその変動)の側から論じることを試みることにする。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

定期試験を行う。ただし講義内容を頭に逐一詰め込むよりも、そこから受講生自身が何を考え日本の政治像・国家像に問いかけるかを重要な評価のポイントとする。

### 講義スケジュール

- 1 はじめに 講義内容・諸注意・参考文献など
- 2 「国民」とはなにか 「日本人」と「国民」の間
- 3 「国民」の形成
- 4 「文化」と「民族」の意識
- 5 戦後政治の前史1 明治から大正へ
- 6 戦後政治の前史2 第2次大戦まで
- 7 戦後政治の出発 占領から朝鮮戦争へ
- 8 戦後出発期の国民意識
- 9 戦後政治の転回 朝鮮戦争から高度成長へ
- 10 高度成長期の国民意識
- 11 戦後政治の腐乱 経済大国から経済摩擦へ
- 12 経済大国期の国民意識
- 13 戦後政治の臨終? 国際化からバブル崩壊へ
- 14 国際化期の国民意識
- 15 まとめ 残された問題  
(ただし以上はあくまで予定であって、そのとおりに進行するかどうかまったく保証しない。)

### テキスト

特定のテキストは使用しない。

### 参考書

講義当初にリストを配布し解説する予定。その他講義中に随時紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他



授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生以上

担当教員 福岡 政行

講義内容・テーマ

2003年という"今"の日本政治のメカニズムを分析し、その実像を描出してゆく。現場主義(フィールドワーク)を研究の中心的視座に置いているので、現状分析の中から問題を明らかにしてゆく。政治学は時として(古典的な表現)マスターサイエンスと呼ばれるが、実在する状況から出発しなければ意味がない。若い学生にとって、政治・マスメディア・日々のニュースに興味を持てるような方向を考えている。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

政治は、あらゆる隣接領域と関連している。政治経済であり、政治心理学であり、あるべき論としての政治哲学でもある。今年は特に、政治と経済・政治的リーダーシップと世論、国際社会の中の日本、NGOボランティアも主要テーマとする。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

大学は"自主的研究"の場であると考えているので、出席はとらない。定期テストと中間での小レポート(1,000字)の2日で評価する。もちろん、大学での評価・成績は社会に出て何の意味も持たない。自分で何を感じるか、その場を提供することに主眼を置く。

講義スケジュール

## 第1講 政治(学)への序章

政治学は学問となりえるのか

"上手な政治"と"良い政治"はどう違う 政治のウラとオモテ

無党派相は"いい加減なのか"それとも歴史の変革者なのか

20世紀は数字を追い求めた時代

そして、奇麗事ですんだ世紀、それでは21世紀は?

政治(学)の目的は何なのか

## 第2講 総理大臣のリーダーシップと限界

歴代首相の特色と限界

首相公選制は実現するのか、大統領との違いは!?

トップリーダー・サブリーダー(No.2)・補佐官 権力のテーマとは

小泉首相の"自民党をつぶしてでも、日本を変える"事は出来るのか

権腐十年 北川知事の決断は何を意味するか

## 第3講 日本の政党の危機的状況

族議員・利益誘導の政治力学とは何か

自民党は何故、政権党(与党)に固執するのか?

"寄らば大樹文化"の日本では、健全野党は育たないのか

野中広務・古賀誠&amp;松下政経塾?

政党再編はどうなるか

## 第4講 日本の選挙と有権者

現行の選挙制度の特色と限界

日本の政治風土(政治文化)は、変化しつつあるのか?

平成の政治変動の主役は有権者だった

選挙予測・出口調査・シュミレーション

"静かなるレジスタンス"が始まっている

## 第5講 日本官僚制 官から民へは可能か

"官僚天国"とは何か! "知らしむべからず"という情報不開示の伝統!

日本という国の官僚天国の実態 財務省も外務省もどこもかしこも

タテ社会の権力構造 地方支配(中央集権)の実状

国と地方の公務員の現状

110万人の国家公務員で320万人の地方公務員 給与総額40兆円

"構造改革"は実現できるか 道路公団は郵政公社は!

## 第6講 予算を組めない日本の財政と経済

"2005年に日本は予算編成が出来ない"というのは本当か?

トリプルデフレ

1)資産デフレ 2)グローバルデフレ 3)チャイナデフレ

消費税はアップするのか

欧米平均17%、日本5%?

日本の三重苦 1)不良債権 2)ゼロ(マイナス)金利 3)デフレ  
右肩下がり時代の日本経済は再生出来るのか？

第7講 地方分権・市町村合併・行政改革

地方交付税17兆円 不交付団体約100市町村 どう分配されるのか  
3,200の自治体中1,100の過疎町村に、人工750万人、国土面積比49%  
横浜市人口350万人、富山村(愛知県)199人  
脱ダムの長野への田中改革派どうなるのか  
環境税への挑戦 三重県と杉並区

第8講 ゲストスピーカー "政治の現場から"

\*現場の国会議員、もしくは知事・市長、また政治部記者のレポート

第9講 メディアクラシー & テレビワイドショー政治

メディア接触 新聞もテレビ(地上波)もいらないのか  
テレビにおける視聴者至上主義とは？  
ワイドショー政治とは何を意味するのか 第4の権力論  
"北朝鮮報道"は何が問題なのか  
ジャーナリズムの責任とは何か

第10講 ゲストスピーカー(メディアの現場から)

現場のテレビプロデューサーやキャスターと意見交換

第11講 日本とアメリカ 外部環境

日本の外務省は北米局 アメリカ追従外交  
外務省キャリア 700名/6,000人中  
日米安保・日米パートナーシップ  
グローバルスタンダードとアングロサクソンスタンダード  
米軍基地と沖縄の現状

第12講 日本とアジア 外部環境

日中関係の今後 2005年オリンピック・2008年上海万博  
アジアにおける日本の"戦前"  
日本と朝鮮半島 韓国と北朝鮮  
拉致問題の今後  
アジアにおける日本の役割

第13講 NGO・NPOボランティア

NGOボランティアの学生(若者)、アフガンでカンボジアで頑張っている  
ジョンレノンの"Imagine"の意味  
ホームレスの子が"家に来てよ..." ???  
一本のパナナ・一片のチョコレート  
「キリングフィールド」の現場に立って

第14講 ゲストスピーカー NPOボランティアの現場からの報告

\*NPOの現場、NGOの現場からの報告を受け、ディスカッション

第15講 政治学を学んで、これからどうする！

"有権者の一票での改革" (尾崎行雄)  
"国・県・市町村は、必ずしも国民・住民の味方ではない" (中坊公平)  
"変える勇気" (福地茂雄 アサヒビール 代表取締役会長兼CEO)  
歴史は動かし、作るもの！待っていても何も変わらない  
"国民主権"を"民主主義"をもう1回考えてみよう

テキスト

インターネットの検索というお手軽な文章化や、わかったようなレポートは創造力と想像力をディスターブするので、テキストは基本的に用いない。

参考書

追って指示するが独自の判断

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

個々人で判断。暇ならいろいろ見る。

その他

やる気のある学生だけ受講して下さい。私語・メールは禁止・退場。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 木原 正樹

講義内容・テーマ

「国際化」によって、「法」すなわち「国際法と国内法」はどのようなのか。この問題を考えるために必要な基礎知識を学ぶ。具体的には、第一に、(一般的な)国際法と国内法との関係、第二に、国際人権法と憲法上の人権規定との関係、第三に、憲法第9条の基礎としての戦争違法化、という三分野の重要な国際判例を理解するため、必要な知識を学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

具体的な国際判例を取り上げつつ、その理解に必要な知識の講義を行う。

評価方法・基準

- \* 筆記試験: 定期試験として実施
  - \* 日常点: 加味する
- 試験期間中のテストを中心として、平常点を加味する。

講義スケジュール

- 一. 国際法と国内法との関係
  1. 国際法上、国内法を援用することの禁止: アラバマ号事件
  2. 慣習国際法の直接適用: シベリア長期抑留補償請求事件
  3. 条約の直接適用: ヘーグ陸戦条約三条損害賠償請求事件
- 二. 国際人権法と憲法上の人権規定との関係
  4. 先住少数民族の権利: 二風谷ダム事件
  5. 外国人の出入国と慣習国際法: マクリーン事件
  6. 犯罪人引渡しと死刑の存在: ソーリング事件
  7. 相対的政治犯の概念: 張振海事件
  8. 普遍主義に基づく犯罪人引渡し: ビノチェト事件
  9. 社会保障と平等権: 塩見事件
  10. 指紋押なつ制度と国際人権規約B規約の国内への適用
- 三. 憲法第9条の基礎としての戦争違法化、
  11. 武力不行使原則と集団的自衛権: ニカラグア事件(本案)
  12. 日本国憲法と自衛権: 砂川事件
  13. 原爆投下の違法性: 原爆判決

テキスト

山本草二、古川照美、松井芳郎編、『国際法判例百選』  
(別冊ジュリスト156号、2001年、有斐閣)  
田畑茂二郎他『ベーシック条約集』東信堂

参考書

松井芳郎、薬師寺公夫他編  
『国際法(第4版)』有斐閣Sシリーズ  
田畑茂二郎、竹本正幸、松井芳郎編  
『判例国際法』東信堂  
波多野里望他  
『国際司法裁判所 判決と意見』全2巻

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

国際司法裁判所判決については、<http://www.icj-cij.org>  
その他、[www.un.org](http://www.un.org)(国連HP)、[www.mofa.go.jp/mofaj/index.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/index.html)(外務省HP)

その他

一口に「国際化と法」といっても、国際化によって国内法が変化し、国際社会に影響を与える場合と、国際法が変化し、国内法に影響を与える場合があります。両者を区別して、理解してください。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 木原 正樹

講義内容・テーマ

世界の諸問題に国際社会がどのように取り組んでいるのかについて理解できるよう、国際連合を中心とする国際機関や、国家およびNGOの活動と法的側面を説明する。

そのなかで、現状の国際関係の問題と未来の国際関係の課題について考えていき、学生各自の意見が形成できることをめざす。

特に今回は、ニューヨーク同時多発テロ事件等を素材として、安全保障、民族自決、南北問題等の問題を考えることを中心とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

国際関係論を学ぶには経済的な側面も重要であるが、これは他の講義に譲る。本講義では、国際法および政治的側面から国際機構論を中心に学んで欲しい。

評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施

\*日常点：加味する

前期試験を最重視する。ここでは、現状の国際関係の問題と未来の国際関係への課題について押さえられているかどうかが基準となる。

次に小テストも実施し、平常点として評価する予定である。これは、そこまでの授業内容を理解しているかどうかで評価するものである。

さらに、授業中の発言も、平常点として加味する可能性がある。

講義スケジュール

0. イントロダクション
1. <国家と国際社会> 国際社会の成立、国際機構の歴史と機能
2. <国際連盟から国際連合へ> 連盟と国連の国際社会における役割
3. <国連の主要機関> 総会、安保理、国際司法裁判所、事務総長
4. <国連による安全保障> 集団安全保障、PKO、多国籍軍との協力
5. <同時多発テロへの報復> 集団的自衛権、安保理決議、多国籍軍
6. <民族自決、人権、難民> 歴史、人権の国際的保障、難民の保護
7. <テロ抑止と民族自決> 民族開放闘争とテロ、内戦、指導者の処罰
8. 復習、小テスト、ビデオ
9. <南北問題と経済協力> UNCTAD、ジェンダー
10. <南北問題と経済協力> NIEO、ジェンダー
11. <地球環境問題と開発> 環境開発会議、持続可能な発展、NGO
12. 復習、ビデオ

テキスト

関下稔、小林誠、山形英郎、南野泰義、森岡真史編

『プロブレマティク 国際関係』(東信堂)

参考書

家正治、川岸繁雄、金東勲編『国際機構(第三版)』(世界思想社)

家正治編『新版 国際関係』(世界思想社)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

[www.un.org](http://www.un.org)(国連HP), [www.mofa.go.jp/mofaj/index.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/index.html)(外務省HP),

[www.wto.org](http://www.wto.org)(WTO), [www.asil.org](http://www.asil.org)(米国国際法学会), [www3.oup.co.uk/ejilaw](http://www3.oup.co.uk/ejilaw)

その他

ニューヨーク同時多発テロ事件に象徴されるように、国際関係は、激動の時代にはなっています。

その時代に、自分の意見を持って生きていくために、この授業を活用して下さい。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 櫻井 純理

### 講義内容・テーマ

国際関係論が取り上げるテーマは多様であり、適用される理論や原理は非常に幅広い。本講義では、国際関係論の入門編として、政治・経済・社会・文化などの多様な領域をとりあげ、国際関係の基礎的な概念や知識を学ぶことを目的とする。国際情勢は日々変動しているので、時事的なトピックについて議論する時間も設けたいと考えている。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

国際関係論や国際問題に関するなんらかの興味、関心を持っていること。

### 評価方法・基準

\*筆記試験・定期試験として実施  
ベースは定期試験の成績(100点満点)によって評価する。  
プラスアルファとして、授業中に簡単なクイズを行ったり感想文を書いてもらったりする場合があります(講義期間を通じて1~3回)、各回5点程度を加点する。  
自主的にレポートを提出してもかまわない(A4ワープロ打ち、参考文献リスト付きで3~5枚)。内容に応じて5~20点の範囲で加点する。

### 講義スケジュール

- ・基本は講義スタイル。レジュメを毎回配布する(テキストの該当ページは適宜指示する)。
- ・ビデオ教材などの視聴覚教材も適宜使用する。
- ・クイズやゲーム形式で勉強する回もある。なるべく質問時間も設けたい。
- ・主な講義内容は以下。

- ・国連の安全保障体制と日米安保、日本の「国際貢献」
- ・冷戦後の地域紛争と大量破壊兵器の拡散問題
- ・人権の国際化、国連の人権保障レジーム
- ・貧困問題と日本の経済協力
- ・食糧問題と農業問題
- ・地球環境問題
- ・欧州統合と外国人問題、日本の外国人問題
- ・異文化コミュニケーションと文化摩擦

### テキスト

関下稔・永田秀樹・中川涼司編『クリティーク国際関係』(東信堂、2001年)。  
大学生協で購入可能。図書館にも数冊入っている。

### 参考書

高田和夫編『国際関係論とは何か』(法律文化社)、進藤榮一『現代国際関係学』(有斐閣)、朝日新聞社編『朝日キーワード国際』(朝日新聞社)など。いずれも図書館に収蔵。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

授業中に適宜紹介する。

### その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 菊井 禮次

講義内容・テーマ

テーマ:現代国際社会と日本の役割 真の国際貢献とは何か この講義では、現代国際社会の捉え方、国際社会での日本の位置と役割、これまでの日米関係などを考察することによって、90年代後期?21世紀初頭における日本国民の国際貢献はどう在るべきか、について学習を深め、受講生諸君が自らの知見を育てるための手掛かりを与えることを目標としている。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

日常的に新聞の国際欄に目を通し、国際問題への関心を高めることが、講義内容をより良く理解できる手立てとなる。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施  
期末定期試験の成績によって評価する。

講義スケジュール

|                                     |       |
|-------------------------------------|-------|
| 1.国際問題への関心 私の学生時代の経験から              | 講義回数1 |
| 2.「太平洋戦争」と「15年戦争」・「アジア・太平洋戦争」       | 2     |
| 3.現代国際政治の枠組み 主な見方と問題点               | 1     |
| 4.戦後国際政治の枠組みをどう捉えるか 戦前との対比          | 2     |
| 5.戦後日米関係の史的展開と安保体制 東西「冷戦期」から「脱冷戦期」へ | 4     |
| 6.戦前・戦後の日露(日ソ)領土関係と「北方領土」問題         | 2     |
| 7.21世紀初頭国際社会と日本の役割 国民から見た国際貢献       | 2     |

テキストに沿って講義を進めるが、必要に応じて、講義担当者と受講生との対話方式を採り入れながら、諸君の関心と知識欲を喚起してゆきたいと考えている。

テキスト

菊井禮次著『現代国際社会と日本の役割(改訂版)』(ミネルヴァ書房、2002年) 毎回、教室へ持参し、参照すること。

参考書

必読参考書として、メル・ガートフ著(菊井禮次訳)『グローバル・ヒューマンイズムの政治学 世界秩序転換のアジェンダ』(法律文化社、1992年)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生以上

担当教員 中谷 猛

### 講義内容・テーマ

私たちにとって「豊かさ」とは何か 個人の生き方 新聞を読んだりテレビなどをみていると、「市民」とか「市民社会」という言葉が「企業社会」や「消費社会」と並んでよく使われている。では「市民社会」とは何かと聞いてみると、いろいろな答えがかえってくる。日本には「アメリカ市民」という表現に等しい「日本市民」という言葉はまだない。「豊かな」市民とは一体何か、考えてみよう。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

新聞やテレビでの情報に関心を持ち、学習に取り組む意欲のある学生の受講を望む。

### 評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施  
期末テストによる評価

### 講義スケジュール

授業の流れ(スケジュール・内容等の計画) Schedule

- 第一講 日常に使っている「市民」という言葉について考えてみよう。「市民」と「公民」
- 第二講 日本国憲法には「市民」という言葉がないのはなぜか。「市民」と「国民」
- 第三講 1近代ヨーロッパの「市民社会」の歴史と思想をたどる(市民革命と18世紀)
- 第四講 2近代ヨーロッパの「市民社会」の歴史と思想をたどる(産業革命と19世紀)
- 第五講 日本の市民社会のあゆみ 近代化のゆがみをどのように考えるか(1945年の敗戦まで)
- 第六講 戦後社会と経済成長 新しい問題群の発生 公害・環境汚染・都市問題など。
- 第七講 具体例としての水俣病問題
- 第八講 1科学技術の発達と社会の変容(情報化と管理社会・人権問題など)
- 第九講 2科学技術の発達と社会の変容(消費社会と家族・労働観の変化など)
- 第十講 社会における意識の変化「一億総中流意識」と「中間層」問題
- 第十一講 グローバル化のなかの市民社会
- 第十二講 現代ヨーロッパの市民社会の諸相と問題群(EUの進展・移民問題・ナショナリズムなど)
- 第十三講 先進社会の豊かさと南北問題
- 第十四講 市民社会とボランティア、NPOとNGOについて
- 第十五講 まとめ

### テキスト

とくに指定しない。

### 参考書

講義レジュメに記載し、また講義のなかで必要な文献を紹介する。中谷・足立編『概説西洋政治思想史』(ミネルヴァ書房、1995)

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

新聞を読んだりテレビのドキュメンタリー番組などをみと講義の理解に役立つ。



授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 田中 裕喜

### 講義内容・テーマ

「教育学入門」

教育学といえば、何を教えるか、いかに教えるかという教育内容や教育方法についての論議をイメージする人が多いと思います。そういう内容を期待している人には、この授業は不向きです。

この授業では、教育とは何か、人が育つとはどういうことかを、根源的哲学的な水準において問うていきます。この過程は、自分自身の経験や身近な人とのかかわりについて、深く内省してもらうことをあなたに要請するでしょう。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

「参加型」の授業なので、専ら知識を吸収したい人や受け身姿勢の人には不向きです。自分の頭で徹底的に考え抜こうとする人、自分の内面を深く掘り下げていこうとする人の受講を望みます。

### 評価方法・基準

\* レポート: 試験に代わるレポートとして実施

\* 日常点: 加味しない

### 講義スケジュール

毎回の授業は大きく2つの部分から成り立ちます。前半はミニ・レポートの紹介です。このミニ・レポートについてはかなりの説明が必要ですから割愛しますが、受講生自身の身近なところこそ学問探究の種があるという、担当者の直観に基づくものです。後半は、担当者による講義です。人間の成長発達をめぐる根本的なトピックをできるだけ幅広く取り上げていきます。ここでも肝心なのは、知識を暗記することではなく、自分の内面を深く掘り下げ、徹底的に考え抜いていこうとする姿勢です。この姿勢を欠く人には、この授業は無益です。

### テキスト

使用しない予定です。必要に応じて、参考文献を紹介します。

### 参考書

逐次紹介します。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 草深 直臣

講義内容・テーマ

## 揺れ動く現代スポーツ

1984年のロスアンゼルスオリンピック以後、世界のスポーツは大きく様変わりし、ビジネス化・プロ化が急速に展開されている。その一方で、ビジネスにならないスポーツは、従来のスポンサーを失い、低迷をするとともに、国民の地域スポーツも見捨てられようとしている。現代スポーツを巡る諸問題を、いわゆる「アマチュアリズム」の崩壊に焦点を当てながら、グローバルな展開をするスポーツビジネスのなかでのドーピングや外国籍問題を取り上げる一方、地域スポーツの振興にとって不可欠なスポーツ政策のあり方に論究する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施  
定期試験による

講義スケジュール

- (はじめに)「スポーツの素人談義」
  - 「下手にさせられた歴史」
  - 「理屈抜きのスポーツ談義」
- (第1章)「近代アマチュアリズムの成立過程」
  - 前近代スポーツの身分制
  - 近代社会とギャンブリング・スポーツ
  - スポーツクラブとアマチュアリズム
  - 「炎のランナー」に見るアマチュア思想
- (第二章)戦後日本のスポーツ政策
  - 近代スポーツ理念とスポーツ政策の成立
  - 「東京オリンピック体制」の確立と問題点
  - 1970年代の地域スポーツ振興策の問題点
  - 地域スポーツ振興とスポーツ教室・スポーツチームの問題点
- (第三章)グローバル化の中のスポーツ問題
  - スポーツのビジネス化
  - スポーツ・イベントのビジネス化・プロ化とドーピング問題
  - ボーダレス化のスポーツ問題・タレント化とアマチュア資格
  - 企業チームの崩壊
  - 地域スポーツつくりとスポーツの大衆化・高度化の統一

テキスト

草深直臣ほか編集「現代・スポーツ・健康」(文理閣)の第1部を使用する。テキストにない部分については、適宜、レジュメを教室で配布する。

参考書

多木浩二「スポーツを考える」中公新書

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

スポーツ問題について考えることなど、これまでになかったであろう。しかし、スポーツが市民生活に浸透している今日、スポーツ文化を歪曲している原因を突き止め、創造発展の道筋を展望することが不可欠になっている。そのための基本的枠組みと方法を学ぶことが重要である。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 草深 直臣

講義内容・テーマ

## 揺れ動く現代スポーツ

1984年のロスアンゼルスオリンピック以後、世界のスポーツは大きく様変わりし、ビジネス化・プロ化が急速に展開されている。その一方で、ビジネスにならないスポーツは、従来のスポンサーを失い、低迷をするとともに、国民の地域スポーツも見捨てられようとしている。現代スポーツを巡る諸問題を、いわゆる「アマチュアリズム」の崩壊に焦点を当てながら、グローバルな展開をするスポーツビジネスのなかでのドーピングや外国籍問題を取り上げる一方、地域スポーツの振興にとって不可欠なスポーツ政策のあり方に論究する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施  
定期試験による

講義スケジュール

- (はじめに)「スポーツの素人談義」
  - 「下手にさせられた歴史」
  - 「理屈抜きのスポーツ談義」
- (第1章)「近代アマチュアリズムの成立過程」
  - 前近代スポーツの身分制
  - 近代社会とギャンブリング・スポーツ
  - スポーツクラブとアマチュアリズム
  - 「炎のランナー」に見るアマチュア思想
- (第二章)戦後日本のスポーツ政策
  - 近代スポーツ理念とスポーツ政策の成立
  - 「東京オリンピック体制」の確立と問題点
  - 1970年代の地域スポーツ振興策の問題点
  - 地域スポーツ振興とスポーツ教室・スポーツチームの問題点
- (第三章)グローバル化の中のスポーツ問題
  - スポーツのビジネス化
  - スポーツ・イベントのビジネス化・プロ化とドーピング問題
  - ボーダレス化のスポーツ問題・タレント化とアマチュア資格
  - 企業チームの崩壊
  - 地域スポーツつくりとスポーツの大衆化・高度化の統一

テキスト

草深直臣ほか編集「現代・スポーツ・健康」(文理閣)の第1部を使用する。テキストにない部分については、適宜、レジュメを教室で配布する。

参考書

多木浩二「スポーツを考える」中公新書

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

スポーツ問題について考えることなど、これまでになかったであろう。しかし、スポーツが市民生活に浸透している今日、スポーツ文化を歪曲している原因を突き止め、創造発展の道筋を展望することが不可欠になっている。そのための基本的枠組みと方法を学ぶことが重要である。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 山下 高行

### 講義内容・テーマ

本講義では、現代スポーツを取り巻く問題を概括的に論じることを目的とする。授業は日本社会の変化とともに現れてきているスポーツの問題を中心に論じるが、近代スポーツの本質にさかのぼった議論も展開するようにしたい。これらを通し最終的には、「創り手」としてスポーツに関わるにはどのようなことが考えられなければならないか、個々人が考えていく基盤を作るようにしたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業では適宜レポートを書くことを求めるが、それを通して自己の意見をまとめていって欲しい。

### 評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
- 授業でのレポートと講義後のレポート提出により評価する。

### 講義スケジュール

- 第1回イントロダクション: 本講義のねらいとすすめ方  
第2回～4回  
2. 日本社会の変化とスポーツ  
1) 70年代以降の地域スポーツの展開  
2) スポーツの産業化のもたらすもの  
スポーツ文化の変容  
スポーツの場の変化  
3) Jリーグの百年構想と地域  
第5回～8回  
3. 高度競技カススポーツに現れた変化  
1) モデルとしての東独  
2) 競技力形成のグローバル化  
第9回～12回  
4. 近代スポーツとは何か  
・近代スポーツの誕生と制度化の歴史  
・文明化論と近代スポーツ  
第13回～15回  
5. 現代社会の変容とスポーツの位置  
・グローバリゼーションの展開とナショナリズム  
・地域という場の意味変化  
・新しいアクターの登場とスポーツの持つ可能性

### テキスト

特に設けない。

### 参考書

適宜授業中指示する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

日本スポーツ社会学会ホームページ(4月よりアドレス変更予定。検索して開いてください)。

### その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 金井 淳二

講義内容・テーマ

冷戦体制が大きく変化してきている今日、政治・経済のあらゆる面で「市場原理」が強調されるような変化が生じている。そんな中で、スポーツを商品として捉え、その「消費的」価値を高めることにスポーツの社会的意味を見いだそうとする動きがある。その動向に視点をあて、スポーツの本質を探究しながら矛盾点を明らかにし、できあがった「商品」の単純な「消費者」にさせられないように、主体的「創造者」として現代のスポーツにどうかかわっていかを考えていく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

スポーツの理解にとっては、各自のプレイ経験から得られるスポーツ実感が重要である。その意味で、「スポーツ方法論」の受講を奨励したい。また、課外活動でのスポーツ経験なども自覚的に関連づけて理解を深めていって欲しい。

評価方法・基準

\*筆記試験・定期試験として実施

基本的には、定期試験の記述内容で評価する。可能ならば、適宜授業中に小テストを行い、その内容も加味する。評価に際しては、基本的な専門的用語を理解しているか否かを重視する。

講義スケジュール

次の大きな二つの領域で、各小項目それぞれ約1～3回の授業時間を充てる。

- ( )戦後社会の変化とスポーツの展開
  - 現代におけるスポーツを考える視点
  - 体育・スポーツの戦後改革
  - オリンピック主義スポーツの台頭
  - 高度成長期の政治・経済と国民スポーツ
  - 余暇社会論の中のスポーツ展開
  - 戦後スポーツの基本矛盾
- ( )近代から現代へのスポーツの発展と課題
  - スポーツはどのように文化になったか
  - 近代スポーツ成立の基礎条件
  - 優勝劣敗主義とフェアプレイ
  - 近代スポーツはなぜ「近代」か
  - オリンピックとアマチュアリズム
  - プロスポーツの現状と未来
  - 国民のスポーツ権をめざして

テキスト

特別なテキストは使用しないが、芝田徳造他編『(新版)現代・スポーツ・健康』(文理閣)をテキストに準じて利用する。

参考書

参考書は授業の中で随時紹介していく。とりあえず、伊藤高弘他編『スポーツの自由と現代(上・下)』(青木書店)、および大修館書店刊の「スポーツ文化シリーズ」を紹介しておきたい。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業時に適宜配布するレジメをもとにして、講義形式で展開する。レジメは当該授業時以外には配布しないので注意のこと。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回数 1以上

担当教員 草深 直臣

講義内容・テーマ

## 揺れ動く現代スポーツ

1984年のロスアンゼルスオリンピック以後、世界のスポーツは大きく様変わりし、ビジネス化・プロ化が急速に展開されている。その一方で、ビジネスにならないスポーツは、従来のスポンサーを失い、低迷をするとともに、国民の地域スポーツも見捨てられようとしている。現代スポーツを巡る諸問題を、いわゆる「アマチュアリズム」の崩壊に焦点を当てながら、グローバルな展開をするスポーツビジネスのなかでのドーピングや外国籍問題を取り上げる一方、地域スポーツの振興にとって不可欠なスポーツ政策のあり方に論究する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施  
定期試験による

講義スケジュール

- (はじめに)「スポーツの素人談義」
  - 「下手にさせられた歴史」
  - 「理屈抜きのスポーツ談義」
- (第1章)「近代アマチュアリズムの成立過程」
  - 前近代スポーツの身分制
  - 近代社会とギャンブリング・スポーツ
  - スポーツクラブとアマチュアリズム
  - 「炎のランナー」に見るアマチュア思想
- (第二章)戦後日本のスポーツ政策
  - 近代スポーツ理念とスポーツ政策の成立
  - 「東京オリンピック体制」の確立と問題点
  - 1970年代の地域スポーツ振興策の問題点
  - 地域スポーツ振興とスポーツ教室・スポーツチームの問題点
- (第三章)グローバル化の中のスポーツ問題
  - スポーツのビジネス化
  - スポーツ・イベントのビジネス化・プロ化とドーピング問題
  - ボーダレス化のスポーツ問題・タレント化とアマチュア資格
  - 企業チームの崩壊
  - 地域スポーツつくりとスポーツの大衆化・高度化の統一

テキスト

草深直臣ほか編集「現代・スポーツ・健康」(文理閣)の第1部を使用する。テキストにない部分については、適宜、レジュメを教室で配布する。

参考書

多木浩二「スポーツを考える」中公新書

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

スポーツ問題について考えることなど、これまでになかったであろう。しかし、スポーツが市民生活に浸透している今日、スポーツ文化を歪曲している原因を突き止め、創造発展の道筋を展望することが不可欠になっている。そのための基本的枠組みと方法を学ぶことが重要である。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回数 1以上

担当教員 草深 直臣

講義内容・テーマ

## 揺れ動く現代スポーツ

1984年のロスアンゼルスオリンピック以後、世界のスポーツは大きく様変わりし、ビジネス化・プロ化が急速に展開されている。その一方で、ビジネスにならないスポーツは、従来のスポンサーを失い、低迷をするとともに、国民の地域スポーツも見捨てられようとしている。現代スポーツを巡る諸問題を、いわゆる「アマチュアリズム」の崩壊に焦点を当てながら、グローバルな展開をするスポーツビジネスのなかでのドーピングや外国籍問題を取り上げる一方、地域スポーツの振興にとって不可欠なスポーツ政策のあり方に論究する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施  
定期試験による

講義スケジュール

- (はじめに)「スポーツの素人談義」
  - 「下手にさせられた歴史」
  - 「理屈抜きのスポーツ談義」
- (第1章)「近代アマチュアリズムの成立過程」
  - 前近代スポーツの身分制
  - 近代社会とキャンピング・スポーツ
  - スポーツクラブとアマチュアリズム
  - 「炎のランナー」に見るアマチュア思想
- (第二章)戦後日本のスポーツ政策
  - 近代スポーツ理念とスポーツ政策の成立
  - 「東京オリンピック体制」の確立と問題点
  - 1970年代の地域スポーツ振興策の問題点
  - 地域スポーツ振興とスポーツ教室・スポーツチームの問題点
- (第三章)グローバル化の中のスポーツ問題
  - スポーツのビジネス化
  - スポーツ・イベントのビジネス化・プロ化とドーピング問題
  - ボーダレス化のスポーツ問題・タレント化とアマチュア資格
  - 企業チームの崩壊
  - 地域スポーツつくりとスポーツの大衆化・高度化の統一

テキスト

草深直臣ほか編集「現代・スポーツ・健康」(文理閣)の第1部を使用する。テキストにない部分については、適宜、レジュメを教室で配布する。

参考書

多木浩二「スポーツを考える」中公新書

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

スポーツ問題について考えることなど、これまでになかったであろう。しかし、スポーツが市民生活に浸透している今日、スポーツ文化を歪曲している原因を突き止め、創造発展の道筋を展望することが不可欠になっている。そのための基本的枠組みと方法を学ぶことが重要である。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 伊藤 裕

講義内容・テーマ

宇宙を階層的に構成する諸天体、および宇宙全体について、その姿と時間発展を概観する。  
二つのクラスの授業内容は同じである。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施  
定期筆記試験を実施する。平常点を加味する可能性もある。

講義スケジュール

- 第1回 はじめに & 地球
- 第2回 月
- 第3回 太陽系
- 第4回 太陽面現象
- 第5回 太陽のエネルギー源
- 第6回 いろいろな恒星
- 第7回 星間物質と恒星の形成
- 第8回 恒星の進化
- 第9回 恒星の終末
- 第10回 私たちの銀河系
- 第11回 いろいろな銀河とその集団
- 第12回 宇宙の大規模構造 & 謎の暗黒物質
- 第13回 膨張する宇宙
- 第14回 宇宙の過去と未来
- 第15回 閉講

テキスト

なし。

参考書

比田井昌英ら「宇宙のデータブック」東海大学出版会。加藤万里子「新版・100億年を翔ける宇宙」恒星社厚生閣。野本陽代「続 ハッブル望遠鏡が見た宇宙」岩波新書691。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他



授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 伊藤 裕

講義内容・テーマ

宇宙を階層的に構成する諸天体、および宇宙全体について、その姿と時間発展を概観する。  
二つのクラスの授業内容は同じである。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施  
定期筆記試験を実施する。平常点を加味する可能性もある。

講義スケジュール

- 第1回 はじめに & 地球
- 第2回 月
- 第3回 太陽系
- 第4回 太陽面現象
- 第5回 太陽のエネルギー源
- 第6回 いろいろな恒星
- 第7回 星間物質と恒星の形成
- 第8回 恒星の進化
- 第9回 恒星の終末
- 第10回 私たちの銀河系
- 第11回 いろいろな銀河とその集団
- 第12回 宇宙の大規模構造 & 謎の暗黒物質
- 第13回 膨張する宇宙
- 第14回 宇宙の過去と未来
- 第15回 閉講

テキスト

なし。

参考書

比田井昌英ら「宇宙のデータブック」東海大学出版会。加藤万里子「新版・100億年を翔ける宇宙」恒星社厚生閣。野本陽代「続 ハッブル望遠鏡が見た宇宙」岩波新書691。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 北村 清

講義内容・テーマ

主としてこの百年のあいだに、化学という自然科学の一分野においてどのような新しい発見があり、どんな技術上の進歩があったかという切り口から、それらがどんなふうに入々の生活に、また産業、社会そして政治に影響をあたえてきたかをたどりながら、いたい科学とはなにか、そして化学とはどんな科学なのかをあらためて考えてみたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

中学校の理科(第1分野)がちゃんとやってあること。教科書または参考書を見つけ出しておくことを勧める。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

主として期末試験の成績によるが、平常点も若干(10%程度)は加味する。

講義スケジュール

- 第1週 イントロのイントロ:元素とはなにか。ルールとはなにか。
- 2 石器時代からたった50年前まで:エネルギー資源について(日本の電力事情を例に)
- 3 原発早わかり:核とは/中性子とは/臨界とは/ついでにマニュアルとは何だろう
- 4 エネルギー問題を理解するために:その1.ところでエネルギーとはなんだろう
- 5 その2.エネルギーの流れの方向:エントロピーのはなし
- 6 水の惑星地球/水はもっとも奇妙な物質である/水素結合のはなし
- 7 戦争と平和の双面神室素:アンモニアと硝酸/ナイロンと火薬
- 8 プラスチックの見分け方:高分子化学の誕生からペットボトルの氾濫まで
- 9 三種の神器からパールハーバーまで:鉄とアルミニウム
- 10 最も安価で最も大量に生産され使用されている化学物質:セメントとコンクリート
- 11 ムーランレージュは何を挽くための風車だったのか:硫黄の終末のすがた
- 12 一石二鳥の陥穽:塩素曹達(ナトリウム)工業
- 13 耕造と情報の担い手リン:ポーンチャイナと易とDNAのはなし
- 14 むすび:CHEMISTとはどんな職業か/化学とはどんな科学か
- 15 試験

テキスト

鈴木啓三著 エネルギー・環境・生命 - -ケミカルサイエンスと人間社会(化学同人)

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

科学技術史 GB  
科学技術史 GB

14711

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 宮下 晋吉

講義内容・テーマ

今日科学はよりマクロな宇宙空間へ、よりミクロなクォークへ、また生命の神秘へと発展し続けている。また、技術に応用されて日々の生活をますます便利にしている。その一方で環境ホルモンや人工化学物質による汚染、ヒトゲノム解読やクローン人間など生命倫理に関わる問題、薬害エイズ、原子力発電所の事故など、科学技術に関わる社会問題もつぎつぎに起きている。科学技術とは何か、今日あらためて問い直されている。そこで本講では、いくつかの最近の典型的な科学技術問題を取り上げて、科学技術史的に検討しながら、科学技術の歴史性、社会性を明らかにする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ビデオ教材や教材提示装置を用いてできるだけビジュアルな授業を行う。また毎回講義レジュメ、講義資料(図版、文献)などを教室で配布するがあくまで基本的部分に限るので、授業は毎回出席すること。なお、授業中に感想文、小レポートなどを実施することもある。

評価方法・基準

\* 日常点:加味する

成績評価は、教室内で提出する2回程度のレポートを中心に、その他感想文、小レポート等も加味して、平常点で行う。

講義スケジュール

- 第1週 世紀を越えて 豊かさの限界?人工化学物質の時代
- 第2週 環境ホルモンによる汚染を考える
- 第3週 環境ホルモン問題を考える コルボーン他『奪われし未来』を読む
- 第4週 「環境の世紀」の到来 カーソン『沈黙の春』を読む
- 第5週 ヒトゲノム解析 生命の世紀へ
- 第6週 ドリーからクローン人間へ? 「生命の世紀」はどこへ向かうか?
- 第7週 中間まとめ
- 第8週 薬害エイズをめぐる薬害エイズと人権、生きること
- 第9週 医学と医学者、医の倫理 ヒポクラテスから薬害エイズまで
- 第10週 薬害エイズの社会論 どうしたら薬害は根絶できるか
- 第11週 チェルノブイリで何が起きたか
- 第12週 チェルノブイリの真実 原子力開発と産業社会
- 第13週 マンハッタン計画(その1) 原爆開発はいかにして始まったか
- 第14週 マンハッタン計画(その2) 原爆開発、製造と投下はいかにしてなされたか、科学者の罪と抵抗
- 第15週 まとめ

テキスト

テキストに準じて、T.コルボーン他著『奪われし未来』(翔泳社、1997年)、R.カーソン『沈黙の春』(新潮文庫版、1962年)など。他は、適宜授業中に指示する。

参考書

随時授業中に指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

適宜授業中に指示する。

その他

必要な連絡、質問などは、原則として授業時、教室で受け付けます。授業終了時にどンドン私のところに来てください。

科学技術史 GC  
科学技術史 GC

15132

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 宮下 晋吉

講義内容・テーマ

今日科学はよりマクロな宇宙空間へ、よりミクロなクォークへ、また生命の神秘へと発展し続けている。また、技術に応用されて日々の生活をますます便利にしている。その一方で環境ホルモンや人工化学物質による汚染、ヒトゲノム解読やクローン人間など生命倫理に関わる問題、薬害エイズ、原子力発電所の事故など、科学技術に関わる社会問題もつぎつぎに起きている。科学技術とは何か、今日あらためて問い直されている。そこで本講では、いくつかの最近の典型的な科学技術問題を取り上げて、科学技術史的に検討しながら、科学技術の歴史性、社会性を明らかにする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ビデオ教材や教材提示装置を用いてできるだけビジュアルな授業を行う。また毎回講義レジュメ、講義資料(図版、文献)などを教室で配布するがあくまで基本的部分に限るので、授業は毎回出席すること。なお、授業中に感想文、小レポートなどを実施することもある。

評価方法・基準

\* 日常点:加味する

成績評価は、教室内で提出する2回程度のレポートを中心に、その他感想文、小レポート等も加味して、平常点で行う。

講義スケジュール

- 第1週 世紀を越えて 豊かさの限界?人工化学物質の時代
- 第2週 環境ホルモンによる汚染を考える
- 第3週 環境ホルモン問題を考える コルボーン他『奪われし未来』を読む
- 第4週 「環境の世紀」の到来 カーソン『沈黙の春』を読む
- 第5週 ヒトゲノム解析 生命の世紀へ
- 第6週 ドリーからクローン人間へ? 「生命の世紀」はどこへ向かうか?
- 第7週 中間まとめ
- 第8週 薬害エイズをめぐる薬害エイズと人権、生きること
- 第9週 医学と医学者、医の倫理 ヒポクラテスから薬害エイズまで
- 第10週 薬害エイズの社会論 どうしたら薬害は根絶できるか
- 第11週 チェルノブイリで何が起きたか
- 第12週 チェルノブイリの真実 原子力開発と産業社会
- 第13週 マンハッタン計画(その1) 原爆開発はいかにして始まったか
- 第14週 マンハッタン計画(その2) 原爆開発、製造と投下はいかにしてなされたか、科学者の罪と抵抗
- 第15週 まとめ

テキスト

テキストに準じて、T.コルボーン他著『奪われし未来』(翔泳社、1997年)、R.カーソン『沈黙の春』(新潮文庫版、1962年)など。他は、適宜授業中に指示する。

参考書

随時授業中に指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

適宜授業中に指示する。

その他

必要な連絡、質問などは、原則として授業時、教室で受け付けます。授業終了時にどンドン私のところに来てください。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 宮下 晋吉

講義内容・テーマ

今日地球規模の環境問題が激化し、近代の大量生産・大量消費・大量廃棄型の産業・技術・社会システムじしんが問い直されている。人類は、周囲の環境を改変・破壊しつつどのようにして生産活動を拡大してきたのだろうか。近代的な産業・技術システムが、いつ、どのようにして生まれ、また技術は科学とどのように関わり合いながら発展してきたのだろうか。本講は、「科学技術史から人類の未来を考える」というテーマで、それらに歴史的考察を加える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

毎回講義レジュメ、講義資料(図版、文献)を配布する。

評価方法・基準

\* 日常点:加味する

成績評価は、2回程度実施するレポート、およびその他感想文、ミニレポートなど日常点で行う。

講義スケジュール

- 第1週 いま歴史から学ぶこと イースター島の教訓
- 第2週 『緑の世界史』を読む ポジとネガ、人類の活動と環境
- 第3週 ギルガメッシュ叙事詩
- 第4週 石器づくりの歴史的進歩 古人類学にみる人間と技術
- 第5週 古代技術と科学 すきから5つの単一機械まで
- 第6週 『デ・レ・メタリカ』の世界 道具と機械、工場:社会的生産システムの起源
- 第7週 もののけ姫の世界 近代と非近代、人間と技術
- 第8週 現代文明と近代化への反省から
- 第9週 産業革命のイノベーション 紡錘、紡錘車からジェニー機、水力紡績機へ
- 第10週 イノベーションとファクトリー アークライトと機械体系、近代的工場制度
- 第11週 『技術・科学・歴史』を読む 転回点における西欧技術
- 第12週 『技術・科学・歴史』を読む 技術と科学
- 第13週 『科学の社会史』を読む 科学に基礎づけられた技術・応用科学と科学の組織化
- 第14週 『科学の社会史』を読む イギリス科学の衰退、専門化した社会
- 第15週 まとめ

テキスト

テキストに準じて、D.S.Lカードウェル『科学の社会史 イギリスにおける科学の組織化』(昭和堂、1986年)、および同『技術・科学・歴史 展開期における技術の諸原理』(河出書房、1982年)

参考書

C.ボンティング『緑の世界史』(朝日選書、1994年)、大沼正則『技術と労働』(岩波書店、1995年)、他は随時授業中に指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

とくになし。

その他

連絡などは授業の時教室で、質問歓迎です。その日の授業終了後に私のところにどンドン来てください。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 宮下 晋吉

講義内容・テーマ

今日地球規模の環境問題が激化し、近代の大量生産・大量消費・大量廃棄型の産業・技術・社会システムじしんが問い直されている。人類は、周囲の自然環境を改変・破壊しつつどのようにして生産活動を拡大してきたのだろうか。近代的な産業・技術システムが、いつ、どのようにして生まれ、また技術は科学とどのように関わり合いながら発展してきたのだろうか。本講は、「科学技術史から人類の未来を考える」というテーマで、それらに歴史的考察を加える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

毎回講義レジュメ、講義資料(図版、文献)を配布する。

評価方法・基準

\* 日常点:加味する

成績評価は、2回程度実施するレポート、およびその他感想文、ミニレポートなど日常点で行う。

講義スケジュール

- 第1週 いま歴史から学ぶこと イースター島の教訓
- 第2週 『緑の世界史』を読む ポジとネガ、人類の活動と環境
- 第3週 ギルガメッシュ叙事詩
- 第4週 石器づくりの歴史的進歩 古人類学にみる人間と技術
- 第5週 古代技術と科学 すきから5つの単一機械まで
- 第6週 『デ・レ・メタリカ』の世界 道具と機械、工場、社会的生産システムの起源
- 第7週 もののけ姫の世界 近代と非近代、人間と自然
- 第8週 現代文明と近代化への反省から
- 第9週 産業革命のイノベーション 紡錘、紡錘車からジェニー機、水力紡績機へ
- 第10週 イノベーションとファクトリー アークライトと近代的工場制度
- 第11週 『技術・科学・歴史』を読む 転回点における西欧技術
- 第12週 『技術・科学・歴史』を読む 技術と科学
- 第13週 『科学の社会史』を読む 科学に基礎づけられた技術・応用科学と科学の組織化
- 第14週 『科学の社会史』を読む イギリス科学の衰退、専門化した社会
- 第15週 まとめ

テキスト

テキストに準じて、D.S.Lカードウェル『科学の社会史 イギリスにおける科学の組織化』(昭和堂、1986年)、同『技術・科学・歴史 展開期における技術の諸原理』(河出書房、1982年)

参考書

C.ボンティング『緑の世界史』(朝日選書、1994年)、大沼正則『技術と労働』(岩波書店、1995年)、他は随時授業中に指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

とくになし。

その他

連絡などは授業の時教室で、質問歓迎です。その日の授業終了後に私のところにどんどん来てください。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 梶山 方忠

講義内容・テーマ

現代日本社会が抱える諸問題を「健康」という視点からとらえなおし、健康な市民生活を送るために必要な知識、考え方を身につけることをめざす。私たちが日常的にかかわっている諸問題が、私たちの健康に思いがけず深くつながっていることを確認したい。新聞記事などの資料に基づき、激しく変化している日本社会の動きに遅れないよう留意する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

少なくとも新聞1紙を毎日熟読する習慣をつけてほしい。テキストに事前に目を通しておくこと、時間中に紹介した参考書を出来るだけ読むことを心がけてほしい。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

評価方法は、「定期試験期間内のテストの成績」による(15週目は閉講とする。)現代日本がかかえる諸問題を、健康という視点からとらえることができるようになったかどうかを評価の基準としたい。

講義スケジュール

- 1.健康とは何か:健康を求めることが「権利」となったことの意味を明らかにし、健康の定義を確認する。
- 2.ヒトの生理(1)生体リズム:ヒトの心身は「昼働き、夜休む」ように作られている。「夜働く」ことが健康に与える影響について考える。
- 3.ヒトの生理(2)恒常性:ヒトの生命と健康は「恒常性」の維持によって保たれている。「恒常性」維持のためのからだのしくみについて考える。
- 4.ヒトの生理(3)ストレス:ストレスとは何か、ストレス時のからだの変化や、ストレスとのつきあい方、ストレスと病気について考える。
- 5.ヒトの生理(4)疲労と過労:疲労、過労時のからだの変化、過労になりやすい仕事や、過労死について考える。
- 6.公害と食の問題:公害はなぜ起こるのかを確認し、食品公害や、残留農薬・食品添加物などが健康に与える影響について考える。
- 7.遺伝子組み替え食品と健康:遺伝子組み替え食品が健康に影響を与える可能性があることを明らかにし、日本と世界での対策について考える。
- 8.現代日本の薬害:現代日本の保健、医療が抱える問題を、薬害エイズとクロイツフェルト・ヤコブ病を通じて考える。
- 9.少子化と健康:現代日本の少子化の現状を確認し、少子化の原因と、少子化が日本社会に与える影響について考える。
- 10.子どもの健康:子どもの特徴、現代日本の子どものからだどと心のおかしさ、現代日本社会が子どもの健康に与えている影響について考える。
- 11.長時間労働と健康:日本の長時間労働の実態を確認し、長時間労働が労働者とその家族の健康に与える影響について考える。
- 12.運動と健康:ヒトのからだは運動を必要としている。運動ができないときのからだの変化や、運動の現代的な意義について考える。
- 13.障害者の健康:WHOの「障害の階層性」の考え方を確認する。障害者が尊厳をもって生きるために社会は何をすべきかを考える。
- 14.高齢者の健康:老化によるからだの変化を確認し、現代日本に特有な「寝たきり老人」問題を通じて、日本の「介護保険」の問題について考える。

テキスト

梶山方忠 著「新聞を読んで健康を考える」(改訂版) 文理閣(2003年) 大学生協で販売

参考書

各時間内に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 伊東 宏

講義内容・テーマ

現代のわが国の健康問題を医学的、公衆衛生学的、社会的な観点から見つめ、個々人がその中でどのように健康づくりに取り組んだら良いかを、身近な生活の中の諸問題について具体的に考えていく。情報化社会の中で、健康問題に関する情報もテレビ、新聞などのメディアを通じて氾濫している。医学的見地から、確かな科学的データに基づくと考えられる情報にのみポイントを絞って提供し、人生で自己実現を行う上での基本的条件とも言える「健康づくり」の方法論について考えてみたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

評価方法・基準

評価方法はテストによる。テストに加え、オンラインでのディスカッションに積極的に参加した者には、評価を加算する。

講義スケジュール

- 第1回 健康とはなにか
- 第2回 統計データからみるわが国の健康問題について
- 第3回 生活習慣病1「癌」
- 第4回 生活習慣病2「心血管病その1」
- 第5回 生活習慣病3「心血管病その2」
- 第6回 食事と健康1
- 第7回 食事と健康2
- 第8回 たばこと健康1
- 第9回 たばこと健康2
- 第10回 お酒と健康
- 第11回 運動と健康・睡眠と健康
- 第12回 女子学生の健康
- 第13回 化学物質と健康
- 第14回 物理環境と健康
- 第15回 ストレスと健康

テキスト

レジュメを用いる。

参考書

1. 学生と健康 国立大学等保健管理施設協議会編 南江堂 (1996)1,800
2. 厚生省の指標・臨時増刊「国民衛生の動向」厚生統計協会(毎年8/31発行)2,000

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他



授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 梶山 方忠

講義内容・テーマ

現代日本社会が抱える諸問題を「健康」という視点からとらえなおし、とくに卒業後、職場生活を送る際に、健康に過ごすために必要な知識、考え方を身につけることをめざす。私たちが日常的にかかわっている諸問題が、私たちの健康に思いがけず深くつながっていることを確認したい。新聞記事などの資料に基づき、激しく変化している日本社会の動きに遅れないよう留意する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

少なくとも新聞1紙を毎日熟読する習慣をつけてほしい。テキストに事前に目を通しておくこと、時間中に紹介した参考書を出来るだけ読むことを心がけてほしい。

評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施

評価方法は、「定期試験期間内のテストの成績」による(15週目は閉講とする。)現代日本がかかえる諸問題を、健康という視点からとらえることができるようになったかどうかを評価の基準としたい。

講義スケジュール

- 1.健康な人生：自由権と健康(生存)権、平和と健康権、健康概念の発展について考える。
- 2.ヒトの本来の姿(1)生体リズム：ヒトの心身は「昼働き、夜休む」ように作られている。「夜働く」ことが健康に与える影響について考える。
- 3.ヒトの本来の姿(2)恒常性：ヒトの生命と健康を保っている「恒常性」の維持のためのからだのしくみについて考える。
- 4.ヒトの本来の姿(3)ストレス・疲労・過労：恒常性が乱されたときのヒトのからだの変化と、それに伴う疾病について考える。
- 5.ヒトの本来の姿(4)運動：幼少期の成長・発達を保障し、中高年期に体力をできるだけ維持するための運動の重要性について考える。
- 6.現代日本の少子化(1)定義と現状：少子化の現状、原因と対策を、諸外国との比較を通じて考える。
- 7.現代日本の少子化(2)社会に与える影響：少子化が経済成長、医療費・年金などに与える影響について考える。
- 8.子どもの健康：子どもの特徴、現代日本の子どもからだと心のおかしさ、現代日本社会が子どもの健康に与えている影響について考える。
- 9.現代日本の長時間労働：日本の長時間労働の実態、自由時間の減少が、労働者とその家族の健康に与える影響について考える。
- 10.「リストラ」と健康：現代日本の「リストラ」が健康に与える影響について考える。
- 11.公害と労働災害：公害や労働災害の原因・背景・安全性の考え方、ダイオキシン汚染やJCO臨界事故について考える。
- 12.過労死・過労自殺：現代日本に特有な過労死・過労自殺について、過労死に至るからだの変化と行政の対策の問題点を通じて考える。
- 13.現代日本の障害者の健康：障害者が尊厳をもって生活するために必要な社会の役割について考える。
- 14.尊厳を持った人生の締めくくり：現代日本に特有な「寝たきり老人」問題を通じて、日本の「介護保険」について考える。

テキスト

梶山方忠 著「新聞を読んで健康を考える」(改訂版) 文理閣(2003年) 大学生協で販売

参考書

各時間内に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 梶山 方忠

講義内容・テーマ

現代日本社会が抱える諸問題を「健康」という視点からとらえなおし、健康な市民生活を送るために必要な知識、考え方を身につけることをめざす。私たちが日常的にかかわっている諸問題が、私たちの健康に思いがけず深くつながっていることを確認したい。新聞記事などの資料に基づき、激しく変化している日本社会の動きに遅れないよう留意する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

少なくとも新聞1紙を毎日熟読する習慣をつけてほしい。テキストに事前に目を通しておくこと、時間中に紹介した参考書を出来るだけ読むことを心がけてほしい。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

評価方法は、「定期試験期間内のテストの成績」による(15週目は閉講とする。)現代日本がかかえる諸問題を、健康という視点からとらえることができるようになったかどうかを評価の基準としたい。

講義スケジュール

- 1.健康とは何か:健康を求めることが「権利」となったことの意味を明らかにし、健康の定義を確認する。
- 2.ヒトの生理(1)生体リズム:ヒトの心身は「昼働き、夜休む」ように作られている。「夜働く」ことが健康に与える影響について考える。
- 3.ヒトの生理(2)恒常性:ヒトの生命と健康は「恒常性」の維持によって保たれている。「恒常性」維持のためのからだのしくみについて考える。
- 4.ヒトの生理(3)ストレス:ストレスとは何か、ストレス時のからだの変化や、ストレスとのつきあい方、ストレスと病気について考える。
- 5.ヒトの生理(4)疲労と過労:疲労、過労時のからだの変化、過労になりやすい仕事や、過労死について考える。
- 6.公害と食の問題:公害はなぜ起こるのかを確認し、食品公害や、残留農薬・食品添加物などが健康に与える影響について考える。
- 7.遺伝子組み替え食品と健康:遺伝子組み替え食品が健康に影響を与える可能性があることを明らかにし、日本と世界での対策について考える。
- 8.現代日本の薬害:現代日本の保健、医療が抱える問題を、薬害エイズとクロイツフェルト・ヤコブ病を通じて考える。
- 9.少子化と健康:現代日本の少子化の現状を確認し、少子化の原因と、少子化が日本社会に与える影響について考える。
- 10.子どもの健康:子どもの特徴、現代日本の子どものからだと心のおかしさ、現代日本社会が子どもの健康に与えている影響について考える。
- 11.長時間労働と健康:日本の長時間労働の実態を確認し、長時間労働が労働者とその家族の健康に与える影響について考える。
- 12.運動と健康:ヒトのからだは運動を必要としている。運動ができないときのからだの変化や、運動の現代的な意義について考える。
- 13.障害者の健康:WHOの「障害の階層性」の考え方を確認する。障害者が尊厳をもって生きるために社会は何をすべきかを考える。
- 14.高齢者の健康:老化によるからだの変化を確認し、現代日本に特有な「寝たきり老人」問題を通じて、日本の「介護保険」の問題について考える。

テキスト

梶山方忠 著「新聞を読んで健康を考える」(改訂版) 文理閣(2003年) 大学生協で販売

参考書

各時間内に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 伊東 宏

### 講義内容・テーマ

現代のわが国の健康問題を医学的、公衆衛生学的、社会的な観点から見つめ、個々人がその中でどのように健康づくりに取り組んだら良いかを、身近な生活の中の諸問題について具体的に考えていく。情報化社会の中で、健康問題に関する情報もテレビ、新聞などのメディアを通じて氾濫している。医学的見地から、確かな科学的データに基づくと考えられる情報にのみポイントを絞って提供し、人生で自己実現を行う上での基本的条件とも言える「健康づくり」の方法論について考えてみたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

### 評価方法・基準

評価方法はテストによる。テストに加え、オンラインでのディスカッションに積極的に参加した者には、評価を加算する。

### 講義スケジュール

- 第1回 健康とはなにか
- 第2回 統計データからみるわが国の健康問題について
- 第3回 生活習慣病1「癌」
- 第4回 生活習慣病2「心血管病その1」
- 第5回 生活習慣病3「心血管病その2」
- 第6回 食事と健康1
- 第7回 食事と健康2
- 第8回 たばこと健康1
- 第9回 たばこと健康2
- 第10回 お酒と健康
- 第11回 運動と健康・睡眠と健康
- 第12回 女子学生の健康
- 第13回 化学物質と健康
- 第14回 物理環境と健康
- 第15回 ストレスと健康

### テキスト

レジュメを用いる。

### 参考書

1. 学生と健康 国立大学等保健管理施設協議会編 南江堂 (1996)1,800
2. 厚生省の指標・臨時増刊「国民衛生の動向」厚生統計協会(毎年8/31発行)2,000

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

<http://www.kenkounippon21.gr.jp/> 「健康日本21」のホームページ

### その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 梶山 方忠

講義内容・テーマ

現代日本社会が抱える諸問題を「健康」という視点からとらえなおし、とくに卒業後、職場生活を送る際に、健康に過ごすために必要な知識、考え方を身につけることをめざす。私たちが日常的にかかわっている諸問題が、私たちの健康に思いがけず深くつながっていることを確認したい。新聞記事などの資料に基づき、激しく変化している日本社会の動きに遅れないよう留意する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

少なくとも新聞1紙を毎日熟読する習慣をつけてほしい。テキストに事前に目を通しておくこと、時間中に紹介した参考書を出来るだけ読むことを心がけてほしい。

評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施

評価方法は、「定期試験期間内のテストの成績」による(15週目は閉講とする。)現代日本がかかえる諸問題を、健康という視点からとらえることができるようになったかどうかを評価の基準としたい。

講義スケジュール

- 1.健康な人生：自由権と健康(生存)権、平和と健康権、健康概念の発展について考える。
- 2.ヒトの本来の姿(1)生体リズム：ヒトの心身は「昼働き、夜休む」ように作られている。「夜働く」ことが健康に与える影響について考える。
- 3.ヒトの本来の姿(2)恒常性：ヒトの生命と健康を保っている「恒常性」の維持のためのからだのしくみについて考える。
- 4.ヒトの本来の姿(3)ストレス・疲労・過労：恒常性が乱されたときのヒトのからだの変化と、それに伴う疾病について考える。
- 5.ヒトの本来の姿(4)運動：幼少期の成長・発達を保障し、中高年期に体力をできるだけ維持するための運動の重要性について考える。
- 6.現代日本の少子化(1)定義と現状：少子化の現状、原因と対策を、諸外国との比較を通じて考える。
- 7.現代日本の少子化(2)社会に与える影響：少子化が経済成長、医療費・年金などに与える影響について考える。
- 8.子どもの健康：子どもの特徴、現代日本の子どもからだの心のおかしさ、現代日本社会が子どもの健康に与えている影響について考える。
- 9.現代日本の長時間労働：日本の長時間労働の実態、自由時間の減少が、労働者とその家族の健康に与える影響について考える。
- 10.「リストラ」と健康：現代日本の「リストラ」が健康に与える影響について考える。
- 11.公害と労働災害：公害や労働災害の原因・背景・安全性の考え方、ダイオキシン汚染やJCO臨界事故について考える。
- 12.過労死・過労自殺：現代日本に特有な過労死・過労自殺について、過労死に至るからだの変化と行政の対策の問題点を通じて考える。
- 13.現代日本の障害者の健康：障害者が尊厳をもって生活するために必要な社会の役割について考える。
- 14.尊厳を持った人生の締めくくり：現代日本に特有な「寝たきり老人」問題を通じて、日本の「介護保険」について考える。

テキスト

梶山方忠 著「新聞を読んで健康を考える」(改訂版) 文理閣(2003年) 大学生協で販売

参考書

各時間内に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 苅屋 公明

講義内容・テーマ

人間と社会と最も係わりの深い技術は、物や物ごとを計る計測の技術である。そこで技術と人間および人間の構成する社会との関係を理解しやすい「計測科学(Measurement Science)」について講義する。「計測科学」は情報を獲得し、知識を得て、その知識を人のため、社会のために役立たせる一連の行為を学問の体系にオーソライズする科学であり、社会科学、人文科学、自然科学の各領域に共通な強力な基礎科学である。

この講義を通して、情報と技術に担われた社会を理解することを期待する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

現代の社会 および これからの社会は技術に担われた社会である。この講義を通じて技術の社会への作用の仕方を学ぶことは、皆さんの将来の生活や仕事にプラスになることが大であると思う。

評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施  
試験に代わるレポートによって評価する。  
皆さんの日常生活、社会生活、社会活動が、どのように情報を得て、それを解析して得た知識によって成り立っているかを理解することが評価の基準となる。

講義スケジュール

- 1 回 「計測科学」の学問上の位置付け
- 2・3回 計測と社会の関係
- 4 回 情報と知識、そして情報と知識を得る方法
- 5 回 計測の三つの仕事と三つの使命
- 6・7回 計測の基本
- 8 回 計測の体系化と計測のシステム
- 9・10回 静的な計測と動的な計測
- 11 回 センサと信号(シグナル)
- 12・13回 信号(シグナル)の解析と知識の把握(獲得)、および利用
- 14・15回 より確かな、より賢い計測を求めて

担当者は、国際計測連合(IIMEKO)で重要な役割を担っております。その活動も含めて、このスケジュールを調整する場合がありますので、授業中の連絡 および 補講の連絡などに注意してください。

テキスト

「計測科学 計測の社会的役割」:苅屋公明 著、産業図書(株)

参考書

「計測の科学と工学」:苅屋公明、前田親良 著、産業図書(株)  
「計る、測る、量る」:高田誠二 著、BLUE BACKS

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

教科書は必ず用意してください。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 齋藤 勝義

講義内容・テーマ

現代の科学技術を理解する為に、一面として材料を理解する事が必要と思われる。本講義ではプラスチック・セラミックおよび金属材料について講義する。科学技術と関係ある事を理解されたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

文系の受講生が理解出来る様に化学記号、用語等は解説する。

評価方法・基準

期末試験を主体として、出席・中間レポートを参考にする。

講義スケジュール

- 第1回 プラスチックとはなにか、種類。
- 第2回 熱硬化性プラスチックと熱可塑性プラスチック。
- 第3回 汎用プラスチックとエンジニアリングプラスチック。
- 第4回 プラスチックの性質及び新しいプラスチック。
- 第5回 プラスチックの成形加工法と成形加工添加剤。
- 第6回 セラミックスの歴史と種類及び使用用途。
- 第7回 構造用セラミックス(ターボチャージャー、機械部品等)。
- 第8回 電子用セラミックス(誘電体、半導体、絶縁体、圧電対等)。
- 第9回 バイオセラミックス(人工骨、歯科材料等)。
- 第10回 光通信セラミックス(光ファイバー等)。
- 第11回 超電導用セラミックス。
- 第12回 遠赤外線セラミックス(ヒーター等)。
- 第13回 金属材料としての鉄の特性及び使用用途。
- 第14回 金属材料としてのアルミニウムの特性及び使用用途。
- 第15回 金属材料としての銅及び銅合金の特性及び使用用途。

テキスト

特に使用しない。プリントを適宜配布する。

参考書

講義の中で折に触れて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

プリント以外にVTR及び実際の製品を見て頂く。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 大同 淳之

講義内容・テーマ

1. 過去の実績から現象の今後のトレンドの予測の仕方の理解 2. エントロピーの法則から見た資源、公害問題の理解 3. 人間を支配する自然の摂理の理解。地球上で、食料、エネルギーの不足、公害の激化が顕在し、生存できる人口に限界がみえてきた。これを解決する方法は何か、21世紀の日本の指導者となる皆さんが、上記の問題に答えを見いだせる能力が付くように、これらを支配する基本的法則、基礎知識ならびにデータを提供して、皆さんと一諸に考えていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特になし

評価方法・基準

\* 筆記試験: 定期試験として実施

\* 日常点: 加味する

大学の評価基準による。評価にレポートは加味するが定期試験の成績重視。大学であるから自主勉強が主体。したがって講義を聞かなくても講師が皆さんに知っていてほしいと考えている目標を理解していることを定期試験で示されたら合格。ただ講師として矢張り講義を聞かないと理解が難しい水準の講義を目指す。

講義スケジュール

講義順序 講義内容 講義の到達目標

(1) 過去の実績からトレンドの予測(グラフによる)。色々便利なグラフの使い方に慣れよう

1. 刻々変動するデータからトレンドの判断。年輪の変動から世界の歴史をみる。(ナポレオンの負けた理由、中国の革命等)
2. 従来傾向から将来の予測 将来人口の予測。
3. まれに起る現象の発生確率 将来の渇水、洪水の予測。この手法で源氏物語の著者を探る

(2) エントロピーの法則から資源、公害問題の理解

4. 水資源からみた日本の成長の限界 日本は外国に比して水資源が少なく、限界に近い。現状を知り、水を生む方策を考えよう。
5. 現在の方法では浄化されない飲料水がある 人工の塩素化合物は現行の上水道の浄化法では浄化できない。その対策は?
6. 長良川河口せきを反対があっても作る理由、 4.がその理由
7. 水とエネルギー 石油はあと28年、ウランもあと76年でなくなる。次のエネルギー源は。
8. 車の燃費は社会基盤が車の為に費やしたエネルギーも計算に入れよ
9. エントロピーの法則; 資源、エネルギーを消費したとき再利用不可能な物質がたまる

(3) 人間を支配する自然の摂理 自然界を支配する法則を理解し社会事象の判断に応用

10. 日本の国土は常に人工で支えないと消滅する。日本の神話は先祖が国土を守った実話。
11. 日本人の勤勉は気候および国土の変動から。日本の国土は地震、台風等で不安定。これが日本人の気質に影響。外国との比較を試みる。
12. 自然界におけるバランス 海、川における 自然の力のバランスを知ろう。鴨川、舞鶴湾 の例についてもふれる

テキスト

プリント 講義の都度配布

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他



授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 竹下 貞雄

講義内容・テーマ

最近、阪神大震災で自宅が半壊したのは「補強が必要」としていた施行前の土質調査報告書を大手住宅建設会社が改ざんし、地盤改良を怒ったため被害が拡大したとして、神戸地裁はこの会社が原告に約2900万円を支払うよう命じた。これは建設会社の著しい技術者倫理の欠如である。本講座では土に関するいろいろな情報について平易に解説し、将来、学生諸君が土に関係した場合に適切に対処できるようにしたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

土に関して、日頃の生活で見たり聞いたりした情報をもって、講義に出席することが望ましい。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

期末試験の結果から評価する。試験問題は記述式であり、講義に出席しておれば、解けるものである。ただ項目別に番号を付け、読み易く記述することが求められる。

講義スケジュール

- 第1週 第1編 土の種類
- 第2週 土の構造
- 第3週 土の性質
- 第4週 土の強さ
- 第5週 土の調査法
- 第6週 第2編 ピサの斜塔
- 第7週 砂の液化化
- 第8週 杭のネガティブフリクション
- 第9週 斜面崩壊 (その1)
- 第10週 同上 (その2)
- 第11週 基礎構造物
- 第12週 トンネル
- 第13週 軟弱地盤
- 第14週 土の締め固め
- 第15週 阪神大震災による構造物の被害

また、土に関する新聞記事などがあった場合は、その都度、解説も行う予定である。

テキスト

プリントを配布する。

参考書

池谷浩:土石流災害(岩波新書、1999年)、松田時彦:活断層(岩波新書、1995年)、石橋克彦:大地動乱の時代(岩波新書、1994年)などが参考になる。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 西上 泰子

講義内容・テーマ

かつて地球環境は物質やエネルギーの微妙なバランスのもとに進化してきたが、化石燃料の大量消費に象徴されるように、現代の人類の生産活動や消費活動がこのバランスを崩し、不可逆的な破滅の方向へと人類を導こうとしている。本講義では、学生ひとりひとりが地球環境問題の認識を深め、その克服の方法を探るために必要な自然科学の基礎知識を身につけることを目標とする。自然科学概論 で取り上げるテーマは、「地球環境の進化と構造」、「オゾン層破壊と紫外線増加」、「地球の温暖化と異常気象」および「酸性雨と環境の酸性化」の、以上4テーマである。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

テキストを中心に授業する(ときにはビデオも利用する)。授業には必ずテキストを持参すること。  
自然科学の基礎知識がすでにあることは必須条件ではないが、環境問題や人類の未来に興味を持っていることが望ましい。  
講義中の質問や問題提議は大いに歓迎する。授業中の私語と携帯電話使用は堅く禁ずる。

評価方法・基準

\* 筆記試験: 定期試験として実施  
\* 日常点: 加味する  
日常点(出席状況・小レポート提出など)と Semester末の定期試験によって評価する。  
授業中に求める小レポートは、授業内容に関する、意見や感想、質問などである。  
配点は、前者が40%、後者が60%。  
また、積極的な授業への参加(自主的なレポートの提出など)は、加算点として、成績に加味する。

講義スケジュール

(1～2 地球環境の進化と構造)  
第1回 生命の起源と進化  
第2回 物質の循環平衡  
(3～5 オゾン層破壊と紫外線増加)  
第3回 地球のオゾン層と紫外線  
第4回 オゾンホールとオゾン層破壊問題  
第5回 オゾン層保護の取り組みの現状  
(6～10 地球の温暖化と異常気象)  
第6回 地球の気温と温室効果気体  
第7回 人間活動による温暖化とその原因  
第8回 今後の地球温暖化とその影響予測  
第9回 温暖化防止のための国際的な取り組み  
第10回 各国の温暖化防止対策  
(11～14 酸性雨と環境の酸性化)  
第11回 酸性雨と環境の酸性化問題の歴史  
第12回 地球規模の酸性雨の広がり  
第13回 環境の酸性化による生物への影響  
第14回 酸性化防止のための国際的取り組み  
第15回 定期試験に替わる(閉講) ただし、それまでに休講があった場合には補講します

テキスト

「新・地球環境論 - 持続可能な未来をめざして」(和田武著, 創元社)  
立命館大学生協書籍部で購入可能

参考書

「人と環境」(合原真 他 著, 三共出版)  
「地球と環境の科学」(木下紀正・八田明夫著, 東京教学社)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 西上 泰子

講義内容・テーマ

かつて地球環境は物質やエネルギーの微妙なバランスのもとに進化してきたが、化石燃料の大量消費に象徴されるように、現代の人類の生産活動や消費活動がこのバランスを崩し、不可逆的な破滅の方向へと人類を導こうとしている。本講義では、学生ひとりひとりが地球環境問題の認識を深め、その克服の方法を探るために必要な自然科学の基礎知識を身につけることを目標とする。自然科学概論 で取り上げるテーマは、「有毒化学物質による汚染」、「放射能汚染」、「森林破壊、砂漠化、生物種の減少」、「戦争による環境破壊」および「地球環境危機の克服」の、以上5テーマである。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

テキストを中心に授業する(ときにはビデオも利用する)。授業には必ずテキストを持参すること。  
自然科学の基礎知識がすでにあることは必須条件ではないが、環境問題や人類の未来に興味を持っていることが望ましい。  
講義中の質問や問題提議は大いに歓迎する。授業中の私語と携帯電話使用は堅く禁ずる。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

日常点(出席状況・小レポート提出など)と Semester末の定期試験によって評価する。

授業中に求める小レポートは、授業内容に関する、意見や感想、質問などである。

配点は、前者が40%、後者が60%。

また、積極的な授業への参加(自主的なレポートの提出など)は、加算点として、成績に加味する。

講義スケジュール

(1~3 有毒化学物質による汚染)

第1回 有機塩素化合物製品とその環境汚染

第2回 廃棄物処理によるダイオキシン汚染の拡大

第3回 地球規模の有毒化学汚染防止対策

(4~6 放射能汚染)

第4回 人体に対する放射線の影響

第5回 核兵器による放射能汚染

第6回 世界と日本の原子力発電の現状

(7~9 森林破壊,砂漠化,生物種の減少)

第7回 森林破壊

第8回 野生生物種の減少

第9回 砂漠化

(10~12 戦争による環境破壊)

第10回 現代戦争による環境破壊

第11回 核爆発の直接的影響

第12回 「核の冬」理論

(13~14 地球環境危機の克服)

第13回 地球環境問題の本質と特徴

第14回 持続可能な社会

第15回 定期試験に替わる(閉講) ただし、それまでに休講があった場合には補講します

テキスト

「新・地球環境論 - 持続可能な未来をめざして」(和田武著, 創元社)

立命館大学生協書籍部で購入可能

参考書

「人と環境」(合原真 他 著, 三共出版)

「地球と環境の科学」(木下紀正・八田明夫著, 東京教学社)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 松原 洋子

### 講義内容・テーマ

科学／技術は現代社会のあらゆる局面に浸透している。科学／技術はその成果を通して社会や人々のライフスタイルを変えるだけではない。安全基準の設定やリスク評価等を通じて、社会の運営方針を正当化する役目も担っている。一方、社会システムの一部となった科学／技術もまた、狭義の理工学を超えた社会的性格を帯びている。この授業では、科学史学、科学技術社会論(STS)の知見をてがかりに、現代人が科学／技術と社会とのインターフェースで生じる諸問題に向き合うための技法を探りたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義形式で行う。視聴覚教材も適宜利用する。理系科目が苦手でも、科学／技術と社会の関係を知りたい人には、新しい発見があるだろう。

### 評価方法・基準

\* 筆記試験・定期試験として実施  
成績評価は授業で提出するミニレポートおよび定期試験を総合して行う。

### 講義スケジュール

1. ガイダンス
2. 科学の制度化・職業化
3. 科学の国策化
4. 科学批判運動と科学観の変化
5. 科学者共同体と科学知識の生産
6. 社会的現場における科学の妥当性(1)
7. 社会的現場における科学の妥当性(2)
8. 科学と素人(1)
9. 科学と素人(2)
10. 生命科学と社会(1)
11. 生命科学と社会(2)
12. 身体の医学化をめぐる問題
13. 科学の公共性
14. 授業のまとめ
15. 閉講

### テキスト

テキストは特に指定しない。授業中に配布するレジュメおよび資料を利用する。

### 参考書

古川安 1989 『科学の社会史 ルネサンスから20世紀まで[増訂版]』南窓社  
井山弘幸・金森修 2000 『現代科学論 科学をとらえ直そう』新曜社  
金森修・中島秀人 2002 『科学論の現在』勤草書房  
小林傳司 編 2002 『公共のための科学技術』玉川大学出版部  
中山茂・吉岡斉 編著 2002 『科学革命の現在史』学陽書房

その他の文献も授業で適宜紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

科学技術社会論学会 <http://www.cs.kyoto-wu.ac.jp/jssts/index.html>  
STS Network Japan <http://stsnj.org/nj/index2.html>  
日本科学史学会 <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jshs/index-j.html>

### その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 松原 洋子

講義内容・テーマ

人類は長い歴史のなかで、生物に関する知識やそれを応用した技術によって、自らの自然界における位置を概念的にも物質的にも変容させてきた。生物進化論の受容や動植物の品種改良はその一例である。しかし、20世紀後半以降の生命科学技術の急速な発展は、「内なる自然」としての人体をも研究開発の対象とすることによって、人体の統合性や生物種の境界の存在といった自明の近代的前提をも動揺させつつある。先端医療技術がもたらした生老病死の変容とともに、現在の私たちは自然界における人間の位置や生命に対する人為的介入の方法の見直しと倫理規範の再構築が、いま迫られているのである。授業では、生命科学技術と社会のインターフェースで生じている様々なコンフリクトをとりあげ、検討する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義形式で行う。視聴覚教材も適宜利用する。いわゆる生命倫理の問題も扱うが、哲学的というより、問題発生の現場に即した科学技術社会論的観点(自然科学概論 S2 参照)から論じていく。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施  
成績評価は授業で提出するミニレポートおよび定期試験を総合して行う。

講義スケジュール

1. ガイダンス 争点としての生命
2. 自然界における人間の位置
3. 生命操作の技術
4. 歴史的教訓としての優生学
5. 生物医学研究規制の制度化 人体実験
6. 遺伝子研究と遺伝医療(1)
7. 遺伝子研究と遺伝医療(2)
8. 生殖技術の問題点と生殖の権利
9. 人体の部品化と商品化 移植医療・再生医療・クローン技術
10. 生命倫理と動物保護
11. 生物兵器
12. 遺伝子とグローバリズム 遺伝子特許・遺伝子組換え作物と生物多様性
13. 生命の質と自己決定 安楽死・新優生学・脳死臓器移植
14. 授業のまとめ
15. 閉講

テキスト

テキストは特に指定しない。授業中に配布するレジュメおよび資料を利用する。

参考書

グレゴリー・E・ペンス 2000 『医療倫理』みすず書房  
香川知晶 2000 『生命倫理の成立』勁草書房  
棚島次郎 2001 『先端医療のルール』講談社現代新書  
市野川容孝 編 2002 『生命倫理とは何か』平凡社  
廣野喜幸・市野川容孝・林真理編 2002 『生命科学の近現代史』勁草書房

その他の文献も授業中適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

arsiv.com(立岩真也先生HP) <http://www.arsvi.com/>

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 足立 薫

### 講義内容・テーマ

私たち人間が生物としてどのような特徴をもち、同種や他種の生物との間にどのような関係を結びつつ生きているのかを考える。特に進化の過程で、人間のさまざまな特徴がどのように獲得されてきたのかを、明らかにすることが目標である。人類に進化的に近縁である、霊長類の行動や生態をもとに人類進化の道のりを考えるとともに、化石資料からの人類の系統関係の再構成の成果を紹介したい。進化の基本的なメカニズムを知り、霊長類の行動や生態を、人間と比較して考察することができるようになることが目標である

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

生物学の知識を前提としないが、提示された材料をもとに自ら論理的に考える努力が求められる。

### 評価方法・基準

\*筆記試験・定期試験として実施

定期試験を評価の中心とする。試験は論述形式、持込自由で行う。出席は重視しない。期間中に小テストまたは小レポートを実施し、評価に加味する。定期試験80%、小テスト(小レポート)20%。

### 講義スケジュール

1. 人間にとって自然とは何か  
あるいは人間とは何か
  2. 進化論とは何か  
ダーウィンの自然選択  
ネオ・ダーウィニズム
  3. 霊長類 人間に近縁な動物  
サル・類人猿・ヒト  
霊長類学は何を目指すのか
  4. 動物行動学の歴史  
ローレンツ・ティンバーゲン  
行動生態学・社会生物学への移行
  5. 行動生態学とは何か  
協利行動の起源 血縁淘汰  
社会生物学論争 遺伝か学習か
  6. 言語と文化の起源  
コミュニケーションと社会  
道具使用
  7. 性行動の生物学  
家族の起源  
母性・父性
  8. 行動の意味論  
オートポイエーシス・アフォーダンス・現象学
  9. 人類の起源
  10. 現代人の起源論争
  11. 人種概念の人類学
  12. 狩猟採集民の人類学
  13. まとめ
- 以上のような内容を予定しているが、番号は講義の回数を表すものではなく、講義の進展状況によってスケジュールを調整する。

### テキスト

用いない。

### 参考書

講義中に紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他



授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 遠藤 彰

講義内容・テーマ

自然とは、宇宙の総体であり、もちろんここは人間も含めた自然史的過程としてとらえる。地球・自然環境をめぐる問題も、これをどうするという以前に、それをどう理解しているかが問われているはず。まずは、生物的自然を、それが形成されてきた時間に沿って「事実」に基づいて理解する。＜進化＞というのは、19世紀のなかば以降に生まれた、その歴史過程の説明概念に他ならないが、とりわけ20世紀後半の生物学諸分野のめざましい展開から、進化の概念自体も大いに変容してきた。生物の歴史における大きな転換について、謎は謎のままに、可能なかぎり先端的に語ってみよう。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

「進化」をめぐるのは、多くの誤解とまた多くの未知の間がある。それが混在してわれわれの適切な理解を妨げている。未知はしかたがないが、誤解や無知は解消できる。既知と未知の広がりとともに了解しながら、事実の羅列ではなく、そのおもしろさを伝えるように講義したい。

評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施  
受講生数があまり多いと、定期試験による評価をするかもしれない。

講義スケジュール

- # 01 物質・エネルギー・情報と時間・空間のスケール
- # 02 秩序(コスモス)と無秩序(カオス) / 単純と複雑:生物とは何か
- # 03 宇宙的背景と地球上の生物的時間と「奇跡」の確率
- # 04 生命の起源 / 何が起こったのか:化学分子の反応系
- # 05 遺伝子と細胞 / モネラ(原核細胞)の世界:代謝系の誕生の驚異
- # 06 真核生物の誕生の謎 / モネラの細胞共生仮説
- # 07 減数分裂 = 有性生殖の謎 / 性とは何か
- # 08 多細胞化 / さまざまなボディ・プラン:カンブリア紀の怪物たち
- # 09 複雑な形態を可能にする個体発生の遺伝的「プログラム」
- # 10 適応放散と収斂 / 絶滅と再出発:偶然と必然?
- # 11 変異と自然淘汰 / 個体群 = 集団をとらえる思考
- # 12 生態的相互作用の複雑化 / 関係の多様性と生存の諸条件
- # 13 生物群集という「つながり」 / その動態としての生態遷移
- # 14 ヒト = この生態的モンスターの出現
- # 15 地球共生系という視点 / 新しい自然認識へ

テキスト

特定のテキストは使用しない。毎回プリントを配布する。  
オンラインシラバスにごく主要な参考書を挙げておく。

参考書

ごく主要なものだけ挙げておく。  
メイナードスミス『進化する階層』シュプリンガー・フェアラーク東京  
ドーキンス『ブラインド・ウオッチメイカー』(上下)早川書房  
マーギュリス / セーガン『性の起源』青土社  
遠藤彰『見えない自然:生態学のポリフォニー』昭和堂

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

私の担当する講義「生物の多様性」の現代版がこの講義である。



授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 池上 順子

### 講義内容・テーマ

#### 生命観の変化と生命操作

分子生物学の発展は、多様な生物に共通する生命現象(遺伝や進化)を物質レベルで説明することを可能にした。また、その成果をもとに、生物の多様な機能を利用する技術の発展をもたらした。この講義では、遺伝子、細胞ならびに個体発生が、生命操作とどのように関連しているのかについて説明する。また、ヒトゲノム解析、クローン動物の誕生などにより、人間観・生命観に大きな変化があらわれている。生命操作と社会との関連についても考えていきたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

細胞・遺伝子、発生についての基礎知識が必要である。

### 評価方法・基準

\*筆記試験・定期試験として実施

### 講義スケジュール

#### 1. 生命観の変化

人間が生物(生命)をどのようにとらえてきたかをふりかえってみる。

- 1) 生命の起源: 自然発生説と化学進化説
- 2) 生命とは: 生氣論と機械論

#### 2. 生命の操作の具体例

生命の操作のいくつかの例をあげて説明する。

- 1) 細胞融合 雑種細胞
- 2) 植物のバイオテクノロジー
- 3) 遺伝子の操作  
遺伝子組み換え ホルモン生産  
遺伝子治療 遺伝病を治療する(ADA欠損症)  
遺伝子診断 ヒトゲノム解析
- 4) 初期胚操作 体外受精、キメラ動物、クローン動物、遺伝子導入動物、ES細胞と再生医学

#### 3. 生命操作と社会

人間と生物の関係については、環境科学において議論されているが、ここでは、生殖補助医療を例として生命操作と社会の関連について考えたい。

### テキスト

使用しない。

### 参考書

講義のときに紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

講義形式とする。言葉だけでは、理解が困難なのでプリントや視聴覚教材を用いる。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 武山 智博

講義内容・テーマ

生物の進化は、ダーウィンの主張したシンプルな理論で説明できると考えられています。  
本講義では、生命の誕生から、生物の性・繁殖に関わる話題を中心に、  
進化とはどういう考え方であるのかということ、現在見られる生命現象を進化という観点から  
理解してもらうことが目的です。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

生物学に関する基礎知識は必要ないが、偏見や社会規範にとらわれない思考力が必要。

評価方法・基準

- \*筆記試験:定期試験として実施
- \*日常点:加味しない

講義スケジュール

1 生命の起源

2「進化」とは何か? :淘汰という考え方 適応度 自然淘汰 種族繁栄論のあやまり  
進化は地史的時間でしか起こらないのか?

3「性」にまつわる話:有性生殖と無性生殖 性比 性決定機構 性転換 性差(性的二型) 性淘汰

4「繁殖様式」の進化 代替戦略

テキスト

特に指定しない。参考書を参照してください。

参考書

一般向け(進化全般)

「生き物をめぐる4つの「なぜ」」長谷川 真理子 著 集英社新書  
「進化とは何だろうか」長谷川真理子 著 岩波ジュニア新書

一般向け(性比に関する)

「雄と雌の数をめぐる不思議」長谷川真理子 著 NTT出版

一般向け(性淘汰に関する)

「クジャクのオスはなぜ美しい?」長谷川真理子 著 紀伊国屋書店

専門的内容を含む

「生き物の進化ゲーム 進化生態学最前線:生物の不思議を解く」  
酒井聡樹 高田壮則 近雅博 著 共立出版

「行動生態学」J.R.クレブス/N.B.デイビス著 山岸哲・巖佐庸共訳 蒼樹書房

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 依田 憲

講義内容・テーマ

生物の形態や行動は、生存や繁殖のために非常にうまくできている。そうした生物の適応性がどのようにして生じたのか、その仕組みを理解することが本講義のテーマである。現時点ではその仕組みは、ダーウィンの提唱した概念でほぼ説明可能であると考えることが主流となっている。本講義ではその基本となる進化論を説明したうえで、生物のふるまいがその視点からどのように統一的に解釈できるかを学習していく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

生物の基礎知識は必要ないが、論理的な思考力は必要。

評価方法・基準

\* レポート:試験に代わるレポートとして実施

講義スケジュール

- 1: 「進化」という概念とその仕組み(3回)  
ダーウィンの考えたこと
- 2: 「最適採餌」をめぐる話題(2回)  
何をどう食うかの意思決定
- 3: 「資源」をめぐる競争(2回)  
理想自由分布・なわばり・群れ
- 3: 「相互交渉」のある戦略(8回)  
闘争・雌雄の戦略・利他的行動  
進化的に安定ということ

テキスト

使用しない。

参考書

講義中に適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 依田 憲

講義内容・テーマ

生物の形態や行動は、生存や繁殖のために非常にうまくできている。そうした生物の適応性がどのようにして生じたのか、その仕組みを理解することが本講義のテーマである。現時点ではその仕組みは、ダーウィンの提唱した概念でほぼ説明可能であると考えることが主流となっている。本講義ではその基本となる進化論を説明したうえで、生物のふるまいがその視点からどのように統一的に解釈できるかを学習していく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

生物の基礎知識は必要ないが、論理的な思考力は必要。

評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

講義スケジュール

- 1:「進化」という概念とその仕組み(3回)  
ダーウィンの考えたこと
- 2:「最適採餌」をめぐる話題(2回)  
何をどう食うかの意思決定
- 3:「資源」をめぐる競争(2回)  
理想自由分布・なわばり・群れ
- 3:「相互交渉」のある戦略(8回)  
闘争・雌雄の戦略・利他的行動  
進化的に安定ということ

テキスト

使用しない。

参考書

講義中に適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 平岡 由夫

講義内容・テーマ

整数(..., -3, -2, -1, 0, 1, 2, 3, ...)についての紀元前～現代までの初等的な話を、中学生までの数学の知識で理解できるレベルで行う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

それほど高度な数学の知識や計算技術を必要としないが、整数の足し算、引き算、掛け算、割り算を正しく行えることは必要。

評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施  
\*日常点:加味する  
小テスト、試験に代るレポートによる評価を考えている。  
日常点も重視するので、講義への積極的な参加を期待する。

講義スケジュール

- 第1回 整数の商と余り
- 第2回 最大公約数・最小公倍数
- 第3回 ユークリッドの互助法
- 第4回 素数
- 第5回 合同式
- 第6回 1次合同式
- 第7回 中国剰余定理
- 第8回 オイラーの関数
- 第9回 フェルマーの小定理
- 第10回 原始根
- 第11回 応用1
- 第12回 応用2
- 第13回 応用3
- 第14回 応用4
- 第15回 応用5

テキスト

無し。

参考書

高木貞治著・初等整数論講義・共立出版 書店で購入可能、図書館にもある。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

特に無し。

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 井街 悠

### 講義内容・テーマ

競技力向上のためだけでなく、健康の維持・増進のためにもスポーツトレーニングは有効である。しかし、トレーニングはたゞ聞くも行なっても効果が少ないばかりか却って健康を阻害することもあり、科学的知識に基づいて正しく行う必要がある。この授業では、主に一般学生が健康の維持や増進を目的にトレーニングを行なおうとする際に必要なスポーツ医学的基礎知識ならびに関連の最新トピックについて学習する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講のために特別な知識やスキルは必要としない。

### 評価方法・基準

\*筆記試験:最終講義日試験で実施

\*日常点:加味しない

### 講義スケジュール

以下の内容について、順次説明する。

- (1)健康と体力の概念 (2)骨格筋の構造、組成、生理 (3)筋力の概念、および筋力トレーニングの原理、種類、方法
- (4)筋持久力の概念、および筋持久力トレーニングの原理、種類、方法 (5)パワーの概念、およびパワートレーニングの原理、種類、方法 (6)全身持久力の概念、および全身持久力トレーニングの原理、種類、方法 (7)運動強度とその評価方法
- (8)有酸素運動と無酸素運動、その相違と生理学的概念 (9)最大酸素摂取量とAT、その概念、測定方法、トレーニングへの応用 (10)準備運動と整理運動、その科学的原理、方法、注意事項 (11)ドーピング、その概念、違反薬物、事例、罰則 (12) 活性酸素とスポーツ (13)スポーツ障害のタイプと対策、健康と栄養および食事

### テキスト

テキスト名:スポーツ科学入門、著者:井街悠、笹山哲、出版社名:三恵社、入手方法:生協図書部で販売

### 参考書

初回の授業時に紹介する

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

<http://www.rcss.kyoto-u.ac.jp>、その他多数につき、授業時に適宜紹介する。

### その他

多人数のため大教室での授業となる。授業内容を理解しやすいようにパワーポイントを多用し、表、図、グラフを多く紹介する。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 野村 照夫

講義内容・テーマ

スポーツのサイエンスに関する知見を紹介する。それによって、身体、動作、スポーツ、健康に対する認識を発展させる。また、スポーツに関与する諸要因に対する科学的アプローチの意義や問題点を考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

知的探究心が必要

評価方法・基準

\* 筆記試験：定期試験として実施

\* 日常点：加味する

記述、穴埋め、計算等の問題による定期試験で合否判定するが、提出物や出席点によって、点数不足を補う場合がある。

講義スケジュール

- 1 スポーツにおける科学の立場
- 2 ジュニア期のトレーニング
- 3 スポーツとからだ
- 4 からだの計測方法
- 5 スポーツとフィットネス
- 6 フィットネス・チェック方法
- 7 スポーツとエネルギー
- 8 エネルギー出納の計算方法
- 9 スポーツとスキル
- 10 スキルの分析方法
- 11 スポーツ競技
- 12 競技の分析方法
- 13 スポーツとトレーニング
- 14 トレーニング処方
- 15 演習問題

テキスト

指定なし(WWWで資料公開)

参考書

指定なし(WWWで資料公開)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

<http://www.ritsumeit.ac.jp/kic/~tnomura/index.html>

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 井街 悠

### 講義内容・テーマ

競技力向上のためだけでなく、健康の維持・増進のためにもスポーツトレーニングは有効である。しかし、トレーニングはたゞ聞くも行なっても効果が少ないばかりか却って健康を阻害することもあり、科学的知識に基づいて正しく行う必要がある。この授業では、主に一般学生が健康の維持や増進を目的にトレーニングを行なおうとする際に必要なスポーツ医学的基礎知識ならびに関連の最新トピックについて学習する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講のために特別な知識やスキルは必要としない。

### 評価方法・基準

\*筆記試験:最終講義日試験で実施

\*日常点:加味しない

### 講義スケジュール

授業は以下の内容について、順次説明する。

- (1)健康と体力の概念 (2)骨格筋の構造、組成、生理 (3)筋力の概念、および筋力トレーニングの原理、種類、方法
- (4)筋持久力の概念、および筋持久力トレーニングの原理、種類、方法 (5)パワーの概念、およびパワートレーニングの原理、種類、方法 (6)全身持久力の概念、および全身持久力トレーニングの原理、種類、方法 (7)運動強度とその評価方法
- (8)有酸素運動と無酸素運動、その相違と生理学的概念 (9)最大酸素摂取量とAT、その概念、測定方法、トレーニングへの応用 (10)準備運動と整理運動、その科学的原理、方法、注意事項 (11)ドーピング、その概念、違反薬物、事例、罰則 (12) 活性酸素とスポーツ (13)スポーツ障害のタイプと対策、健康と栄養および食事

### テキスト

テキスト名:スポーツ科学入門、著者:井街悠、笹山哲、出版社名:三恵社、入手方法:生協図書部で販売

### 参考書

初回の授業時に紹介する

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

<http://www.rcss.kyoto-u.ac.jp>、その他多数につき、授業時に適宜紹介する。

### その他

多人数のため大教室での授業となる。授業内容を理解しやすいようにパワーポイントを多用し、表、図、グラフを多く紹介する。



授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 野村 照夫

講義内容・テーマ

スポーツのサイエンスに関する知見を紹介する。それによって、身体、動作、スポーツ、健康に対する認識を発展させる。  
また、スポーツに関与する諸要因に対する科学的アプローチの意義や問題点を考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

知的探究心が必要

評価方法・基準

\* 筆記試験：定期試験として実施

\* 日常点：加味する

記述、穴埋め、計算等の問題による定期試験で合否判定するが、提出物や出席点によって、点数不足を補う場合がある。

講義スケジュール

- |    |               |
|----|---------------|
| 1  | スポーツにおける科学の立場 |
| 2  | ジュニア期のトレーニング  |
| 3  | スポーツとからだ      |
| 4  | からだの計測方法      |
| 5  | スポーツとフィットネス   |
| 6  | フィットネス・チェック方法 |
| 7  | スポーツとエネルギー    |
| 8  | エネルギー出納の計算方法  |
| 9  | スポーツとスキル      |
| 10 | スキルの分析方法      |
| 11 | スポーツ競技        |
| 12 | 競技の分析方法       |
| 13 | スポーツとトレーニング   |
| 14 | トレーニング処方      |
| 15 | 演習問題          |

テキスト

指定なし(WWWで資料公開)

参考書

指定なし(WWWで資料公開)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

<http://www.ritsumeai.ac.jp/kic/~tnomura/index.html>

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 遠藤 彰

講義内容・テーマ

生物の多様性をめぐる言説:生物世界がかくも多様であることを、人はさまざまな時代・文化圏においてそれなりにとらえてきた。野生の思考からアリストテレスの体系、ローマやアラビアを経てルネサンス、その後の博物学という自然の秩序の理解、そしてキュヴィエやダーウィンの思想、さらに20世紀生物学の位相を浮き彫りにして、その多様性がどのように認識されてきたか。現代の生物的自然が陥っている深刻な危機も射程に入れつつ、生物多様性をめぐる表象・言説・思想を超低空飛行で「歴史的」に俯瞰・素描し、現代の通念を相対化して、人を含む生物世界を、ささやかに、しかし根底的に再考するための序奏としたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この講義は、通例の教科書とはちがう、少し変則的な、私なりにアレンジした生物学の歴史ということになる。興味のある方は、ここから勉強がはじまると思ってほしい。高校までの生物学の知識は必ずしもいらない。いわばこの講義の続編、現代版である「自然と進化」も併せて受講されるとよい。

評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施  
受講者数があまりに多いと、定期試験による評価をするかもしれない。

講義スケジュール

- # 01 ラスコーのファウナと野生の思考: 描くことと神話そして分類
- # 02 エジプシャン・アニマルズの「細部の神」と「死者の書」・ファラオ
- # 03 ギリシャのピュシス: プラトンの人体諸器官配置論とアリストテレスの動物論の射程
- # 04 ローマの博物誌: ヴァーロ、ルクレティウス、プリニウス
- # 05 アレキサンドリア: アヌス・ムンディ / 聖書、グノーシス、フィシオログス文書
- # 06 アラビアの想像力: 千一夜物語と錬金術と「生命の樹」
- # 07 ルネサンスの魔術とスコラ: 大宇宙と小宇宙(天体と人体) / F.ペーコンの脱魔術(?)と  
反アリストテレス / 類似の思想から「表象の混乱」
- # 08 バロックの普遍精神: 博物学の世紀 / 庭園の思想 / リンネの「自然の体系」= 分類すること
- # 09 存在の大連鎖 / 百科全書派からラマルクとゲーテの変形論
- # 10 有機体概念 = 生物学の誕生: キュヴィエの革命 / オーウェンの相似概念 / 形態学論争
- # 11 ペイリーの自然神学 / ヴィクトリアの博物学ブーム / A.フンボルトの「コスモス」
- # 12 東アジアの「博物学空間」: 秋草の美学から江戸の本草学と「尽くし」の文化
- # 13 進化論のエピステーメ: ダーウィンとウォーレスの時空 / 地理的な変異と集団をとらえる思考
- # 14 20世紀生物学の位相と展開: 系統樹の構成 / 遺伝子概念の変遷 / 発生生物学の紆余曲折
- # 15 生態学の多様性論: 複雑な自然の再認識 / 共時態と通時態の理解

テキスト

特定のテキストは使用しない。毎回プリントを配布する。  
それがそのまま「本」になる。

参考書

講義のプリントで多数紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

## 生物の多様性 GB

15693

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 佐藤 路子

講義内容・テーマ

地球上には海洋、河川、森林、高山、砂漠など様々な環境が存在し、それぞれに適応して様々な生物が生息している。そして、同じ環境に生息している生物同士であっても、生活を営む方法はそれぞれ違っている。本講義ではこのような生物の多様性をもたらす要因と過程、維持機構について考察する。また近年注目が高まっている生物多様性の重要性と保全についても議論する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施  
定期試験によって評価する。

講義スケジュール

- 1)生物の多様性と環境
- 2)多様性の形成
- 3)多様性の維持機構
- 4)多様性の保全

授業の方法

必要な場合にはプリントを配布する。VTRも使用する予定。

テキスト

参考図書は講義中に適宜紹介する。

参考書

講義中に適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

生物の基礎知識は必要ないが論理的思考力は必要。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 池上 順子

講義内容・テーマ

細胞の多様性と生体情報系

地球上では、海の中や熱い砂漠でも、多様な生物が、環境に適応して生存している。一方、生物個体内でも、多様な細胞が環境(内部環境)と相互に作用しつつ存在している。この講義では、多細胞生物を構成している細胞の多様性と、それらの細胞間あるいは細胞内の情報伝達の巧妙なしくみについて解説する。また、細胞の増殖・分化を指令する物質についてもとりあげたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\* 筆記試験: 定期試験として実施

講義スケジュール

## 1. 生体情報系

複雑でたくみな生命現象は、生体のさまざまな機能を調節する生体情報系(神経系、内分泌系、免疫系)によって制御されている。

## 1) 情報伝達物質

神経伝達物質: 神経細胞

ホルモン: 内分泌細胞

サイトカイン: 多種の細胞

## 2) 刺激の需要と反応

感覚器官ならびに細胞の受容体

細胞間情報伝達と細胞内情報伝達

## 2. 細胞の多様性と調節のしくみの例

生体を構成している細胞は、それぞれの機能をいとなむ器官や組織との関連によって特殊化し多種多様である。

## 1) 運動機能 筋・骨細胞

## 2) 体色変化の機構 色素細胞

## 3) 呼吸と循環の調節 総合的調節

## 4) 細胞の増殖 血管新生

## 5) 細胞の分化 血液細胞の分化

テキスト

使用しない。

参考書

授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

講義形式とするが、プリントを用いて説明を行う。また、視聴覚教材もとりいれたい。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 佐藤 路子

### 講義内容・テーマ

地球上には海洋、河川、森林、高山、砂漠など様々な環境が存在し、それぞれに適応した様々な生物が生息している。そして、同じ環境に生息している生物同士であっても、生活を営む方法はそれぞれ違っている。本講義では様々な生物やその営みを紹介し、なぜたくさんの生物が存在しているのか、どうやって様々な生活の営みが作り上げられてきたのか、その多様性はどのように維持されているのか、を主に環境と生物の関係・生物間関係に着目して解説する。また近年注目されている生物多様性の重要性と保全についても議論する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

一回の講義は前半と後半に分かれています。前半では生物多様性を理解するために必要な概念や理論を具体例を通じて学習します。後半では生物多様性に大きな影響を及ぼす外来種、絶滅に瀕している種、保全運動が行われている種などの中から、毎回1種類の話題の生き物を取り上げて、その特徴や生活ぶりを紹介し、その生物が現在直面している問題について解説します。  
理解を深めるために「自然と進化」を合わせて受講されることをおすすめします。

### 評価方法・基準

- \*筆記試験:定期試験として実施
- \*筆記試験:定期試験として実施
- \*日常点:補助的に小レポートを課すことがあります。(内容により、5-10点加算)

### 講義スケジュール

細かなスケジュールをここで挙げることはしませんが、以下の順序に従って授業を進める予定です。

1. 授業の概要、受講のルール、試験および評価基準について
2. 生物多様性の概念と階層性
3. 種多様性と種の形成
4. 環境と生物の関係・生物間関係
5. 生物多様性の重要性と現状
6. 人間の活動と保全

#### 授業の方法

必要な場合にはプリントを配布する。VTRも使用する予定。

### テキスト

参考図書は講義中に適宜紹介する。

### 参考書

講義中に適宜紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

生物の基礎知識は必要ないが論理的思考力は必要。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 桂 郁雄

講義内容・テーマ

## 地球変動学

地球表層で生起しているさまざまな変動をプレートテクトニクスを基礎として理解することを目指す。始めに地球についての全体像を解説する。その後、プレート同士の相互運動により、プレート境界周辺で集中的にさまざまな変動が起きることを学ぶ。とくに日本列島とその周辺は、世界的に見てもプレート境界で起こる諸現象がとくに集中しているところである。そこで日本列島の形成と現在生起している変動の特徴についても学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

高校地学の知識は要しない。数学・物理・化学等の知識があったほうが多少は有利であるが、必須ではない。授業の理解には毎回の積み上げが大事である。

評価方法・基準

\* 筆記試験・定期試験として実施

論述試験による。学んだ知識を基礎として応用できるかどうかの評価対象である。

講義スケジュール

1. はじめに - 地球システムについて .
  2. 地球と太陽系の誕生と進化 .
  3. 地球のかたちと重力場 .
  4. 地震波でわかってきた地球の内部構造 .
  5. 地球の構成物質 - 元素・鉱物・岩石 .
  6. 地震と火山の発生するところ .
  7. プレートの概念と球面を動くプレートの運動 .
  8. プレート運動の推定 - 岩石・地層に記された昔の地球磁場の記録 .
  9. プレート境界に働く力 - 地震の発生メカニズム .
  10. プレート境界で起こる変動 - とくに火山活動について .
  11. プレート運動のエネルギー源 .
  12. 日本列島の形成 .
  13. 日本列島のテクトニクス .
  14. テクトニクスに起因する自然災害 .
  15. まとめ .
- 各回のおおむねのテーマである。テーマの重さや理解度によって進度を調整する。

テキスト

## 重要な参考書

西脇二一・他共著「大学教養地球科学(改訂版)」(三和書房, 本体2000円)

参考書

- 杉村新・他編「図説地球科学」(岩波書店, 1988)  
 河野長「地球科学入門 - プレートテクトニクス」(岩波書店, 1986)  
 杉村新「グローバルテクトニクス」(東京大学出版会, 1987)  
 上田誠也「プレートテクトニクス」(岩波書店, 1989)  
 瀬野徹三「プレートテクトニクスの基礎」(朝倉書店, 1995)  
 安藤雅孝・吉井敏尙「地震 - 理科年表読本」(丸善, 1993)  
 藤田和夫「変動する日本列島」(岩波新書, 1985)  
 松田時彦「活断層」(岩波新書, 1995)  
 平朝彦「日本列島の誕生」(岩波新書, 1990)  
 Kenneth J. Hs? 高柳洋吉訳「地球科学に革命を起こした船 - グローマーチャレンジャー号」(東海大学出版会, 1999)  
 土木学会関西支部編「地盤の科学 地面の下をのぞいてみると…」(講談社ブルーバックス, 1995)  
 池田安隆・他「活断層とは何か」(東京大学出版会, 1996)  
 寒川旭「地震考古学 遺跡が語る地震の歴史」(中公新書, 1992)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他



授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 桂 郁雄

講義内容・テーマ

地球表層の自然環境を考える。  
地球表面で太陽エネルギーが如何に蓄えられ、分配されているかを学ぶ。そこでの大気と海洋の寄与を理解した上で、太陽系の他の惑星との比較も含めて、地球の特異性を明らかにする。その後で地球の過去の環境変動を学ぶ。いわゆる地球の進化史や生命の起源と進化、および最近の自然環境の変動などについてである。さらに、人類の将来を再考する一助として、エネルギー資源と地球環境の問題を考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

高校地学の知識は要しない。物理・化学・生物等の知識があったほうが多少は有利であるが、必須ではない。授業の理解には毎回の積み上げが大事である。

評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施  
論述試験による。学んだ知識を基礎として応用できるかどうかの評価対象である。

講義スケジュール

1. はじめに - 地球システムとは。
  2. 地球表層へのエネルギー源 - 太陽光のスペクトル。
  3. 熱平衡 - 黒体放射の物理と温室効果ガスの役割。
  4. 地球表層のエネルギー収支とエネルギーの分配。
  5. 大気と海洋の構造と熱の吸収, 大循環と熱の輸送。
  6. 地球と太陽系の誕生 - 衝突と集積, および素材元素。
  7. 地球の成層構造の誕生 - 元素の再配分, および地球物質の年齢。
  8. 海洋の誕生と生命の起源 - 水の起源と生命。
  9. 生物の進化と大気の進化 - 遊離酸素の出現, 二酸化炭素のゆくえ。
  10. 太陽系の他の惑星 - 地球の特異性。
  11. 自然環境の変動 - 変動のタイムスケール。
  12. 変動の自然要因と人為要因。
  13. エネルギー資源 - 化石燃料と原子力。
  14. 将来の課題 - 解決を待つ環境問題, とくに二酸化炭素問題。
  15. まとめ。
- 各回のおおむねのテーマである。テーマの重さや理解度によって進度を調整する。

テキスト

使用しない。資料を必要により配布する。紹介する参考書の一つは読む必要がある。

参考書

松井孝典「地球 - 誕生と進化の謎 最新地球科学入門」(講談社現代新書, 1990)  
松井孝典「惑星科学入門」(講談社学術文庫, 1996)  
野崎義行「地球温暖化と海 - 炭素の循環から探る」(東京大学出版会, 1994)  
小嶋稔「地球史入門」(岩波書店, 1987)  
杉村新・他編「図説地球科学」(岩波書店, 1988)  
鹿園直建「地球システム科学入門」(東京大学出版会, 1992)  
住明正・他「岩波講座地球惑星科学 3.地球環境論」(岩波書店, 1996)  
住明正・他「岩波講座地球惑星科学 11.気候変動論」(岩波書店, 1996)  
丸山茂徳・磯崎行雄「生命と地球の歴史」(岩波新書, 1998)  
サイモン・コンウェイ・モリス「カンブリア紀の怪物たち」(講談社現代新書, 1997)  
J.ウィリアム・ショップ「失われた化石記録」(講談社現代新書, 1998)  
大島泰郎「地球外生命」(講談社現代新書, 1999)  
日本海洋学会編「海と環境 - 海が変わると地球が変わる」(講談社, 2001)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他





授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 桂 郁雄

講義内容・テーマ

## 地球変動学

地球表層で生起しているさまざまな変動をプレートテクトニクスを基礎として理解することを目指す。始めに地球についての全体像を解説する。その後、プレート同士の相互運動により、プレート境界周辺で集中的にさまざまな変動が起きることを学ぶ。とくに日本列島とその周辺は、世界的に見てもプレート境界で起こる諸現象がとくに集中しているところである。そこで日本列島の形成と現在生起している変動の特徴についても学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

高校地学の知識は要しない。数学・物理・化学等の知識があったほうが多少は有利であるが、必須ではない。授業の理解には毎回の積み上げが大事である。

評価方法・基準

\* 筆記試験・定期試験として実施

論述試験による。学んだ知識を基礎として応用できるかどうかの評価対象である。

講義スケジュール

1. はじめに - 地球システムについて .
  2. 地球と太陽系の誕生と進化 .
  3. 地球のかたちと重力場 .
  4. 地震波でわかってきた地球の内部構造 .
  5. 地球の構成物質 - 元素・鉱物・岩石 .
  6. 地震と火山の発生するところ .
  7. プレートの概念と球面を動くプレートの運動 .
  8. プレート運動の推定 - 岩石・地層に記された昔の地球磁場の記録 .
  9. プレート境界に働く力 - 地震の発生メカニズム .
  10. プレート境界で起こる変動 - とくに火山活動について .
  11. プレート運動のエネルギー源 .
  12. 日本列島の形成 .
  13. 日本列島のテクトニクス .
  14. テクトニクスに起因する自然災害 .
  15. まとめ .
- 各回のおおむねのテーマである。テーマの重さや理解度によって進度を調整する。

テキスト

## 重要な参考書

西脇二一・他共著「大学教養地球科学(改訂版)」(三和書房, 本体2000円)

参考書

杉村新・他編「図説地球科学」(岩波書店, 1988)  
 河野長「地球科学入門 - プレートテクトニクス」(岩波書店, 1986)  
 杉村新「グローバルテクトニクス」(東京大学出版会, 1987)  
 上田誠也「プレートテクトニクス」(岩波書店, 1989)  
 瀬野徹三「プレートテクトニクスの基礎」(朝倉書店, 1995)  
 安藤雅孝・吉井敏尙「地震 - 理科年表読本」(丸善, 1993)  
 藤田和夫「変動する日本列島」(岩波新書, 1985)  
 松田時彦「活断層」(岩波新書, 1995)  
 平朝彦「日本列島の誕生」(岩波新書, 1990)  
 Kenneth J. Hs? 高柳洋吉訳「地球科学に革命を起こした船 - グローマーチャレンジャー号」(東海大学出版会, 1999)  
 土木学会関西支部編「地盤の科学 地面の下をのぞいてみると…」(講談社ブルーバックス, 1995)  
 池田安隆・他「活断層とは何か」(東京大学出版会, 1996)  
 寒川旭「地震考古学 遺跡が語る地震の歴史」(中公新書, 1992)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他



授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 桂 郁雄

講義内容・テーマ

地球表層の自然環境を考える。

地球表面で太陽エネルギーが如何に蓄えられ、分配されているかを学ぶ。そこでの大気と海洋の寄与を理解した上で、太陽系の他の惑星との比較も含めて、地球の特異性を明らかにする。その後で地球の過去の環境変動を学ぶ。いわゆる地球の進化史や生命の起源と進化、および最近の自然環境の変動などについてである。さらに、人類の将来を再考する一助として、エネルギー資源と地球環境の問題を考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

高校地学の知識は要しない。物理・化学・生物等の知識があったほうが多少は有利であるが、必須ではない。授業の理解には毎回の積み上げが大事である。

評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施

論述試験による。学んだ知識を基礎として応用できるかどうかが評価対象である。

講義スケジュール

1. はじめに - 地球システムとは。
  2. 地球表層へのエネルギー源 - 太陽光のスペクトル。
  3. 熱平衡 - 黒体放射の物理と温室効果ガスの役割。
  4. 地球表層のエネルギー収支とエネルギーの分配。
  5. 大気と海洋の構造と熱の吸収, 大循環と熱の輸送。
  6. 地球と太陽系の誕生 - 衝突と集積, および素材元素。
  7. 地球の成層構造の誕生 - 元素の再配分, および地球物質の年齢。
  8. 海洋の誕生と生命の起源 - 水の起源と生命。
  9. 生物の進化と大気の進化 - 遊離酸素の出現, 二酸化炭素のゆくえ。
  10. 太陽系の他の惑星 - 地球の特異性。
  11. 自然環境の変動 - 変動のタイムスケール。
  12. 変動の自然要因と人為要因。
  13. エネルギー資源 - 化石燃料と原子力。
  14. 将来の課題 - 解決を待つ環境問題, とくに二酸化炭素問題。
  15. まとめ。
- 各回のおおむねのテーマである。テーマの重さや理解度によって進度を調整する。

テキスト

使用しない。資料を必要により配布する。紹介する参考書の一つは読む必要がある。

参考書

- 松井孝典「地球 - 誕生と進化の謎 最新地球科学入門」(講談社現代新書, 1990)  
 松井孝典「惑星科学入門」(講談社学術文庫, 1996)  
 野崎義行「地球温暖化と海 - 炭素の循環から探る」(東京大学出版会, 1994)  
 小嶋稔「地球史入門」(岩波書店, 1987)  
 杉村新・他編「図説地球科学」(岩波書店, 1988)  
 鹿園直建「地球システム科学入門」(東京大学出版会, 1992)  
 住明正・他「岩波講座地球惑星科学 3.地球環境論」(岩波書店, 1996)  
 住明正・他「岩波講座地球惑星科学 11.気候変動論」(岩波書店, 1996)  
 丸山茂徳・磯崎行雄「生命と地球の歴史」(岩波新書, 1998)  
 サイモン・コンウェイ・モリス「カンブリア紀の怪物たち」(講談社現代新書, 1997)  
 J.ウィリアム・ショップ「失われた化石記録」(講談社現代新書, 1998)  
 大島泰郎「地球外生命」(講談社現代新書, 1999)  
 日本海洋学会編「海と環境 - 海が変わると地球が変わる」(講談社, 2001)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他



授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 菅沼 良治

### 講義内容・テーマ

「みる」ということをテーマとして、人間の眼、道具を用いた眼、人工衛星の眼による観測などの話をする。対象は狭い物理に止まらず、地球科学や生理学で用いられている物理的手法にもふれる。人間が手に入れることができる情報の8割までが視覚によるといわれている。講義の方法も、終始、TV上に全資料を提示し、数式抜きで解説し、物理としての論理の仕組みを直接見ていただく。板書は一切しない。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

中学程度の知識があれば可。

### 評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味しない

評価方法は、配布する全資料をふくめ、持ち込み自由で、「五者択一の × 試験」を定期試験として実施する。全20問とし、授業中に解説する例題からも相当数出題する。評価基準は最終講義時に解説する予定。

### 講義スケジュール

1. 光を調べる:
  - 「みる」とは 視覚の歴史 屈折の法則 光の直進・反射・屈折 光の分散 光の色と混色
2. 大気のなかの光と色:
  - 光のスペクトル 電波の「窓」物体の色とは 空はなぜ青いか 虹と蜃気楼
3. 視覚をめぐって:
  - 眼球と水晶体 網膜と視細胞 ロドプシンと色視物質 色覚 生物の眼
4. 脳がみている:
  - 視覚の伝達 コラムの発見 ランダムドット・ステレオグラム 立体視 立体錯視
5. 光でみるミクロの世界:
  - レンズの仕組み フックの書物 レーベンフックと微生物 分解能の発見
6. 電子でみる超ミクロの世界:
  - 電子とは 電子顕微鏡の開発 超高分解能と電子の波動性 ミクロの世界
7. 人体を見る:
  - 解剖学の系譜 体温計 血圧計 心電図 内視鏡で消化管を見る タバコと肺ガン
8. 人体内部の姿:
  - X線の発見 肺結核 二重造影法 被爆線量 X線CT MRI 超音波エコー PET
9. もっと遠くの光を:
  - ガリレイとニュートンの望遠鏡 膨張宇宙の発見 宇宙望遠鏡 日本の「すばる」
10. 探査機でみる惑星の姿:
  - 木星とボイジャー計画 探査機ガリレオ 衛星イオの火山 画像の伝達方法 火星をめぐって
11. 宇宙からみる気象の世界:
  - 気象情報今昔 雲と雲粒の成長と雨 対流と雲塊 気象衛星 降雨観測衛星
12. 宇宙からみる風と海流:
  - 地球規模の風系 地球自転 高低気圧と風 大循環モデル 海流と海洋観測衛星
13. 宇宙から地表をみる:
  - 軍事偵察衛星から地球観測衛星へ 開発と破壊の姿 土地利用の識別法 空からみた日本周辺
14. 深海を探る:
  - 潜水 潜水探査艇と原理 しんかい6500の記録 「かいこう」の記録 海底資源
15. 閉講 補講となることがある

### テキスト

TVに提示する図版等は、配布する「資料集」に掲載する。毎回授業時にも「黒板」と称するレジュメを配布するが、板書に代るものであり、その意味で、残紙を保存し得ないので注意すること。

### 参考書

資料集冒頭に掲載する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

終始TVを使用し、板書をしないが、授業中は「資料集」にメモ程度の付け足しで足りると思う。見ることに聴くことに集中してほしい。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 新川 加奈子

講義内容・テーマ

環境問題は、ローカルな(身近な)問題からグローバル(地球全体)の問題まで広範囲であり、多様化しているのが現実である。先進諸国での大量生産・大量消費生活が問題の背景にある一方で、途上国では貧困が問題の背景にある。本講義では、環境問題について  
 の知識の集積を目標にするのではなく、「どのように考えれば」「どのように生活すれば」地球環境問題が解決する方向へ向かうのかを受講生と共に考えるのが目標である。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本講座は指定された教室に来て、座って、何も考えずに静かに講義を聞いていれば単位が取れる授業ではありません。フルに回転することのできる アタマ を用意してください。

評価方法・基準

\* 筆記試験: 定期試験として実施

\* 日常点: 加味する

地球にやさしい生活をするための「実践レポート」を講義期間中に自由課題として提案します。提出者には評価の際に、最高でプラス10点を加算します。また、講義終了後、レスポンスペーパーの提出を数回行う予定なので、提出者には日常点として加味します。

講義スケジュール

1. 現代の環境問題とは --- 「環境・今わたしたちにできること」環境問題の考え方について
2. 身近な環境問題として --- 環境問題の基礎用語について
3. 環境問題の現状と特徴 --- 地球の温暖化とオゾン層破壊
4. 環境問題の現状と特徴 --- 生物多様性の減少
5. 環境問題の現状と特徴 --- 環境ホルモンによる健康影響
6. 環境問題の現状と特徴 --- 有害廃棄物
7. 環境問題への克服 --- 現代の消費行動
- 8-9. 環境問題の克服 --- 世界の人口問題と日本の人口問題
- 10-11. 環境問題の克服 --- 貧困(豊かさをもとめること)
- 12-13. 環境問題の克服 --- 食糧問題
14. 環境市民と環境NGO
15. 環境保全型社会の形成 --- どれだけ所有すれば十分か

テキスト

「環境問題を学ぶ人のために」和田武編 世界思想社 ¥2,300-

参考書

- 「地球白書 2002-03 ワールドウォッチ研究所」家の光協会  
 「人口減少社会の設計」松谷明彦著 中公新書 2002年  
 「開発と貧困」絵所秀紀・山崎幸治編 研究双書 2000年  
 「地球環境問題がよくわかる本」岸上定男著 鳥影社 2001年

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他



授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 徐 勝

講義内容・テーマ

21世紀は「人権の世紀」と言われている。「冷戦の崩壊」、イデオロギーの終焉とともに、人権、環境、平和、ジェンダーなどが新しい世紀のキーワードとして登場してきている。これらの課題のすべてが、「人間が人間らしく生きることのできる世界」の創造を目指しているが、人権はその中心を成すものであるといえよう。今日、人権ほど広く用いられている言葉は少ないが、明確に説明できる人は少ない。本講義では、人権の基本的な概念と歴史、さらにいくつかのトピックを取り上げて、日本とアジアの関係を視野におきながら、人権の実際を分かりやすく理解することを目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

主題にそって講義を行うが、可能な限りビデオや映像を用い理解の助けとする。受講者の積極的意見表明と質問、討論の時間を設けたい。「他人の自由が始まるまでが自分の自由」です。他受講者の迷惑にならないように、受講秩序を守ること。原則として欠席は認めない。

評価方法・基準

\* 筆記試験：定期試験として実施

\* 日常点：加味する

期末の試験と中間レポート、さらに受講者の講義への参加態度、発言により評価する。

講義スケジュール

- 1～2回、世界人権憲章(世界人権宣言、国際人権規約)を読む
- 3回、 人権とはなにか
- 4、5回、人権論の成立と自由権的人権
- 6回、 人権論の展開(社会権)
- 7回、 今日の人権(発展権)
- 8回、 アメリカの人権外交
- 9回、 アジア的人権論
- 10回、 国家安全保障論(非常事態論)と人権
- 11回、 人権と平和
- 12回、 人道介入の論理と実際
- 13回、 戦後補償(日本とアジア)
- 14回、 まとめ

テキスト

テキストは特にないが、大学から配布された『ガイドブック 私たち、人間の権利』は必ず事前に読んでおいてもらいたい。その他は適宜、講義でプリントを配布し、参考書を指示する。

参考書

『世界人権宣言50周年』立命館土曜講座シリーズ4 1999

テキストブック『国際人権法』阿部浩己・今井直 日本評論社 1996

『人権宣言集』高木八尺他 岩波文庫 1957年

『国際人権条約・宣言集』田畑茂次郎他 東信堂 1994

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

<http://www.unic.or.jp/>

[http://dir.yahoo.co.jp/Society\\_and\\_Culture/Issues\\_and\\_Causes/Human\\_Rights/Organizations/Amnesty\\_International/](http://dir.yahoo.co.jp/Society_and_Culture/Issues_and_Causes/Human_Rights/Organizations/Amnesty_International/)

<http://www.mars.sphere.ne.jp/jhfr21/>

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生以上

担当教員 大西 一嘉

講義内容・テーマ

防災科学とは「知る」「見つける」という発見の科学と、「構想する」「造る」という創造の科学の共同作業の成果であるべきで、自然、生物、社会といった結びつきの中で生活環境や地域の安全の問題に取り組んでいかねばならない。そこで本講義では、安全の哲学、災害の構造、安全対策の視点といった安全論または防災の基本的考え方について論じる。さまざまな災害の特徴を都市という被災対象に着目しつつ概観する。さらに、防災対策の立案手法、災害科学研究の視点と課題について講述し、防災計画手法および防災研究の基本的な考え方の習得を目的とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特に求める知識やスキルはないが、地球科学分野と関連する地学や地理学等、中学理科程度の内容に一定の理解を有することが望まれる。板書事項や講述内容も含めてノートを取り、関心を持った点を幅広く復習した成果を独自の講義ノートとしてまとめていくことが重要と考えている。

評価方法・基準

日常課題、講義ノート提出、レポートによる。日常課題については、出席状況を把握し講義内容をどれだけ注意深く聞いて理解できたかをみる。レポートについては、図書館やインターネットなどの情報資源を偏りなく使いこなし、参考文献一覧として整理されているかどうか、及び既知の知識体系と自分の意見が明確に区分して書き分けられていることを重視する。講義ノートは前述の通り日常的な関連学習の成果をみる。

講義スケジュール

## 災害原論

- (1)安全、防災の考え方
- (2)災害論、災害の構造
- (3)災害法制度

## 災害各論

- (1)風土と災害、水害
- (2)地震、津波
- (3)火災
- (4)阪神大震災の教訓
- (5)日常事故、その他の災害

## 防災対策

- (1)地域防災計画
- (2)都市防火対策
- (3)防災拠点づくり
- (4)安全安心のまちづくり

## 災害科学研究

- (1)人間の行動
- (2)災害情報
- (3)災害調査

テキスト

特に指定しない。必要に応じてレジュメを配布する。

参考書

- 高橋浩一郎(1977)「災害論」(東京堂出版)  
 藤井陽一郎、村上處直(1978)「地震と都市防災」(新日本新書)  
 安部北夫、秋元律郎編(1982)「都市災害の科学」(有斐閣)  
 今井実、長谷川義明、植崎泰道編(1983)「都市防災」(ぎょうせい)  
 都市防災研究会(1996)「地震防災と安全都市」(鹿島出版会)  
 松澤俊雄編(1998)「大都市の社会基盤整備」(東京大学出版会)  
 阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワーク編(1998)「震災復興が教えるまちづくりの将来」(学芸出版社)  
 ( は書店で購入可、その他については図書館でも入手が困難)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

その他

該当なし

ジェンダー論 GA  
女性学 GA

15111

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 高橋 裕子

### 講義内容・テーマ

まず日常的なジェンダー感覚とはいかなるものなのかを様々な角度から取り上げ、後に、それらが相互行為場面でどのように作用し、その結果、行為者が好むと好まざると二項対立的に分類されることを社会学的な視点から明らかにする。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

通念にとらわれないジェンダー理解を得るためには、講義に継続的に出席する学生の努力が不可欠である。思考の地道に積み重ねるつもりで講義に参加していただきたい。

### 評価方法・基準

\* レポート:試験に代わるレポートとして実施

### 講義スケジュール

- 第1回 インTRODククション
- 第2回 生物学的性・セクシュアリティ・ジェンダー
- 第3回 生物学的性・セクシュアリティ・ジェンダー
- 第4回 性同一性障害 生物学的性・セクシュアリティ・ジェンダーの関係性
- 第5回 身体技法に見る「男らしさ」「女らしさ」
- 第6回 身体技法に見る「男らしさ」「女らしさ」
- 第7回 身体技法を読み解く
- 第8回 自己提示とは？
- 第9回 社会的状況の秩序
- 第10回 「男らしさ」「女らしさ」が導き出すもの PAIR-FORMATION
- 第11回 「男らしさ」「女らしさ」が導き出すもの PAIR-FORMATION
- 第12回 アイデンティティの模索 「私らしさ」とは？
- 第13回 アイデンティティの模索 「私らしさ」とは？
- 第14回 まとめ

### テキスト

『女らしさ』の社会学(高橋裕子、学文社)

### 参考書

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

登録者との関係から、基本的には講義形式で授業を進めていく。ただし、ビデオ鑑賞後の感想や日常的なジェンダー感覚を小レポートにまとめてもらう予定。

ジェンダー論 GB  
女性学 GB

10347

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 二宮 周平

講義内容・テーマ

私たちは、日常生活の中で、自然に「男だから」「女だから」と思って行動したり、人を評価していたりしないだろうか。こうした性差は文化的、社会的に作られ、刷り込まれたといわれているが、なぜそういう仕組みができたのか、また男女の性差が、現実の社会や法制度にどのような影響を与えているのか、その相互作用を客観的に検証し、男女が性別に囚われず、安心して自分の個性を生き、自分の人生を歩むことができるようにするには、どのような制度が必要か、どのような改革をしていかなければならないかを、受講生と共に考えてみたい。講義担当者は民法が専攻なので、講義内容は法学的な観点が多くなる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目。法制度にかかわる論点、法学的観点が多くなるが、法学部以外の学生も受講できるように進めるので、心配はいらない。授業内容の大まかな項目・資料・宿題などをまとめたレジュメを作成するが(授業前に法学部事務室前のレジュメ棚から受け取っておくこと)、それ以外の授業内容はしっかりとノートをとること。復習のための宿題を出して、次回に解答を検討するなど、受講生とのやりとりをするので、積極的に取り組んで欲しい。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

定期試験による。問題点を客観的に整理した上で、自分の考えを論理的に展開できること。宿題や質問に積極的に取り組んだ人は高く評価したい。

講義スケジュール

ジェンダーとは何か(テキストの関連箇所1-1~4)、夫婦別姓とライフスタイルの多様化(2-3)、家族モデルの形成と変化(2-1~2)、セクシュアリティ(同性愛と異性愛、3-1~2)、人工生殖技術の利用とジェンダー(3-3)、人工妊娠中絶と自己決定権(3-3)、性暴力の意味と社会構造、ドメスティック・バイオレンス(2-4)、セックスワークと自己決定(3-4)、セクシュアル・ハラスメントとキャンパス・ハラスメント(4-4)、アンパイドワークと家事労働(4-1)、雇用の平等とその背景(4-2)、男女共同参画社会の実現へ向けて

テキスト

池内・武田・二宮・姫岡編『21世紀のジェンダー論』(晃洋書房)

参考書

授業中適宜指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

ジェンダー論 GC  
女性学 GC

12354

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 松原 洋子

講義内容・テーマ

客観的・中立的なものとして語られる健康、病気、障害、性と生殖、身体的精神的性差などをめぐる生物学的・医学的言説と実践のなかには、性をめぐる政治的判断が滑り込んでいる。この授業では生物学と医学／医療をめぐる多様な言説および実践のうち、性役割概念、異性愛至上主義、性的二型性の絶対視などが問題になる事例をいくつか紹介し、受講者が身体と性のポリティクスとの関係について考える手がかりを提供する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義形式で行う。視聴覚教材も適宜利用する。特別な予備知識は必要ないが、授業では身体とジェンダーの関係について、生物学や医学／医療の側面から論じるので、そうした問題領域に関心のある学生が望ましい。また、授業の目標は提示されたトピックから学生自身が身体とジェンダーの関係を新たに発見することであり、系統的知識の獲得ではない。

評価方法・基準

\* 筆記試験・定期試験として実施  
成績評価は授業で提出するミニレポートおよび定期試験を総合して行う。

講義スケジュール

1. ガイダンス
2. 博物学とジェンダー
3. 生物学とジェンダー
4. 産婦人科学のなかの女性
5. リプロダクティブ・ヘルス／ライツ(1)女性の健康運動と中絶合法化
6. リプロダクティブ・ヘルス／ライツ(2)人口政策への抵抗
7. リプロダクティブ・ヘルス／ライツ(3)性差医学
8. 病気とジェンダー(1)介護者としての女性
9. 病気とジェンダー(2)男性更年期
10. 生殖技術とジェンダー(1)不妊治療
11. 生殖技術とジェンダー(2)拡張された「生殖権」
12. セックス／ジェンダー二分法の問題(1)性科学とジェンダー概念
13. セックス／ジェンダー二分法の問題(2)フェミニストの批判
14. まとめ
15. 閉講

テキスト

テキストは特に指定しない。授業中に配布したレジュメ、資料を使用する。

参考書

ロンダ・シーピンガー『ジェンダーは科学を変える！？』工作舎、2002年  
江原由美子『自己決定権とジェンダー』岩波書店、2002年  
江原由美子編『生殖技術とジェンダー』勁草書房、1996年  
荻野美穂『ジェンダー化される身体』勁草書房、2002年

その他の文献も授業で適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

ジェンダー論 GD  
女性学 GD

11982

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 伊田 広行

### 講義内容・テーマ

近代社会は、社会文化的に形成され信じられてきた共同幻想たる「ジェンダー」をベースに、男女性別役割分業、男女異性愛結婚家族を標準とするシステムを作り上げてきた。しかし、近年、大きな社会環境変化を反映して、根源的に男女性別の秩序自体の問い直しが進んでいる。私たちが多様な生きかたを尊重し、人権が守られるような社会にするためには、どのように認識し、どんな制度・意識改革を進めればいいのかを、行政、企業、家族、個人の各レベルで検討していく。今回は特に、自分の日常生活の言動中に隠されている家族単位的思考に気づき、自分を見つめながら、どのように生きたいのかを考えていくことを目指したいので、ワークショップ的手法をできる限りつかって行いたいと考えている。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

講義に出席して講義のまとめと意見を書くことを基本とするが、それ以外は未定。

### 講義スケジュール

- 第1回 ジェンダー論の基本 男女二分法は絶対ではない
- 第2回 家族単位システムへの気づき
- 第3回 シングル単位という対極の発想を知る
- 第4回 北欧型福祉社会はシングル単位
- 第5 - 6回 自分のなかの家族単位発想に気づく
- 第7 - 8回 ちまたの恋愛論とシングル単位の恋愛論
- 第8 - 9回 家庭内暴力(夫婦間、児童虐待)、性暴力、セクハラはあなたに無縁か
- 第10 - 11回 セクシュアリティ、性の商品化、売買春、援助交際
- 第12回 非婚・少子化の進展と社会の変化をどう受け止めるか
- 第13 - 14回 まとめ スピリチュアリティとポストモダンの観点からの人権論

### テキスト

伊田広行『シングル単位の恋愛・家族論 - ジェンダー・フリーな関係へ』世界思想社

### 参考書

講義中に紹介する

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

ラブピースクラブ (とくに北原みのりさんのエッセイ)  
<http://www.ummit.co.jp/lpve>

### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 土屋 嘉章

### 講義内容・テーマ

20世紀半ばに出現した電子計算機は、20世紀後半に通信と結びつくことによって、目覚ましい進歩を遂げ、21世紀に生きている我々はその大いなる恩恵に浴しながら今日に至っている。  
情報の科学・技術は発展し、ここに「情報科学」と呼ばれる新しい学問が生まれた。  
この学問は今日、人文・社会科学分野を含めて多面的展開を見せている。  
本授業では、その成立の過程を踏まえた上で情報の持つ意味、コンピュータの仕組み、コンピュータ社会の課題などを中心に述べる。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

教科書の流れに沿って、講義を行う。毎回、出席を取る予定。

### 評価方法・基準

- \* 筆記試験：定期試験として実施
  - \* 日常点：加味する
- 期末に試験を行う。試験の成績に出席点を加味する。  
テキスト、配布されたレジュメ、自筆ノートは持ち込み可。

### 講義スケジュール

講義概要は次の通りである。括弧内の回数はおおよその授業回数である。

1. 情報とは(2回)
  - 1) 情報の概念 2) 情報の特性 3) 情報科学
2. コンピュータとは(6回)
  - 1) アナログとデジタル 2) コンピュータの歴史 3) 計算はなぜできるのか
  - 4) ハードウェア 5) ソフトウェア 6) フロー・チャート
3. 現代社会と情報(4回)
  - 1) 情報と意思決定 2) 情報と産業 3) ネットワーク社会 4) マルチメディア社会の到来
4. 高度情報化社会の課題(3回)
  - 1) コンピュータと法律 2) コンピュータ犯罪 3) セキュリティ 4) 暗号
  - 5) その他諸問題

### テキスト

教科書：「教養 情報の科学」：安田 英理住著、共立出版、生協書籍部で販売予定。  
上記を一応教科書としているが、その購入は自由である。  
必要なレジュメはその都度配布する。

### 参考書

適宜、授業時に述べる。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他



授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 山口 道利

講義内容・テーマ

現代社会において、パーソナル・コンピュータ(パソコン)はどの階層の人にとっても不可欠な道具になっている。  
パソコンの操作に、より習熟することを目的とし、各学生自身が自主的に学習をする。  
実習ソフトはMicrosoft社のApplication SoftwareであるOfficeを用いる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

配布されたレジュメを中心に各自学習をする。  
質問、疑問があるときは、その時間の授業内容に関係の有る無しに関わらず、教員、TAに随時、積極的に相談をすること。  
毎授業には、フロッピー・ディスク(3.5インチ、2HD)を持参すること。

評価方法・基準

\* レポート: 試験に代わるレポートとして実施  
\* 日常点: 加味する  
毎授業時に出席を取る。各アプリケーション終了時に課題を与える。  
期間中に3~4課題のレポートを提出して貰い、その内容と、出席点で評価する。

講義スケジュール

授業内容は下記の通り。括弧内の回数はおおよその授業回数である。

- 1) WORDを用いての文章作成(4回)  
文章作成と保存・印刷、文章内に写真やグラフを配置、  
文章を見やすく、美しくデザインをする
- 2) EXCELによる表の作成と表計算(5回)  
表の作成と各種グラフの作成、関数の使い方
- 3) EXCELを用いたデータ・ベース(2回)  
リストの構造と並べ替え、フィルター機能、情報検索
- 4) PowerPointを用いてプレゼンテーション(4回)  
スライドの作成

テキスト

期間中に学ばなければならないことの必要最小限のレジュメは配布する。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

講義予定は大幅に入れ替わる可能性があります。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1回生のみ

担当教員 生田 正幸、長澤 克重、中井 美樹、上出 浩

### 講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネット(WWW))の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールである「WebCT」の利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

第一回講義の際に、1回生全員を対象とする情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。

なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

### 評価方法・基準

\* 日常点:加味する

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

- 01 全体講義:IDとパスワードの配布、科目内容説明、情報倫理、実習に当たっての諸注意
- 02 Windowsの操作(1):ログイン、基本的な操作、ドライブ、フォルダの概念、ログアウト
- 03 Windowsの操作(2):フロッピー、CD-R、メモリーカードの使い方
- 04 文字入力の方法:タイピング練習ソフトの使い方など
- 05 WWW及び電子メールの仕組み:URL、メールアドレス、学外メールの概念
- 06 WebMailの操作(1):簡単な送受信
- 07 WebMailの操作(2):削除、フォルダによる分類、ファイルの添付
- 08 WebCT関連(1:コースツール関連):ログオン、コースの利用
- 09 WebCT関連(2:コースツール関連):電子掲示板の利用
- 10 WebCT関連(3:コースツール関連):小テストの使い方
- 11 学術情報関連(1):RUNNERSの使い方
- 12 学術情報関連(2):コアデータベースの使い方
- 13 学術情報関連(3):インターネットからの情報検索
- 14 WORDの使い方:入力、印刷、保存
- 15 試験

### テキスト

『さあはじめようWord2000』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

### 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

### その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1回生のみ

担当教員 生田 正幸、長澤 克重、中井 美樹、上出 浩

### 講義内容・テーマ

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。

クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

### 評価方法・基準

\* 日常点:加味する

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

【初級】01 ワープロ(Word2000)(1):Wordの基礎知識、Wordの基本操作、文字の入力

02 ワープロ(Word2000)(2):文字の入力、文書の作成

03 ワープロ(Word2000)(3):文書の作成、印刷

04 ワープロ(Word2000)(4):表と罫線

05 ワープロ(Word2000)(5):表現力ある文章の作成、まとめ

06 表計算(Excel2000)(1):Excelの基礎知識、Excelの基本操作、データ入力方法

07 表計算(Excel2000)(2):データ入力方法、データ編集方法、印刷、保存

08 表計算(Excel2000)(3):罫線の設定、表示方法、式(加減乗除)の使用法

09 表計算(Excel2000)(4):関数の基礎、表検索、並び替えなど

10 プレゼンソフト(PowerPoint2000)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法

11 プレゼンソフト(PowerPoint2000)(2):ウィザードを使用したプレゼンの作成

12 プレゼンソフト(PowerPoint2000)(3):プレゼンの編集(基本)

13 プレゼンソフト(PowerPoint2000)(4):プレゼンの実施、印刷

14 ホームページの仕組み:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順紹介

15 試験

【中級】01 ワープロ(Word2000)(1):文書の作成、印刷

02 ワープロ(Word2000)(2):文書書式、文書編集など

03 ワープロ(Word2000)(3):文書書式、文書編集など

04 表計算(Excel2000)(1):Excelの基礎知識、Excelの基本操作、データ入力方法

05 表計算(Excel2000)(2):データ入力方法、データ編集方法、印刷、保存

06 表計算(Excel2000)(3):罫線の設定、表示方法、式(加減乗除)の使用法

07 表計算(Excel2000)(4):関数の使用方法(合計・平均・最大・最小・他統計等)

08 表計算(Excel2000)(5):表検索、並び替え、WordとExcelのデータ連携

09 プレゼンソフト(PowerPoint2000)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法

10 プレゼンソフト(PowerPoint2000)(2):プレゼンの作成と編集

11 プレゼンソフト(PowerPoint2000)(3):プレゼンの作成と編集

12 プレゼンソフト(PowerPoint2000)(4):プレゼンの作成と編集

13 プレゼンソフト(PowerPoint2000)(5):プレゼンの実施、印刷

14 ホームページの仕組み:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順紹介

15 試験

### テキスト

『さあはじめようWord2000』(富士通ラーニングメディア)

『さあはじめようExcel2000』(富士通ラーニングメディア)

『さあはじめようPowerPoint2000』(富士通ラーニングメディア)  
『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

## スポーツ方法論I (全クラス)

99010

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生以上

担当教員

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行う。原則として開講日数の2/3以上の出席を評価の対象とする。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ

VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価

[第11講～第15講]

まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

## スポーツ方法論II (全クラス)

99011

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生以上

担当教員

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。  
「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行う。原則として開講日数の2/3以上の出席を評価の対象とする。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ

[第11講～第15講]

まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。  
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 池尾 靖志

講義内容・テーマ

「戦争」とは、本来、国家と国家との関係において生じる現象であった。ところが、とりわけ、冷戦構造がドラスティックに変化する中で、国際の平和と安全を脅かすものとして、国家間による戦争に代わって、内戦の多発、テロとその報復などのように、国家と非国家的アクターとの関係、もしくは、非国家的アクター間による対立が注目されるに至っている。こうした「新しい戦争」と呼ばれる現象をも射程において、戦争の問題を平和学の視点から論じることにはしたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

国際関係に関する基礎知識をある程度有していることを前提とするので、不安な者は、高校の「政治・経済」もしくは「現代社会」の該当する箇所を読み直しておくこと。また、日々のニュースに目を通すこと。

評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施  
定期試験を実施する。なお、場合により、中間試験もしくはレポートを課す。  
毎回配布するコメントカードは、内容の優れているものだけに限り、試験の成績に加点する。(出席点としては扱わない。)

講義スケジュール

\*予定は、国際情勢や、学生の理解度に応じて、随時変更します。

- 1) 「戦争」と国際関係
- 2) 国際関係のイメージ
- 3) 戦争の違法化に向けて
- 4) 集団安全保障と集団的自衛権
- 5) 冷戦システム(1):米ソによる核軍拡競争
- 6) 冷戦システム(2):キューバ危機の与えた影響
- 7) 冷戦システム(3):「恐怖の均衡」
- 8) 冷戦システム(4):泥沼化したベトナム戦争
- 9) 冷戦システム(5):ソ連のアフガン介入
- 10) 冷戦システムの瓦解:アメリカによる「新世界秩序」の模索
- 11) ポスト冷戦システム(1):恣意的に介入された「混沌圏」
- 12) ポスト冷戦システム(2):「戦争」の当事者は誰か?
- 13) ポスト冷戦システム(3):グローバル化した戦争経済
- 14) ポスト冷戦システム(4):「テロ」の衝撃
- 15) 定期試験

テキスト

拙編『平和学をはじめ』晃洋書房、2002年

参考書

メアリー・カルドー、山本武彦/渡部正樹訳『新戦争論 グローバル時代の組織的暴力』岩波書店、2003年。  
他、授業時に随時指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

担当者のホームページ <http://www.asahi-net.or.jp/~iz8y-iko/>

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 木藤 伸一郎

講義内容・テーマ

国会に設置された憲法調査会は、5年間の期限の半ばをすぎ、衆議院の憲法調査は先に中間報告を提出した。憲法をめぐる環境はまさに激動の時期を迎えている。あらためて憲法の意味、ありかたについて、できるだけ現在の状況にてらして講義していきたいと思う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

憲法に関する知識は、ある程度中学・高校で学んでいると思うが、基礎的な概念から最新の議論まで紹介していきたいのでできるだけ講義に出席してもらいたい。

評価方法・基準

\*筆記試験・定期試験として実施  
定期試験によって評価する。試験の答えは必ず、講義内容にふれたものを要求する。

講義スケジュール

- 第1回 憲法とは(歴史・基本原理)
- 第2回 平和主義
- 第3回 基本的人権の歴史・効力・限界
- 第4回 包括的人権(生命、自由および幸福追求権・法の下での平等)
- 第5回 思想・良心・信教・学問の自由
- 第6回 表現の自由
- 第7回 経済的自由
- 第8回 社会権
- 第9回 刑事手続と人身の自由
- 第10回 国会
- 第11回 内閣
- 第12回 司法
- 第13回 財政
- 第14回 地方自治
- 第15回 憲法改正

テキスト

教科書は特に指定しない。講義の際に、レジュメ・資料を配布する。

参考書

芦部信喜・高橋和之補訂『憲法 第三版』(岩波書店、2002年)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

市民と憲法研究者をむすぶ憲法問題Web <http://www.jca.apc.org/~kenpoweb/>  
衆議院憲法調査会 [http://www.shugiin.go.jp/itdb\\_main.nsf/html/index\\_kenpou.htm](http://www.shugiin.go.jp/itdb_main.nsf/html/index_kenpou.htm)  
参議院憲法調査会 <http://www.sangiin.go.jp/japanese/kenpou/index.htm>

その他



授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 安齋 育郎  
池尾 靖志講義内容・テーマ

平和学という学問分野がどのような時代背景のもとで生まれてきたのかを確認し、いつの時代にあってもその時代状況のなかで「平和」を追い求める人々がいたことを理解しよう。そのうえで、今を生き抜く私たちがなすべきことは何かを一緒に考えてみよう。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

・私語、携帯電話など、授業を妨害する行為は慎むこと。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

定期試験(各担当者から論述1問ずつを出題)+平常点

講義スケジュール

- 1 平和学とは何か(安齋)
- 2 科学者が平和研究に関わるようになったわけ(安齋)
- 3 核兵器の実相(安齋)
- 4 ポスト冷戦期の「新しい戦争」(池尾)
- 5 ジェンダーの視点から見る戦争と平和(池尾)
- 6 紛争解決の調停役は誰か(1):国連の役割(池尾)
- 7 紛争解決の調停役は誰か(2):NGOの役割(池尾)
- 8 構造的暴力という問題(池尾)
- 9 国際的相互依存の進展と平和(池尾)
- 10 南北問題と平和(池尾)
- 11 地球市民社会の登場?(池尾)
- 12 地球環境問題と平和:科学史の視点からその本質を読み解く(安齋)
- 13 地球温暖化問題とその解決の展望(安齋)
- 14 「平和」のつくり手になろう(安齋)
- 15 定期試験

テキスト

池尾靖志編『平和学をはじめ』晃洋書房、2002年。(生協で販売)

参考書

授業中に指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

安齋平和学研究室 <http://www.ritsumeai.ac.jp/~iat02143/>

平和学をはじめ <http://www.asahi-net.or.jp/~iz8y-iko/>

その他

## 特殊講義(総合)～異文化理解セミナー

本文無し

授業開講期間単位数配当回生担当教員講義内容・テーマ受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

特殊講義(総合)「国際平和交流セミナー」  
 ヴィジョン形成特殊講義「国際平和交流セミナー」  
 特殊講義(基礎) 「国際平和交流セミナー」

99008

授業開講期間

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員

講義内容・テーマ

国際平和交流セミナーは、本学の教学理念に根ざす正課として、戦後50周年企画の一環として1995年度に開設され、それ以降8年間継続して実施されてきた。事前・事後研修と研修旅行を通しながら、「国際交流」という側面に焦点を当て、本学の教学理念「平和と民主主義」の教育的実践を図るプログラムである。平和教育プログラムとしての性格を継承しつつ、その意義を幅広く設け、人種問題などのテーマの広がりを追求しながら実施してきている。  
 これまでに、中国、韓国、アメリカ、広島・長崎、沖縄で実施されてきた。2003年度は、広島・長崎プログラムを実施予定である。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

募集人数:10名

受講登録制限外科目

4月に募集要項を掲示し、募集説明会を開催。

評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

\*日常点:加味する

講義スケジュール

広島・長崎プログラムスケジュール(予定)

事前研修(2回) 6・7月に実施

研修旅行・現地講義 京都:8月1日～ 4日

広島:8月4日～ 7日

長崎:8月7日～ 10日

事後研修(1回) 9月下旬の土曜日

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

## 特殊講義(総合)GB

50715

(政策)ビジョン形成特殊講義GB

～「日本の近現代と立命館」～

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生以上

担当教員 小関 素明 他(リレー講義)

講義内容・テーマ

日本近現代と立命館の100年

本学で学ぶ者にとって共通した「身近な場」である大学の歴史を通して、日本近現代史を学び、今日我々が直面している近代化の  
ひずみ、教育の危機などの問題を身近な視点から再考する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施  
定期試験を行う。

講義スケジュール

15回の講義は複数の担当者によるリレー講義方式で進める。

- 第1回 序論 - 日本近現代と立命館の100年 -
- 第2回 日本近代の幕開けと立命館 ～西園寺公望と中川小十郎の出会い～
- 第3回 高等教育の拡充と京都法政学校
- 第4回 自由主義の潮流と立命館学園
- 第5回 戦争の影と教育・思想の危機
- 第6回 戦時体制下の立命館 ～日本型軍国主義の進行・転落とわが学園の意外の曲折～
- 第7回 敗戦後の混乱と教育の再建
- 第8回 「立命館民主主義」の創成
- 第9回 高度経済成長と大学の大衆化 ～マス・プロに抗する「小集団教育」～
- 第10回 「大学紛争」と立命館 ～「大学改革」か「大学解体」かをめぐる激動～
- 第11回 転換期の高等教育政策 ～学園の新しい経験～
- 第12回 学園創造の新展開 ～学びのシステムの歩み～
- 第13回 大学スポーツの歩みと立命館
- 第14回 課外活動とスポーツ・学術・学芸
- 第15回 「立命館への提言」講演会
- 第16回 定期試験

第12回は学生参加型の講義とする。15回目の講義は受講生以外にも開放する。

テキスト

特に使用しないが、必要な物については授業中に指示する。

参考書

戦前部分については『立命館百年史』通史1(1999年)が参考になる。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

特殊講義(総合)「茶道文化史」GC  
ビジョン形成特殊講義「茶道文化史」PA  
特殊講義(基礎)「茶道文化史」T

20274

授業開講期間 夏期集中

単位数 2

配当回生 1回生以上

担当教員 千 玄室/筒井 絏一

### 講義内容・テーマ

茶道は現在、日本を代表する伝統文化として世界中に知られるようになった。しかし、一般的には未だ、礼儀作法のための稽古事という感覚でとらえる人が多い。それは茶の湯の本質と全く違った見方と言える。茶道に礼儀作法の要素が全くないとは言わないが、その本質は日本を代表する総合的な文化体系であると言える。その総合性とは、哲学的な要素などを含む点にある。

茶が日本に伝来して以来1000年以上も経過しているが、伝来した当初から文化性を備えていたわけではない。本講では、照葉樹文化を代表する嗜好飲料である茶を通して、その文化性の特色を探るとともに、わが国に飲料として伝来した茶が、日本独自の文化性を備えた茶道へと変遷していく過程を明らかにしていきたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

夏期集中講義期間の第1週(9月8日～9月13日)および第2週(9月15日～9月20日)の間で授業を行ないます。授業期間・詳細については6月頃に学部掲示板にて連絡します。従って、本講義の受講を希望するものは他の夏期集中講義との重複受講を認めません。

### 評価方法・基準

\*筆記試験:最終講義日試験で実施

\*日常点:加味する

講義と実技への参加態度および試験により評価

### 講義スケジュール

### テキスト

### 参考書

千 宗室 監修 新版「裏千家茶道」- 学校茶道用(茶道教育センター)  
千 宗室 著 「お茶をどうぞ」私の履歴書(日本経済新聞社)  
千 宗室 著 「一?のお茶から」- 特選エッセイ集 - (学研)  
村井 康彦 著 「茶の文化史」(岩波新書)

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

## 特殊講義(キャリア探偵団) S

14488

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 リム・ボン

講義内容・テーマ

さまざまな業種・職種の内容理解を通じて、自己の個性や職業適性について考え、将来を考えた大学での学びのモチベーションづくりや自律的な進路選択の一助とする。また、フィールドワークを伴う実践型の授業とし、論理力、分析力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を鍛える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

企業現場の人々とのディスカッション、OB訪問等を実施します。

評価方法・基準

\* 日常点:加味する  
出席点 + 課題作品提出。成績評価はPとします。

講義スケジュール

第1週 仕事と個人の能力開発(講義)  
第2週 仕事の学校 ゲストスピーカーによる講義  
第3週 仕事の学校 ゲストスピーカーによる講義  
第4週 仕事の学校 ゲストスピーカーによる講義  
第5週 仕事の学校 ゲストスピーカーによる講義  
第6週 仕事の学校 ゲストスピーカーによる講義  
第7週 フィールドワーク  
第8週 フィールドワーク  
第9週 フィールドワーク  
第10週 フィールドワーク  
第11週 プレゼンテーション  
第12週 プレゼンテーション  
第13週 プレゼンテーション  
第14週 プレゼンテーション  
第15週 プレゼンテーション

テキスト

必要に応じて資料を提供する。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

|   |       |
|---|-------|
| <b>特殊講義(総合) GA</b><br><b>ビジョン形成特殊講義 G3～キャリア形成論～</b> | 14374 |
|---|-------|

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 林 堅太郎

講義内容・テーマ

グローバル化と情報化が進展し、競争が激化するなかで、日本の社会は大きな転換を迫られている。構造改革の進行、雇用の流動化・多様化、成果・実績主義への転換など、これから諸君の向かう社会は、「会社任せ」の人生でなく、キャリア・プランを明確にし、学生時代から自分の能力を磨いていくキャリアの「自己責任」を求めている。本講義は、諸君がキャリアを積みつつ人生を主体的に実現していくために、こうした実社会への理解を深め、どのように知力を高め、自らの価値観に基づく人生を設計していくのかを考察する機会になる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

2回生時の受講が望ましい。またゲスト・スピーカーを中心とする講義となる。毎回、講義に続いて質疑を約30分、行なうので、受講者は常に発言する用意をすることが望まれる。そのうち1,2回は受講生による希望に基づくゲスト・スピーカーの招聘を検討する。シラバスに沿ってレジュメや資料を配布して講義を行うので、毎回の受講が必須となる。

評価方法・基準

\* 筆記試験：定期試験として実施

\* 日常点：加味する

基本的に試験によって評価するが、講義途中で二回のレポートを課す(諸君が働くことと学ぶこと、日本社会の雇用システムと問題点。また講義内容に関わって受講者が自発的にレポートなどを提出する場合はこれも評価の対象とする。

講義スケジュール

- 1講 キャリア形成とは(本講義の目標と課題)
- 2講 何故、働くのか 川本八郎(立命館理事長)
- 3講 学ぶことと働くこと 小杉礼子(日本労働研究機構主任研究員)
- 4講 激変する日本の経済社会 高橋伸彰(国際関係学部教授)
- 5講 多様な雇用形態と新規卒者の雇用環境 中村正子(厚生労働省職業安定局業務指導課課長補)
- 6講 生き甲斐を考える 椎名武雄(日本IBM最高顧問)日本の雇用システムと労働環境
- 7講 変わる雇用システムと人材戦略 小笹芳央(リンクアンドモチベーション代表取締役社長)
- 8講 求められる職業能力 蔣麗華(ワークス研究所主任研究員)
- 9講 仕事と女性 武石恵美子(ニッセイ基礎研究所主任研究員)
- 10講 仕事と家庭 池本美香(日本総合研究所主任研究員)
- 11講 キャリア・デザインの方法 大久保幸夫(ワークス研究所所長)
- 12講 キャリア・フォーラム(1)
- 13講 キャリア・フォーラム(2)
- 14講 キャリア・フォーラム(3)
- 15講 本講義のまとめ

テキスト参考書

池上惇・森岡孝二、『日本の経済システム』、青木書店

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

追って指示する

その他

学生による講義運営委員会を作ることを検討している。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1回生のみ  
 担当教員 笠井 智章 / 樺島 忠夫

### 講義内容・テーマ

小論文、一般的な文章の作成に必要な知識、技術の習得を目的とする。読み手に意図が正しく伝わる文章を書くことが目標。文章の書き方を講義した後、授業中に文章を提出してもらい、その文章の問題点をみんなで検討する。また、文章作成に必要な知識を得るために、日本語文章能力検定の過去問題を解く。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

文章力を身につけるため、授業中に相当量の文章を書いてもらう。また、その文章を授業で検討することになる。積極的に検討に参加するとともに、自分の文章への批評を前向きにとらえること。

### 評価方法・基準

レポート、授業中に書く文章と、授業中の検討への参加態度などにより評価する。

### 講義スケジュール

- |      |      |   |
|------|------|---|
| 第1回  | テーマ  | 事実を客観的に記述する表現と推測や類推の表現などを意識して書く。                            |
|      | 講義演習 | 事実を客観的に叙述する表現と推測や類推の表現の違いを解説する。絵を見て、そこに書かれた事実を書く。           |
| 第2回  | テーマ  | 文章の要旨をとらえる。   |
|      | 講義演習 | 要旨をとらえる手順の説明。要約の練習。   |
| 第3回  | テーマ  | 文章の部分が持つ役割をとらえる。  |
|      | 講義演習 | 事実の報告、意見・感想、問題提起、解答・結論、その根拠・説明などの表現を解説する。文章の部分が持つ役割をとらえる練習。 |
| 第4回  | テーマ  | 文脈の流れをとらえる。   |
|      | 講義演習 | アウトラインの紹介と解説。文脈把握の練習問題を解く。                                  |
| 第5回  | テーマ  | 段落とトピックセンテンスを活用する。  |
|      | 講義演習 | 段落の役割の解説。トピックセンテンスの解説。段落分けの練習。トピックセンテンス活用の練習。               |
| 第6回  | テーマ  | 文章表現に磨きをかける。  |
|      | 講義演習 | 抽象的な文章を検証する。常体・敬体の解説。読み手の立場に立って文章を書く練習。                     |
| 第7回  | テーマ  | ブレインストーミングを知る。  |
|      | 講義演習 | ブレインストーミングの紹介。ブレインストーミングの練習。                                |
| 第8回  | テーマ  | 発想材料から小論文の構成を考える。   |
|      | 講義演習 | 根拠に使う材料の選び方、意見の作り方を解説。ブレインストーミングの結果から小論文の構成を考える。            |
| 第9回  | テーマ  | 二段落の意見文を書く。   |
|      | 演習   | 第8回で作成した構成をもとに、二段落の意見文を書く。                                  |
| 第10回 | テーマ  | 敬語・類義語・文法の不備を知る。  |
|      | 演習   | 敬語の問題を解く。類義語の問題を解く。あいまい文の問題を解く。文法問題を解く。                     |
| 第11回 | テーマ  | 手紙の形式を知る。手紙を書く。   |
|      | 講義演習 | 手紙の形式、決まりの紹介。資料請求などの手紙を書く。                                  |
| 第12回 | テーマ  | 文章を推敲する。  |
|      | 演習   | 表記の間違いを正す。推敲の問題を解く。   |
| 第13回 | テーマ  | 三段落の小論文を書く。   |
|      | 演習   | 発想材料を参考にして、題目に適した意見文を書く。                                    |
| 第14回 | テーマ  | 総合的な文章能力を測る。  |
|      | 演習   | 3級の過去問題に挑戦する。(課題提出)   |
| 第15回 | テーマ  | 模擬検定の解説。  |
|      | 講義   | 出題の意図と解答のポイントの解説。答案例の検討。                                    |

### テキスト

使用しない。適宜プリントを配布する。(参考書:『日本語文章能力検定 徹底説明3級』)

### 参考書

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他





授業開講期間 夏期集中

単位数 2

配当回生 1回生以上

担当教員 鈴木 常勝

### 講義内容・テーマ

アジアは広く、その文化も多様である。言語面においても、発音、文字、文法は、さまざまな特徴を持っている。

本講座は、アジア人のゲスト、留学生を交えて、日本とアジア各地域の文化の違い、日本人のアジア観、各地域の言語の異同を、アジア各地域の人々による発音指導、会話指導、ビデオによる生活紹介、アジア人ゲストとの「生活と文化」に関する質疑応答により、実感的にアジアと出会い、受講生が持つ問題意識を深めるものとする。

対象地域は、インドネシア、モンゴル、インド、韓国、沖縄、日本などから選択します。本年度の共通テーマは「文化を伝える/歴史を引き継ぐ」です。アジア文化への再認識は、「自己の研究専門領域、人生が、どんな舞台(地域社会)で演じられ、また、どんな有効性があるのか」という問いを投げかけるでしょう。生きていく世界は、日本だけではないのです。研究に深まりをもたらし、今後の人生に広がりを与える「教養科目」として、本講義は設定されます。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

\*日常点:加味する

出席可能かどうか考慮のうえ、受講届けを出してください。出席点検も、甘くありません。

6日間の授業のうち、4日以上を受講を単位確認の前提条件とします。遅刻、早退も評価減点の対象です。2日以上欠席(およびそれと同等の遅刻、早退、居眠り...)は、単位認定できません。教員、アジア人ゲスト側も「全力を出し切る」心構えで、「楽しく」講義に臨みます。

評価は、出席日数と最終日に受講生が執筆したレポートの内容により行います。

### 講義スケジュール

### テキスト

### 参考書

鈴木常勝・著『大路(タール-) 朝鮮人の上海電影皇帝』(韓国語版もあり、ソウル・実践文学社)、

『上海コロッケ横丁』共に新泉社・刊

鈴木常勝ほか『海外体験のパッチワーク』 現代書館・刊

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生以上

担当教員 廣居 健

講義内容・テーマ

アジア、就中、東アジアの社会も文化も、中国の影響を無視しては理解できない。従って、本講座は中国を軸に据えて展開する。また、社会も文化も一朝一夕になるものではない。従って、歴史的視点からこれを整理する。更に、かかる認識の下、様々な局面を有つ文化的諸活動の軌跡のうち、特に「食」にまつわる部分を中心素材に採り上げ、これを通して、該地域の社会と文化に対する研鑽を深める為のケース・スタディとしたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特になし。唯だ、所謂“大学受験程度”の素養を前提として進める。  
但し、逆に専門的知見に属する部分については、少々回り道でも、適宜、補う。

評価方法・基準

\* レポート: 試験に代わるレポートとして実施  
\* 日常点: 加味する  
最終的には定期試験に代わるレポートにより、講義中に示す要件を満たせば合格とする。  
また、通常の日程内で2、3回程度の小レポート(随意)を実施し、その評価を“持点”とし、両者を併せて総合的に評価する予定である。(詳細が第一回目に解説する。)

講義スケジュール

詳細は顔ぶれを見て決定するが、概ね、以下のとおりとする予定である。

- 第一講            ガイダンス  
                  : (概論): 「文化」とは」  
第二講            「中国」とは」  
                  : (総論): 「食文化(史)論概説」  
                  「身近な文化論」及び講評  
第四講            : (補論): 「前近代中国史一般概論」  
第五講            : (前論): 「文化(史)論概説」  
                  「学説史」~ 「食文化(史)一般論」  
第六講            ~ 「中国食文化史論」  
第七講            : (各論): 「前近代中国の食文化(史)上の諸問題」  
                  ~ 「飯」、「菜」、「醬」、「酒」等  
第十一講  
第十二講: 予備日:  
第十三講: (特論): 「前近代中国の食文化(史)にまつわる諸問題」  
                  ~ 「方法」、「技術」、「機会」、「場面」その他  
第十四講  
第十五講: (総括): まとめ、質疑応答等

なお、“東アジア”の一例として、受講生諸氏の身近な事柄を足掛かりともしたい。  
そこで、「小レポート(随意)」のかたちで、適宜、協力を仰ぎたいと考えている。  
(さしあたり、第一講を予定している。)

テキスト

適当なものがないので、特に指定しない。(講義は専ら口述により、必要に応じてレジュメを配布する。)

参考書

やはり質、量共に、適当且つ廉価なものがないので特に記さない。必要に応じて講義中に紹介はする。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

特になし。誤解を恐れずに敢えて言えば、玉石混交は致し方無いとはいえず、“石”が多すぎるからである。  
寧ろ濫用を慎むべく、注意を喚起したい。(講義中でも、斯く言う真意はあらためて示す。)

その他

本講座は所謂「グルメ」ではなく「文化論」たるところの一般教養的講座である。文字どおり、受講生諸氏の教養の充実を期する。また、能動的取り組みも求めたいので、積極的参加を期待する。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生以上

担当教員 中鹿 直樹

### 講義内容・テーマ

現代の心理学は統一された学問というよりは、様々な分野が方法論を共有しつつ緩やかに結合した状態にあります。本講義では、いくつかのトピックを取り上げそれぞれの研究を概観していきます。具体的には 行動分析学、心の理論、アフォーダンスと生態心理学、人間の推論と原因帰属、比較認知科学の内容を扱います。これらの内容を通して心理学が提供する人間観を学びます。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本講義で扱う内容は、一般に「心理学」ということばから想像される内容とは大きくかけ離れている可能性があります。その点に十分留意して受講してください。

### 評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施  
定期試験により評価します。

### 講義スケジュール

1. 行動分析的な人間観  
人間の行動の原因を内的な「こころ」からではなく、環境要因から説明を試みる行動分析について考える
2. アフォーダンスと生態心理学  
アフォーダンスという考え方(知覚する主体の中に情報があるのではなく、環境の中に情報が実在すると)、生存の場としての環境を重要視する生態心理学について考える
3. 心の理論  
他者の心を推測する働きを「心の理論」という観点から考える
4. 人間の推論  
人間の推論や思考の特徴を 原因帰属、確率的な推論などの観点から考える
5. 比較認知科学  
動物とヒトの認知を比較しながら、動物の「こころ」の世界、ひいては人間の認知を考える

1については4~5回、その他のトピックについてはそれぞれ2回ずつ行う予定です。  
順番については変更することもあります。

### テキスト

使用しません。必要に応じて資料を配布します。

### 参考書

多岐にわたるので内容に応じて紹介します。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

総合英語 GA

11180

授業開講期間 前期単位数 1配当回生担当教員 STEVE L. MONTOYA講義内容・テーマ

The goal for this course is to have students use the English they know in short conversations, in order to develop confidence in using everyday English. Students will be given many opportunities within the class to use their English in a variety of tasks.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\* 筆記試験: 最終講義日試験で実施

\* 日常点: 加味する

Students will be assessed on class participation (40%), homework assignments (30%) and quizzes and tests (30%).

講義スケジュールテキスト

Transitions One.

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

総合英語 GB

11179

授業開講期間 前期単位数 1配当回生担当教員 JAMES SHAWN WALKER講義内容・テーマ

The primary objective of this course is to develop within the students increased fluency in conversational English and increased confidence in utilizing his/her acquired skills in a variety of situations. Although a textbook will be used as the core focus, other miscellaneous materials will be included to expand on themes and vary the form of media with which the students interact.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\* 日常点: 加味する

講義スケジュール

Grades will be based on participation, homework, quizzes, and the final exam. Due to the nature of the course, participation will be heavily emphasized and students are expected to actively contribute to classroom activities.

テキスト

Headway (Pre-Intermediate), Oxford University Press

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生 1回生以上

担当教員 川上 文子

講義内容・テーマ

日本文化とアメリカ合衆国の文化の違いを主題とした教材を用いる。総て軽い話題で、例えば日本人は何故よく傘を差すのか、何故合衆国には極端に太った人が多いのか、といった程度である。読むことと聴くことに重点を置く。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\*筆記試験:最終講義日試験で実施

\*日常点:加味する

最終試験、提出物、出席状況、授業に積極的に参加する態度などを総合して決定する。

講義スケジュール

- 第1回 自己紹介等
- 第2回 第1章 How to Be a Sophomore after Only One Semester
- 第3回 第2章 Meeting a War Witness in America
- 第4回 第3章 Americans Can't Speak English
- 第5回 第4章 Why Are Americans Strict about Alcohol?
- 第6回 第5章 Why Do College Girls Dress Casually for Class?
- 第7回 自由作文
- 第8回 第6章 Are Guns Easy to Get in America?
- 第9回 第7章 Why Are So Many Americans Overweight?
- 第10回 第8章 Getting a Driver's License
- 第11回 第9章 Americans Don't Carry Umbrella
- 第12回 第10章A TV Channel Specifically for African-Americans
- 第13回 英語のパズル等
- 第14回 試験についての質問等
- 第15回 試験

テキスト

Why Is That?(面白すぎるアメリカ)金星堂 1,800円 大学生協にて販売

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生 1回生以上

担当教員 佐々木 敏二

講義内容・テーマ

ビデオで周遊カナダ

一年間を通してカナダについての理解を深めることを課題とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業を通じてカナダへの理解を深めてほしい。

そのためにカナダに関する日本語の本を少なくとも一冊は読んでほしい。

評価方法・基準

\* 日常点:加味する

教室での発表、レポートなどによる平常点を重視する。

講義スケジュール

前期はテキストを中心に授業を行う。特に日本人の関心の強いヴァンクーバー、ヴィクトリアのある5.Pacific Regionからはじめ、ついで4.Western Region & Rockyをやり、その後で3.Eastern Big Citiesでモントリオール、トロントをやる。その他の地域はその後にやる。

後期はカナダの先住民であるイヌイットか、日系カナダ人に関するものをプリントで配布して授業をやる予定。内容についての説明はその都度行う。

テキスト

Discovering Canada(ビデオで周遊カナダ)北星堂 ￥1,700

参考書

教室で発表する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他



総合英語 GA

11204

授業開講期間 後期単位数 1配当回生担当教員 STEVE L. MONTOYA講義内容・テーマ

The goal for this course is to have students use the English they know in short conversations, in order to develop confidence in using everyday English. Students will be given many opportunities within the class to use their English in a variety of tasks.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\* 筆記試験: 最終講義日試験で実施

\* 日常点: 加味する

Students will be assessed on class participation (40%), homework assignments (30%) and quizzes and tests (30%).

講義スケジュールテキスト

Transitions One.

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生

担当教員 LAWRENCE MARK BECK

講義内容・テーマ

The objective of this class is to further develop speaking and listening skills and for students to gain confidence when using English. Students will have many opportunities to use English during class. A self-study CD is included with the textbook and will be used in class and homework.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

Class participation & attitude...40%

Homework.....30%

Quizzes & Tests.....30%

講義スケジュール

テキスト

New All Talk I by David Peaty. MacMillan Language House. 2,000

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

総合英語 GA

13371

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生 1回生以上

担当教員 川上 文子

講義内容・テーマ

日本文化とアメリカ合衆国の文化の違いを主題とした教材を用いる。総て軽い話題で、例えば日本人は何故よく傘を差すのか、何故合衆国には極端に太った人が多いのか、といった程度である。読むことと聴くことに重点を置く。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

最終試験、提出物、出席状況、授業に積極的に参加する態度などを総合して決定する。

講義スケジュール

- 第 1回 英作文
- 第 2回 教科書の第11章
- 第 3回 第12章
- 第 4回 第13章
- 第 5回 第14章
- 第 6回 第15章
- 第 7回 英作文
- 第 8回 教科書の第16章
- 第 9回 第17章
- 第10回 第18章
- 第11回 第19章
- 第12回 第20章
- 第13回 英語のパズル等
- 第14回 試験についての説明、質問等
- 第15回 定期試験

テキスト

Why Is That?(面白すぎるアメリカ)金星堂 1,800円 大学生協にて販売

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 1 配当回生 1回生以上  
担当教員 佐々木 敏二

#### 講義内容・テーマ

ビデオで周遊カナダ  
一年間を通してカナダについての理解を深めることを課題とする。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業を通じてカナダの理解を深めてほしい。  
そのためにカナダに関する日本語の本を少なくとも一冊は読んでほしい。

#### 評価方法・基準

\* 日常点:加味する  
教室での発表、レポートなどによる平常点を重視する。

#### 講義スケジュール

前期はテキストを中心に授業を行う。特に日本人の関心の強いヴァンクーバー、ヴィクトリアのある5.Pacific Regionからはじめ、ついで4.Western Region & Rockyをやり、その後で3.Eastern Big Citiesでモントリオール、トロントをやる。その他の地域はその後にやる。

後期はカナダの先住民であるイヌイットか、日系カナダ人に関するものをプリントで配布して授業をやる予定。内容についての説明はその都度行う。

#### テキスト

Discovering Canada (ビデオで周遊カナダ) 北星堂 ¥1,700

#### 参考書

教室で発表する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

授業開講期間 夏期集中

単位数 1

配当回生 1回生

担当教員 OLIVER DAMMACCO

#### 講義内容・テーマ

This course focuses on basic English language skills with an emphasis on oral communication. We will discuss issues centered around a series of themes.

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

#### 評価方法・基準

- ・Attendance & participation--about 50%
- ・Speeches--about 20%
- ・Quizzes, etc.--about 30%
- ・3 latenesses equals one absence; you must attend 70percent of the classes to pass
- ・transcripts (you will turn in a "transcript" for each chapter)

#### 講義スケジュール

We will use the text every class. There will be frequent, short quizzes.  
Students will be required to give several speeches. About a chapter a day will be covered.

#### テキスト

Japan through the Prism of the World Cup, Sanshusha.

#### 参考書

You should have a dictionary (English-English dictionary, English-Japanese, etc.ok).

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

総合英語 GA

20317

授業開講期間 夏期集中単位数 1配当回生 1回生担当教員 ANNA KIM講義内容・テーマ

This course aims to develop listening and speaking skills.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\* 日常点:加味する

Assignments - 60%

Oral test - 15%

Participation - 15%

講義スケジュール

To be announced.

テキスト

none

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

哲学概論 N  
(教)哲学NA  
哲学 N

14525

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生以上

担当教員 許 萬元

#### 講義内容・テーマ

テーマ:ものの方・考え方を探求

哲学とはものの方・考え方についての学問であり、哲学史は人類のものの方・考え方の集大成された宝庫である。本講は、前期では、古代ギリシアからルネッサンス期までの西洋哲学史を素材として、人類の典型的な思想を抽出し、皆さんとともに検討していく予定である。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

文学部学生は「(教)哲学」としては受講不可  
できるだけノートを用意して聴講するようにしてほしい。

#### 評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施  
定期試験によって評価する。

#### 講義スケジュール

- 第1回:哲学の概念について
- 2回:哲学の創始者たちの考え方
- 3回:多元論者たちの考え方
- 4回:ソフィストからソクラテスへ
- 5回:プラトンの考え方
- 6回:アリストテレスの思想
- 7回:ギリシア末期の諸思想
- 8回:新プラトン主義の思想
- 9回:キリスト教とアウグスティヌス
- 10~11回:スコラ哲学者たち
- 12回:中世末期の諸思想
- 13回:ルネッサンス期の諸思想
- 14回:総括

#### テキスト

特定のテキストは指定しないが、講義中に文献を指示することはありうる。

#### 参考書

『西洋哲学史』(岩崎武雄著,有斐閣)

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生以上

担当教員 及川 正博

### 講義内容・テーマ

世界のボーダレス化が進む今日、文化の違いが分かることは重要であり、日米間においてもその共通性と相違性の双方を正しく認識することが真の日米理解に繋がる。こうした観点から、本講座では異文化としてのアメリカを基本的視点にし、日本との文化比較をしつつ、アメリカ人の考え方、行動の仕方、アメリカ社会の基本的な特徴を概観し、国家としてのアメリカの全体像の理解を目指す。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

日々、アメリカ関係の新聞記事、雑誌記事などに目を通すこと。また、アメリカ史に関する本を読んでおくこと。

### 評価方法・基準

\*筆記試験:最終講義日試験で実施  
\*日常点:加味する  
期末試験と出席率を勘案して決定する。

### 講義スケジュール

- (1)～(4) 第1章 異民社会としてのアメリカ
- (5)～(6) 第2章 個人主義社会としてのアメリカ
- (7)～(8) 第3章 民主主義社会としてのアメリカ
- (9)～(10) 第4章 平等主義社会としてのアメリカ
- (11)～(12) 第5章 競争主義社会としてのアメリカ
- (13)～(14) 第6章 異文化としてのアメリカ
- (15) 期末テスト

### テキスト

『異文化社会アメリカ』、示村陽一著、研究社出版、1999。

### 参考書

授業中に適宜、指示する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

Yahooのサイトなどで授業に関係する項目を検索できるので、参考にするように。

### その他

面談の際は、アポイントメントを取るように。



授業開講期間 夏期集中

単位数 2

配当回生 1回生以上

担当教員 飛鳥井 雅友/永都 軍三

### 講義内容・テーマ

ドイツとフランスを中心に、ヨーロッパの歴史と文化を概観する。

6日間の講義を二人の教員で担当し、前半は永都がフランスに関して、後半は飛鳥井がドイツに関して、それぞれの観点から講義を行う。具体的な内容は講義スケジュールを参照のこと。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特に前提とすべき知識や技能は要求しないが、貪欲な知識欲と思考意欲をもって講義にのぞんでいただきたい。

### 評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

\*日常点:加味する

講義への出席状況、ならびにレポートによる。

レポートは両担当教員のそれぞれに対して(つまり合わせて2本)提出すること。

最終的な成績は両担当教員の協議の上で決定する。

### 講義スケジュール

前半(フランス)(永都軍三)

第1回:フランスの現在 - 政治・経済を中心に -

第2回:フランス小史(1) 革命以前

第3回:フランス小史(2) 革命以後

第4回:フランスの思想文化

第5回:美術と庭園

第6回:音楽(シャンソン・クラシック)

後半(ドイツ)(飛鳥井雅友)

第1回:オフィーリア:シェイクスピアの「ハムレット」から

第2回:さまざまなオフィーリア像をめぐって:シェイクスピアとドイツ

第3回:絵に描かれたオフィーリア:ジョン・エヴァレット・ミレイを中心に

第4回:アルチュール・ランボー:詩に描かれたオフィーリア(1)

第5回:ドイツ表現主義の詩人たち:詩に描かれたオフィーリア(2)

第6回:ドイツ表現主義の絵画から

第7回:ドイツ表現主義の詩人たち(続):詩に描かれたオフィーリア(3)

### テキスト

指定教科書はナシ。

### 参考書

講義中に適宜、指示する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

講義中に適宜、指示する。

### その他

授業開講期間 夏期集中

単位数 2

配当回生 1回生以上

担当教員 田崎 英明

講義内容・テーマ

近年のヨーロッパ系の思想家たちに見られるキリスト教、とくにカトリックへの回帰ないし再評価の現象(たとえば、スロヴェニアの哲学者スラヴォイ・ジジエクやフランスの哲学者アラン・バディウ、あるいは、イタリアの哲学者、マッシモ・カッチャーリやジョルジョ・アガンベンなど)について考えてみたい。

ヨーロッパが自己のアイデンティティを形成するのに大きな意味をもったキリスト教とイスラームとの関係や、さらに、現代における社会主義・マルクス主義とキリスト教との関係についても触れたい。

また、参考として、ヨーロッパの映画(デレク・ジャーマンやパゾリーニ)も採りあげる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

講義スケジュール

- 1.キリスト教の基礎概念の概観
- 2.現代ヨーロッパ知識人の「キリスト教回帰」?
  - ・ジジエクのキリスト教再評価の論理
  - ・現代イタリア(左翼)知識人におけるキリスト教的要素
  - ・現代フランス知識人にとってのキリスト教
- 3.現代ヨーロッパ文化におけるキリスト教に対するアンビヴァレンツ
  - ・デレク・ジャーマン(イギリスの映画監督)
  - ・ピエル・パオロ・パゾリーニ(イタリアの映画監督)

テキスト

とくになし

参考書

竹下節子『知の教科書 キリスト教』講談社選書メチエ

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

田崎ホームページは

URL=<http://www.alpha-net.ne.jp/users2/omth2/>

その他

史学概論 N  
歴史学 N

14531

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生以上

担当教員 山崎 有恒

### 講義内容・テーマ

二十一世紀を迎えた今、日本は未曾有の混沌とした状況に突入、それまでの価値観が大幅に否定される状況が生じている。この時代を生きていく私たちは、いったい何を信じ、何を頼りにすればいいのか。本講義では歴史学の持つ様々な特徴を明らかにしつつ、この学問を学ぶことが現代社会において、いかなる意義を持っているのか、一緒に考えていきたいと思う。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講：文学部は歴史学 受講不可。文学部生は史学概論を受講のこと。  
なるべく分かりやすく講義していきたいと思う。どうぞよろしく。

### 評価方法・基準

基本的に定期試験で評価する予定。  
なお、毎回の講義の際に、授業の感想を書く紙を置いておくので、気が向いたらそれに記入して提出していただきたい。この紙が少なくとも三枚以上あれば、受験資格ありとしたい。

### 講義スケジュール

- 第一回 導入説明
- 第二回 歴史学と現代社会
- 第三回 歴史学の歩み(古代から中世の歴史学)
- 第四回 歴史学の歩み(19世紀の歴史学)
- 第五回 歴史学の歩み(20世紀前半の歴史学)
- 第六回 現代の歴史学～世界システムと脱国民国家
- 第七回 21世紀の歴史学が目指すもの
- 第八回 日本の歴史学と教科書問題について
- 第九回 歴史学と史料の素敵な関係
- 第十回 史料は作られる？史料批判の重要性
- 第十一回 オーラルヒストリー(聞き取り)の面白さ
- 第十二回 現代の国際関係と歴史学～W杯に寄せて
- 第十三回 歴史の予言は当たるのか？
- 第十四回 まとめ
- 第十五回 定期試験

### テキスト

特になし。

### 参考書

特になし。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 安達 房子

### 講義内容・テーマ

この科目は、「企業と社会」の関係を多面的な角度から論じていきます。おもな獲得目標は、「企業と社会」に関する様々な諸問題への興味と関心を深めることです。

講義では、マネジメント論を基礎にしつつ、日本企業社会の特質について論じます。その際、とくに雇用問題、情報ネットワークが企業に及ぼす影響などの現代日本社会が抱える特徴的なトピックスを解説します。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

\* 筆記試験：定期試験として実施

\* 日常点：加味する

定期試験。ただし、授業時間中のビデオ学習に伴うレポートなどを評価に加味します(20%程度)。

### 講義スケジュール

第1回 概要の説明

第2回 企業と社会の関係

(日本企業社会の特質の概要)

第3回～4回 企業と経営

(マネジメント論に関する基礎理論を知る)

第5回～6回 企業と組織

(職場集団のメンバーシップを考える)

第7回～8回 企業と雇用

(最近の雇用動向を考える)

第9回 企業と人権

(働く女性の人権を考える)

第10回 企業と管理

(テレワークなどの最近の人事労務管理の動向を考える)

第11回～12回 企業と情報ネットワーク

(情報ネットワークが企業に及ぼす影響を考える)

第13回 企業と地域社会

(SOHOによる地域活性化を考える)

第14回 まとめ

第15回 閉講 (休講した場合は補講)

### テキスト

レジュメ、資料を配布します。

### 参考書

渡辺峻『やさしく学ぶ経営学入門』八千代出版、2000年

その他、授業時に適宜紹介します。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

適宜紹介します。

### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 横山 未知

講義内容・テーマ

現在の福祉の諸問題を考えるうえでの文脈と背景を検討する。人口動態的・経済的諸問題の発生およびそれへの対応といった点を、それらを日本よりも早く抱え込むことになったイギリス等を中心に検討し、現在の日本を含めた諸福祉国家を比較することで、今後の福祉問題を考えていくうえでの大まかな枠組みをもってもらうことをねらいとする。  
なお福祉(welfare)をめぐる検討対象は、社会福祉に限定されず、住宅、教育、医療をも含めたものとなる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

- \* 筆記試験: 定期試験として実施
- \* 日常点: 加味しない

講義スケジュール

1. イントロダクション
2. `welfare state をめぐる概念(1)
3. `welfare state をめぐる概念(2)
4. 福祉国家の生成と発展: イデオロギーおよび経済・人口動態変化と財政
5. "
6. "
7. 福祉国家の限界と変容
8. "
9. " (VTR)
10. "
11. 国家の役割: 福祉供給メカニズムの変化
12. 営利部門の役割
13. ボランティア部門の役割
14. インフォーマル部門の役割
15. まとめ

\*あくまで予定であり受講者の理解度等により、講義の進度は決定される。

テキスト

特定のテキストは使用しない。

参考書

ノーマン・ジョンソン『グローバリゼーションと福祉国家の変容: 国際比較の視点』(青木郁夫・山本隆監訳、法律文化社、2002年)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

担当回生

担当教員 馬場 優

### 講義内容・テーマ

本講義は、バルカン半島の近現代史を通じて国際社会における諸概念を理解することを目的とする。バルカンのようなマイナーなテーマでどうして理解することができるのか、と思うかもしれない。しかし、例えば19世紀のバルカン半島については「ネーション」が形成されていく過程を見ることができる。また、冷戦終了後の1990年代の旧ユーゴスラビアの内戦は、現在の国際社会が抱える諸問題(例えば、国家の解体、ナショナリズム、民族紛争、人道的介入、PKO)を考える良い材料となるであろう。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

高校の時の世界史の知識が必要である。それを講義の出発地点とするつもりである。もし高校で勉強しなかった講義参加者は、高校の世界史の教科書を読み返しておくことを勧める。

### 評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

定期試験期間中に試験を行う。感想などを紙に書いて講義の終わりに提出してもらってもある。それを評価に上乘せる。

### 講義スケジュール

- 第1回 バルカンとは？
- 第2回 「大国」とバルカン(1): オスマン支配からの独立(19世紀)
- 第3回 「大国」とバルカン(2): ボスニア併合(1908年)とバルカン戦争(1912～1913)
- 第4回 第1次世界大戦とバルカン: 「帝国」の解体と民族自決
- 第5回 戦間期のバルカン: ファシズムの脅威
- 第6回 第2次世界大戦とバルカン
- 第7回 冷戦とバルカン(1)
- 第8回 冷戦とバルカン(2)
- 第9回 冷戦の終焉と社会主義体制の崩壊
- 第10回 分裂する国家: 1980年以降の(旧)ユーゴスラビアの事例
- 第11回 クロアチア人とセルビア人: クロアチア内戦と国際社会
- 第12回 クロアチア人、セルビア人、ムスリム人: ボスニア内戦と国際社会
- 第13回 セルビア人とアルバニア人: コソボ紛争と国際社会
- 第14回 EUの東方拡大とバルカン
- 第15回 まとめ

### テキスト

柴宣弘『図説 バルカンの歴史』(河出書房新社、2001年)、定価1800円

### 参考書

柴宣弘『世界史リブレット45 バルカンの民族主義』(山川出版社、1996年)、定価750円

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 山下 高行

### 講義内容・テーマ

本講義では、現代スポーツを取り巻く問題を概括的に論じることを目的とする。授業は日本社会の変化とともに現れてきているスポーツの問題を中心に論じるが、近代スポーツの本質にさかのぼった議論も展開するようにしたい。これらを通し最終的には、「創り手」としてスポーツに関わるにはどのようなことが考えられなければならないか、個人が考えていく基盤を作るようにしたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業では適宜レポートを書くことを求めるが、それを通して自己の意見をまとめていって欲しい。

### 評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
- 適宜行う授業中のレポートと講義後のレポート提出により評価する。

### 講義スケジュール

- 第1回イントロダクション: 本講義のねらいとすすめ方
- 第2回～4回
- 2. 日本社会の変化とスポーツ
  - 1) 70年代以降の地域スポーツの展開
  - 2) スポーツの産業化のもたらすもの
  - スポーツ文化の変容
  - スポーツの場の変化
  - 3) Jリーグの百年構想と地域
- 第5回～8回
- 3. 高度競技カススポーツに現れた変化
  - 1) モデルとしての東独
  - 2) 競技力形成のグローバル化
- 第9回～12回
- 4. 近代スポーツとは何か
  - ・近代スポーツの誕生と制度化の歴史
  - ・文明化論と近代スポーツ
- 第13回～15回
- 5. 現代社会の変容とスポーツの位置
  - ・グローバリゼーションの展開とナショナリズム
  - ・地域という場の意味変化
  - ・新しいアクターの登場とスポーツの持つ可能性

### テキスト

特に設けない。

### 参考書

授業中適宜指示する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

日本スポーツ社会学会ホームページ(4月よりアドレス変更予定。検索して開いてください。)

### その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 小西 宏美

講義内容・テーマ

皆さんの身の回りにあるもので、果たして純粋にmade in Japanのものがあるだろうか。パソコンでは、マウスがmade in Malaysia、メモリがmade in Koreaであったりする。今日の世界は、急速にグローバル化が進んでおり、日本経済もその只中にある。

戦後の日本経済は、加工貿易型産業の発展によって経済成長を実現してきた。しかし、今日、企業の海外進出によって、そうした発展形態に転換が迫られている。本講義では、国際収支統計などを用いて、グローバル化時代における日本経済の役割について考察し、その将来像を展望する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特になし。

評価方法・基準

\* 筆記試験：定期試験として実施

\* 日常点：加味する

定期試験で80%、毎回の授業時の質問カードで20%とする。

講義スケジュール

ガイダンス、貿易・投資の基礎理論(2回)

日本の貿易構造の歴史的変遷(3回)

日本企業の海外進出(4回)

外国企業、政府の対応(4回)

今後の動向(2回)

テキスト

特に指定しない。

参考書

吉富勝『日本経済の真実 通説を超えて』東洋経済新報社、1998年。  
産業構造研究会『現代日本産業の構造と動態』新日本出版社、2000年。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ<http://www.mof.go.jp/kankou/zaikingedl.htm> (財政金融統計月報ダウンロード)<http://www.meti.go.jp/> (経済産業省ホームページ 通商白書ダウンロード)その他



科学技術史 GE  
科学技術史 GE

13264

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 高橋 哲郎

### 講義内容・テーマ

〔近代科学技術史を中心に科学技術の本質や関係を考える〕

科学とは何かを考えるのに、その歴史的生い立ちの中から学ぶほど効果的なものはないといわれる。本講義では科学の本質、その方法、技術や社会との関係、科学発展における科学者の役割、科学的自然観がどのようにして形成されたのか等について、近代科学の成立以降の科学史の中から、重要なトピックスを取り上げながら考える。また最後に、日本における科学技術発展の特質と今後の課題についても考察する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施  
方法 レポートによって評価  
基準 理解度・オリジナリティを中心に評価

### 講義スケジュール

1. 地動説の復活と近代科学の誕生
2. 近代科学の父:ガリレオ・ガリレイ
3. 古典物理学の成立と展開 万有引力と光
4. 17世紀科学革命の展開
5. 近代化学の成立 科学的元素説と原子・分子論
6. 熱学の展開とエネルギー保存則の成立
7. 博物学から進化論へ
8. 細胞の発見と微生物学の発展 近代医学と農学の展開
9. 有機化学の展開と化学物質の合成
10. 電磁気学の形成と発展
11. 電気エネルギーと情報通信 電気技術の社会的展開と電気文明の開花
12. X線と放射能の発見
13. 20世紀・物理学革命と自然観・物質観の発展
14. 日本の近代化と科学技術

授業の方法:毎回、レジュメを配布する。

### テキスト

教科書は使用しない

### 参考書

高橋哲郎著「科学史教育入門」新生出版  
その他 講義の中で適宜関係文献を紹介する

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 三浦 正行

### 講義内容・テーマ

ストックホルム(1972年)、リオデジャネイロ(1992年)でのいわゆる「地球サミット」が示すように、健康問題は、グローバルな視点から課題を明らかにすることが求められている。とくに今日問われているのは、地球環境のもとでの「生態系」と人間の生活との関係のありようである。ここでは、環境問題の本質に迫りながら、日常生活でのごく身近な環境との関わり、地球規模での環境との関わりの中で、健康づくりを考えることの意義を明らかにする。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

レジュメと資料にもとづきながら講義は進められ、質疑応答を重視する。

### 評価方法・基準

講義の中で行う「まとめ」のテストとレポートによる平常点評価とする。その基準は、  
1.講義内容の把握 2.重要語句の理解 3.独創的な発想による。

### 講義スケジュール

第1回 - 2回

健康づくりの歴史と環境問題

- 「人間 - 生態系」としての地球環境を考える

第3回 - 7回

環境変動による健康への影響を考える

- 地球温暖化、酸性雨、海洋汚染、熱帯林破壊など

第8回

中間まとめテスト、レポート

第9回 - 10回

都市環境と健康への影響

第11回 - 12回

「環境ホルモン」を考える

第13回 - 14回

健康づくりのためのライフスタイルとは

第15回

まとめテスト、レポート

### テキスト

とくに指定はしない。

### 参考書

三浦正行『「地球の時代」の健康を考える』文理閣、小泉 明・兜 真徳編著『地球規模の健康問題 - 地球環境保健学序説 - 』てらべいあ、井口泰泉・他『環境ホルモン』丸善ライブラリーなど。その他授業の中で紹介していく。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 齋藤 勝義

### 講義内容・テーマ

テーマは『金属材料と新素材(セラミックス・プラスチック材料)の種類と、その特性、物性評価及び応用分野』である。3つの素材の特徴を理解して、既存の製品の再認識と新製品の開発を目指す。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

文系の受講生が理解出来る様に化学記号、用語等は解説する。

### 評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

期末試験を主体として、出席・中間レポートを参考にする。

### 講義スケジュール

#### 第1回 第5回

・金属材料の既存素材と新素材(セラミックス・プラスチック)の概要。『金属材料』の主体の鉄、アルミニウム、銅、銅合金などの特性及び使用用途の概要。

・新素材としての形状記憶合金、難加工材成形、スーパーアロイ等の概要。

#### 第6回 第10回

・新素材としてのセラミックスの位置付けと応用分野の概要。

・構造用セラミックス(ガスタービン、ターボチャージャー、機械部品など)の概要。

・電子用セラミックス(コンデンサー、圧電体、サーミスタ、バリスタ、超伝導体など)とバイオセラミックス(人工骨など)と光ファイバーセラミックスの概要。

#### 第11回 第15回

・新素材としてのプラスチックの位置付けと、応用分野の概要。

・既存プラスチック材料(汎用プラスチック)とエンジニアリングプラスチックの概要。

### テキスト

特に使用しない。プリントを適宜配布する。

### 参考書

講義の中で折に触れて紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

プリント以外にVTR及び実際の製品を見て頂く。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 上 英俊

講義内容・テーマ

現代人の生活環境について、「健康」という視点から考える。  
特に、日常生活に関わる健康問題に重点を置く。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\*筆記試験:最終講義日試験で実施

\*日常点:加味する

講義に対する姿勢(出席・小テストなど)、レポート、試験により総合的に評価。

講義スケジュール

- 1.健康とは?
- 2.身体のしくみ
- 3.生活とリズム
- 4.疲労と過労
- 5.現代社会と心の病
- 6.食生活と健康
- 7.身体活動と健康
- 8.肥満とウエイトコントロール
- 9.たばこ・アルコール・薬物
- 10.男と女
- 11.成長・成熟と加齢
- 12.慢性疾患とその予防
- 13.感染症とその予防
- 14.環境と健康
- 15.まとめ

テキスト

使用しない

参考書

新聞を読んで健康を考える 梶山方忠 著 文理閣

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 夏期集中

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 西上 泰子

### 講義内容・テーマ

かつて地球環境は物質やエネルギーの微妙なバランスのもとに進化してきたが、化石燃料の大量消費に象徴されるように、現代の人類の生産活動や消費活動がこのバランスを崩し、不可逆的な破滅の方向へと人類を導こうとしている。本講義では、学生ひとりひとりが地球環境問題の認識を深め、その克服の方法を探るために必要な自然科学の基礎知識を身につけることを目標とする。自然科学概論は短期集中型の講義形式であるので、地球環境問題を中心に、最近話題のテーマをトピックス的にできるだけ広く取り上げる。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

テキストを中心に授業する(ときにはビデオも利用する)。授業には必ずテキストを持参すること。  
自然科学の基礎知識がすでにあることは必須条件ではないが、環境問題や人類の未来に興味を持っていることが望ましい。  
講義中の質問や問題提議は大いに歓迎する。授業中の私語と携帯電話使用は堅く禁ずる。

### 評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施  
\*日常点:加味する  
日常点(出席状況・小レポート提出など)と「試験に代わるレポートの提出」で成績を評価する。  
授業中に求める小レポートは、授業内容に関する、意見や感想、質問などである。  
配点は、前者が20%、後者が80%。  
また、積極的な授業への参加(自主的なレポートの提出など)は、加算点として、成績に加味する。

### 講義スケジュール

- 第1回 危機に直面する地球環境 / 地球環境の生い立ち
- 第2回 エネルギーを理解するための基礎
- 第3回 化石エネルギー資源
- 第4回 原子力エネルギー
- 第5回 放射線の影響
- 第6回 未来のエネルギーとその利用
- 第7回 大気汚染と酸性雨
- 第8回 地球の温暖化
- 第9回 オゾン層の破壊とオゾンホール
- 第10回 水資源と生活
- 第11回 水質汚濁と環境
- 第12回 有害有毒物質
- 第13回 環境ホルモン
- 第14回 廃棄物とリサイクル
- 第15回 最終日試験

### テキスト

「環境・エネルギー・健康 20講」(今中利信, 廣瀬良樹 著, 化学同人)  
立命館大学生協書籍部で購入可能

### 参考書

「人と環境」(合原真 他 著, 三共出版)  
「地球と環境の科学」(木下紀正・八田明夫著, 東京教学社)

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

疾病と予防 GA

14601

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 大矢 紀昭

講義内容・テーマ

現在日本人の6割は癌、虚血性心疾患、脳卒中によって死亡する。  
これら疾患の多くが治療より予防が大切な疾患であり、ことに生活習慣を改善することによって予防しうる生活習慣病は重要である。  
。 疾病の病態生理を学び、一次予防ならびにより健康なヘルス・プロモーションの方法を考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施  
レポート

講義スケジュール

- 1回目:疫学とは
- 2回目:現在の疫学
- 3回目:感染症の予防
- 4回目:予防接種
- 5回目:新生児代謝マス・スクリーニング
- 6回目:新生児内分泌マス・スクリーニング
- 7回目:肥満症
- 8回目:高脂血症
- 9回目:糖尿病、骨粗しょう症
- 10回目:脳卒中、高血圧
- 11回目:寝たきり、高齢者痴呆の予防
- 12回目:癌の予防
- 13回目:アルコール、タバコについて
- 14回目:地球環境と健康
- 15回目:産業保健

テキスト参考書

「系統看護学講座専門基礎8、公衆衛生」 小泉明著 医学書院

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 三浦 正行

### 講義内容・テーマ

「テクノストレス」に代表される反人間的ともいえる健康被害状況が広がっている。それは、生理的、心理・精神的両面にわたる「人間的自然」の破壊状況でもある。  
労働の場はもちろんのこと、日常生活における「管理」されすぎた状況の中での健康問題を理解し、健康づくりの方策を追求するために、人間の「からだ」を「人間的自然」として「丸ごと」把握し、心と体との相関について考えていく。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

配布するプリント・資料にそって質疑応答の機会を多くつくっていく。多くの図表や数値を通して、からだの仕組みや働きを見つめなおしていきたい。

### 評価方法・基準

講義中に行う「小テスト」と提出されたレポートによる総合評価とする。評価の基準は、  
1.講義内容の把握 2.重要語句の理解 3.独創的な発想による。

### 講義スケジュール

#### 第1回～第2回

- ・健康問題の特質を考える
- ・「人間的自然」とは何か

#### 第3回～第6回

- ・「からだの知恵」(Wisdom of the body)とは何か
- ・脳と神経のはたらきの基礎を考える

#### 第7回

- ・中間まとめ - 小テスト

#### 第8回～第11回

- ・人間とストレスとの関係を探る
- ・「テクノストレス」の実態に迫る
- ・「過労死」、「過労自殺」を考える

#### 第12回～第14回

- ・からだに現れる心の病気
- ・「セルフコントロール」と健康づくり
- ・健康づくりの「総合戦略」を考える

#### 第15回

- ・まとめ - 小テスト、レポート提出

### テキスト

とくに指定はしない。

### 参考書

講義の中で紹介していく。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

## スポーツのサイエンス GE

13312

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 上 英俊

講義内容・テーマ

動きのメカニズムに関する基礎知識を理解し、「効率のよい運動の実践」へと発展させる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\*筆記試験:最終講義日試験で実施

\*日常点:加味する

講義に対する姿勢(出席・小テストなど)、レポート、試験により総合的に評価。

講義スケジュール

- 1.体力・健康と運動
- 2.神経 筋の構造と機能
- 3.筋線維組成
- 4.筋疲労のメカニズム
- 5.筋力トレーニング
- 6.全身持久力トレーニング
- 7.体重とパフォーマンス
- 8.ウエイトコントロール
- 9.実践的栄養補給
- 10.ピーキング
- 11.歩と走のバイオメカニクス
- 12.ジャンプのバイオメカニクス
- 13.技術系のトレーニング
- 14.現代人のための運動処方とその理論
- 15.まとめ

テキスト

使用しない

参考書

スポーツ生理学 森谷敏夫・根本勇 著 朝倉書店

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他



授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 立澤 史朗

講義内容・テーマ

46億年前の地球の誕生,そこで最初に誕生した生命,例えば恐竜のような古生物,今われわれの知る多様な生物たち,そして私たち人類の未来.あなたはこれらをバラバラの,まるで単語帳にメモったような断片的知識として捉えていないだろうか?

生物の歴史は,連綿とした営みの帰結であり,驚くべき展開と絶滅を繰り返してきた。この偶然と必然のドラマでは,はやりの「共存」も決して自明のことではない。

個別のトピックもさることながら,この時間は,宇宙的背景の中での地球の誕生から現在までの生命の壮大な歴史を織り直し,地球と生物を見る目を新たにしてもらいたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

知識の羅列ではなく,なぜそのようになっているのかを,納得するまで考えてほしい。そして,あたりまえであると思っている通念を打破し,新たな世界が広がることの楽しさを知ってほしい。

評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

\*日常点:加味する

レポート課題は期末に指示する。

講義スケジュール

(暫定的内容)

- ・宇宙的な背景:地球はなぜ存在するのか
- ・惑星系の誕生:金星・地球・月・火星そして木星
- ・地球の内部と表面:プレートとプルーム
- ・変動帯:火山・地震・造山
- ・海洋と大気の起源:気候の変動と安定,風化・浸食・堆積
- ・化学分子の進化:エネルギーと物質資源の利用
- ・地球上の生命の起源:代謝と自己増殖
- ・原核生物の世界:呼吸と光合成という代謝の複雑化
- ・細胞共生による真核生物の誕生:性と多細胞化の意味
- ・植物・菌類・動物の進化:さまざまなライフ・スタイル
- ・相互適応の新たな展開:生息場所と生態的地位
- ・生物の複雑な相互作用関係:生物群集の成立と変遷・安定
- ・絶滅と多様化の繰り返し:ふたたび適応とは何か
- ・ヒトの出現:その途方もない逸脱性
- ・地球共生系への視点:持続可能な展開とは何か

テキスト

特定のテキストは使用しない。必要に応じてプリント配布やビデオ視聴を行う。また講義中に参考書を紹介する。

参考書

とりあえず:マイナード=スミス/サトマリ著『進化する階層』シュブリンガーフェアラク東京

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生以上

担当教員 竹下 貞雄

### 講義内容・テーマ

最近、南海地震の直前に紀伊半島や四国で地下水位が下がる可能性があるという研究成果が得られたことから、京大の防災研究所などがこの地域に井戸を掘り、井戸水の水位の変化を観測し、地震の予知に役立たせるということが報道された。これは締まった土に地震などの力が作用すると、体積が増加するという性質によるものである。本講義ではこれらを含めた土のいろいろな性質について説明し、土への理解を深めるようにしたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

日頃、見たり聞いたりした土に関するいろいろな情報をもって、講義に出席することが望ましい。

### 評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施、最終講義日試験で実施

期末試験の結果から評価する。期末試験はテーマについて記述する形式である。上述の地震と地下水位、雨と土砂崩れ、土を締め固める方法、砂の液状化など、日頃、新聞紙上をにぎわしている話題を学生諸君が理解できるようにしたい。

### 講義スケジュール

- 第 1週 第1編 土の種類
- 第 2週 土の構造
- 第 3週 土の性質
- 第 4週 土の強さ
- 第 5週 土の調査法
- 第 6週 第2編 ビサの斜塔
- 第 7週 砂の液状化
- 第 8週 杭のネガティブフリクション
- 第 9週 第2編 斜面崩壊(その1)
- 第10週 斜面崩壊(その2)
- 第11週 基礎構造物
- 第12週 トンネル
- 第13週 軟弱地盤
- 第14週 土の締め固め
- 第15週 阪神大地震による構造物の被害

また、土に関する新聞記事などがあった場合は、その都度、解説も行う予定である。

### テキスト

プリントを配布する。

### 参考書

例えば、池谷浩：土石流災害（岩波新書、1999年）、松田時彦：活断層（岩波新書、1995年）、石橋克彦：大地動乱の時代（岩波新書、1994年）などがある。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 夏期集中

単位数 2

配当回生

担当教員 菅沼 良治

講義内容・テーマ

「みる」ということをテーマとして、人間の眼、道具を用いた眼、人工衛星の眼による観測などの話をする。対象は狭い物理に止まらず、地球科学や生理学で用いられている物理的手法にもふれる。人間が手に入れることができる情報の8割までが視覚によるといわれている。講義の方法も、終始、TV上に全資料を提示し、数式抜きで解説し、物理としての論理の仕組みを直接見ていただく。板書は一切しない。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

中学程度の知識があれば可。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味しない

評価方法は、配布する全資料をふくめ、持ち込み自由で、「五者択一の × 試験」を定期試験として実施する。全20問とし、授業中に解説する例題からも相当数出題する。評価基準は最終講義時に解説する予定。

講義スケジュール

1. 光を調べる:
  - 「みる」とは 視覚の歴史 屈折の法則 光の直進・反射・屈折 光の分散 光の色と混色
2. 大気のなかの光と色:
  - 光のスペクトル 電波の「窓」 物体の色とは 空はなぜ青いか 虹と蜃気楼
3. 視覚をめぐって:
  - 眼球と水晶体 網膜と視細胞 ロドプシンと色視物質 色覚 生物の眼
4. 脳がみている:
  - 視覚の伝達 コラムの発見 ランダムドット・ステレオグラム 立体視 立体錯視
5. 光でみるミクロの世界:
  - レンズの仕組み フックの書物 レーベンフックと微生物 分解能の発見
6. 電子でみる超ミクロの世界:
  - 電子とは 電子顕微鏡の開発 超高分解能と電子の波動性 ミクロの世界
7. 人体を見る:
  - 解剖学の系譜 体温計 血圧計 心電図 内視鏡で消化管を見る タバコと肺ガン
8. 人体内部の姿:
  - X線の発見 肺結核 二重造影法 被爆線量 X線CT MRI 超音波エコー PET
9. もっと遠くの光を:
  - ガリレイとニュートンの望遠鏡 膨張宇宙の発見 宇宙望遠鏡 日本の「すばる」
10. 探査機でみる惑星の姿:
  - 木星とボイジャー計画 探査機ガリレオ 衛星イオの火山 画像の伝達方法 火星をめぐって
11. 宇宙からみる気象の世界:
  - 気象情報今昔 雲と雲粒の成長と雨 対流と雲塊 気象衛星 降雨観測衛星
12. 宇宙からみる風と海流:
  - 地球規模の風系 地球自転 高低気圧と風 大循環モデル 海流と海洋観測衛星
13. 宇宙から地表をみる:
  - 軍事偵察衛星から地球観測衛星へ 開発と破壊の姿 土地利用の識別法 空からみた日本周辺

テキスト

TVに提示する図版等は、配布する「資料集」に掲載する。毎回授業時にも「黒板」と称するレジュメを配布するが、板書に代るものであり、その意味で、残紙を保存し得ないので注意すること。

参考書

資料集冒頭に掲載する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

終始TVを使用し、板書をしないが、授業中は「資料集」にメモ程度の付け足しで足りると思う。見ることに聴くことに集中してほしい。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 高見 正春

### 講義内容・テーマ

新古典派経済理論(環境税等) エントロピー理論 「容器の経済学」理論等経済学的アプローチの理解を通じて、現在の地球温暖化等地球規模の環境問題からダイオキシン問題等廃棄物処理問題等日常的な環境問題を具体的に取り上げ、「持続可能な発展」の論理的可能性を探求する。

それは、高度産業社会における社会経済システム(大量生産 大規模流通 大量消費 大量廃棄)を環境的に持続可能なものに転換させていく地域環境政策論の創造であり、生産・流通・消費・廃棄の過程が現出する自治体を政策統合の基本単位として要求する。

持続可能な社会経済システムの構築は、日本の近代化の過程で批判されてきた「共同体」の現代的再評価であり、平成の大合併に揺れる自治体に対し、「地域自立」「地域自給」の課題を課す。

「地域自立」「地域自給」の理論的課題は、生産・流通・消費・廃棄の過程を自らの手に取戻す「生活」と「地域」の再創造=連帯・共感・更新性(持続可能性)の視点にたった「共同体」の回復・創造=の創造過程の論理的解明である。

それは、自然・社会・経済の更新システムの論理的解明であり同時に「共生・共働・協同」の社会システムの創造理論の構築である。

このことは、更新システムの政策統合の基本単位であり実現のための結節点=戦略的高地=である自治体の再生・創造の論理的解明を我々に課す。この課題は、連帯・共感・更新性を生活原理とする自立的で多様な「現代的共同体」を構成単位とし、住民・市民に基盤を置く「公共性」概念を基本理念とする自治・分権型自治体像・職員像・住民像の創造過程の論理的解明であり、それは新たな「公共性」概念の理論的構築である。このことは、「共生・共働・協同」の社会システムの創造こそが、持続可能な社会の創造の基本的・理論的課題であることを意味している。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

次の(1) (7)の課題に対して、研究意欲・関心・興味を有する者なら誰でも受講を歓迎する。

- (1)経済学的アプローチによる自然・社会・経済の更新システム(=持続可能な発展)の論理的解明
- (2)原子力発電、廃棄物処理、環境ホルモン、狂牛病、遺伝子組替食品問題等日常的な社会・経済生活に密接に関連した具体的な社会・環境問題に関する事例分析
- (3)「公共性」概念の検証と地域環境政策を中心とする自治・分権型自治体政策の事例分析
- (4)ボランティア、NPO等自律的・自発的な市民運動・住民運動の事例分析
- (5)環境に配慮した企業活動の事例分析(例、㈱リコーの企業活動、環境報告書等)
- (6)自然・社会・経済の更新システム(=持続可能な発展)としての「共同体」の現代的再評価
- (7)現代の社会問題の理解・分析にあたって、経済学理論の活用及びその有効性の確認

### 評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

- (1)課題に対するレポートの提出(4000字程度)
- (2)課題は、小論文(3~5の課題)の内一つの課題を選択 又は 書評 課題図書(5冊程度)の内一冊を選択 のどちらか一方を選択し提出する。
- (3)評価の重点は、自分の頭で考えたかどうか 十分に文献を調査したかどうか 自分の言葉で文献を解釈し自分なりの理論展開をしたかどうか を中心に評価する。

### 講義スケジュール

(1)環境問題の経済的分析にあたって、これまでの各経済学的アプローチについて知見を深め、環境問題に対する経済学理論に関する基本的知識を得る。

(2)検討する経済学的アプローチは、新古典派経済理論 社会的共通資本理論 地域主義理論 エントロピー理論 「容器の経済学」理論 である。

(3)原子力発電等エネルギー問題、「公共性」の名のもとに進行する環境破壊 諫早湾干拓、廃棄物処理問題 豊島産廃問題、遺伝子組替食品問題等社会・経済生活に密接に関連した具体的な事例分析

(4)事例検討に続き、法的規制等直接規制 経済的手段による間接的抑制政策(例、環境税等) 市場システムの活用(温暖化ガス排出権取引)についてその経済学的アプローチの有効性を検証する。

(5)具体的分析事例として、条例づくり 住民投票条例 企業の環境対策 ㈱リコー ㈱IBM スモール・ビジネス(コミュニティ・ビジネス) ニールズヤードレメディ社 (d)ワーカーズ・コレクティブ 「大地の会」等を取り上げる。

(6)さらに「公共性」概念の整理検討を通じ、自治分権型自治体像、職員像、住民像の創造過程を探る。

### テキスト

なし(講師作成のレジュメを使用)

### 参考書

宮本憲一 「環境経済学」岩波書店1989、 宮本憲一 「公共政策のすすめ」有斐閣1998

### 授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 夏期集中

単位数 2

配当回生

担当教員 佐藤 敬二  
吉田 容子  
杉本 孝子

講義内容・テーマ

女性に対する暴力・家族・労働という三つの領域について、女性がかかえる法的な諸問題を具体的事例を通じて明らかにし、男女平等、個人の尊厳という憲法の理念が実現されない社会的背景を分析するとともに、その実現に必要な法的諸制度の構築につき検討することが本講義の目的です。女性の権利の視点から検討することによって、そもそも、権利というものの構造や権利実現の在り方全体について見直してみたいと思います。

講義は、「女性に対する暴力」の項を吉田容子(弁護士)、「家族」の項を杉本孝子(弁護士)、「労働」の項を佐藤敬二(本学教員)がそれぞれ担当します。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事情によって講義を欠席した場合には、その回について自らの責任で勉強しておくことは常識です。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

定期試験は、「性」、「家族」、「労働」の分野から各1問、計3問を出題し、そのうちから2問を選択して解答する形式とします。

講義スケジュール

第01回:「女性と法:現状、平等概念など」

第02回:「女性に対する暴力 1:ドメスティックバイオレンス」..... \* 本質、実態、法的対処方法

第03回:「.....2:売買春」..... \* 売買春とは何か、人権の守り方

第04回:「.....3:セクシュアルハラスメント」..... \* 何か、責任と対策

第05回:「家族 1:実情」..... \* 一人の法律実務家からみた家族・夫婦の現状、意識・背景・将来

第06回:「.....2:婚姻、内縁」..... \* 氏・別姓の意味・戸籍制度、内縁・婚外子

第07回:「.....3:離婚(その1)」..... \* 離婚の実情、離婚原因、5年別居の民法改正案

第08回:「.....4:離婚(その2)」..... \* 親権・面接・養育費、財産分与・慰謝料

第09回:「労働 1:採用差別」..... \* 雇用機会均等法はどのような内容なのか

第10回:「.....2:昇進差別」..... \* 裁判によって昇進差別の是正はできるのか

第11回:「.....3:配置転換」..... \* 家庭責任を負う労働者

第12回:「.....4:パートタイマー」..... \* 雇用形態自体の差異による格差と是正手段

第13回:「.....5:育児」..... \* 育児休業、保育所

第14回:「まとめ:権利を考え直す」

講義はレジュメにそって行います。レジュメならびに資料は講義当日に配布します。レジュメは講義を受講するための資料ですが、講義中以外でレジュメを配布することはありえません。欠席したものは、欠席した回について自己責任で勉強すること。

テキスト

日本弁護士連合会『問われる女性の権利』(こうち書房、1996年)

参考書

金城清子『法女性学のすすめ 第4版』(有斐閣、1997年)

日本弁護士連合会『国際化時代の女性の権利』(明石書店、1997年)

池内靖子他編『21世紀のジェンダー論』(晃洋書房、1999年)

参考文献は、各回の講義の中で提示しますので、当該講義テーマに関心がある人は、それらの参考文献を読んで考えてみてください。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

昨年の講義レジュメは佐藤のウェブ・ページ(<http://www.ritsumeai.ac.jp/~satokei/>)においてありますので参考にしてください。

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 田村 雲供

講義内容・テーマ

ジェンダーがメインストリームになるにはどうすればいいのかを検討する。

Gender mainstreaming は社会にかかわるすべての決定や計画に当たって男女間の社会的不平等を認識し、それを取り除くことを目標とする戦略である。単なる女性の地位向上のように一方的なものではなく、男女両性を対象とする。これは政治的な目標であると同時に、男女の機会均等を実現するための手段でもある。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施  
試験に代わるレポート

講義スケジュール

「ジェンダーメインストリーミング」の歴史はまだ浅いので、この言葉の意味する概念について説明し、ヨーロッパでの取り組み状況を紹介する。

社会のさまざまな分野でのジェンダーギャップを統計的に取り上げ、ジェンダーメインストリームに向けての検討をする。

ヨーロッパ、特にEU諸国と日本との取り組みを比較・検討する。

社会的プロジェクトを想定し受講生にジェンダーメインストリームの観点からプロジェクト完成に挑戦してもらおう試みも実施する。

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

[www.gender-mainstreaming.net](http://www.gender-mainstreaming.net)

その他



授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 山本 忠

講義内容・テーマ

現代社会は情報化社会と呼ばれるように、情報技術の高度化と普及によって、人類は膨大な量の情報に囲まれ、処理できるようになっている。こうした社会で市民が社会や国家の主権者として主体性をもって生きていくためには、ぼう大な情報に受動的に流されることなく、能動的に情報を処理・操作し、発信していく能力を身に付けていくことが求められる。リテラシーとは「読み書き能力」や「教育のあること」などと訳されるが、情報リテラシーは、情報化社会に生きていく市民にとって不可欠の素養であり、技能・技術であると言える。この科目は、1年間を通じて、法学部の学生にとって最低限必要と考えられるそうしたリテラシーを修得することを目標としている。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

第1回目の授業は、オリエンテーションと講義だけでなく、IDとパスワードの配布や初級・中級のクラス分けのアンケートをとるなど科目履修上重要な伝達を行なうので、必ず出席すること。第2回目以降は情報教育演習室で実習を行なうが、最初に座った座席を固定することにより出欠確認をするので、注意すること。

評価方法・基準

評価は、出席点、小テスト、最終講義試験の総合得点によって判定する。なお出席点は、授業開始後5分までに入室した者にのみ与えられる。5分以上の遅刻者は欠席として扱う。大幅に遅刻した者については、入室を認めないこともあるので注意すること。

講義スケジュール

- 1回 全体講義  
IDとRainbowGuide配布  
「情報化社会と法」  
・情報化社会とは？  
・情報倫理・著作権
- 2・3回 Windowsの操作  
ログイン、基本操作、ドライブ・フォルダの概念、ログアウト  
FD、CD-RW、メモリーカード、CFの使い方
- 4 文字入力方法  
Wordによる文字入力を例とした基本操作  
タイピング練習ソフトの使い方
- 5回 WWW及び電子メールの仕組み  
URL、メールアドレス、学外メールの概念
- 6～9回 WebCT関連  
ログオン方法、myWebCT(個人トップページ)  
コース(科目)の利用、シラバス  
WebCT電子メール、電子掲示板、小テストの使い方  
ログアウト
- 10～12回 学術情報及び情報検索  
・コアデータベース(Runners、朝日新聞、日経テレコン21など)の紹介  
・サーチエンジンの使い方  
・法政情報リンク集(現在作成中)を使って情報検索
- 13・14回 WebMail  
WebCTメールとの違い  
簡単な送受信  
削除、フォルダによる分類、ファイル添付
- 15回 最終講義試験  
基礎知識テスト(ネチケットを含む)  
実技試験

テキスト

Windows、Internetについては「Rainbow Guide」(立命館大学総合情報センター)その他のものについては、講義で指示する。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 山本 忠

講義内容・テーマ

現代社会は情報化社会と呼ばれるように、情報技術の高度化と普及によって、人類は膨大な量の情報に囲まれ、処理できるようになっている。こうした社会で市民が社会や国家の主権者として主体性をもって生きていくためには、ぼう大な情報に受動的に流されることなく、能動的に情報を処理・操作し、発信していく能力を身に付けていくことが求められる。リテラシーとは「読み書き能力」や「教育のあること」などと訳されるが、情報リテラシーは、情報化社会に生きていく市民にとって不可欠の素養であり、技能・技術であると言える。この科目は、1年間を通じて、法学部の学生にとって最低限必要と考えられるそうしたリテラシーを修得することを目標としている。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

後期のクラス編成は、基本的に前期と同様とする。クラスの変更を希望する場合は、申請によって認められることがある。この手続きについては、法学部事務室の指示に従うこと。

評価方法・基準

評価は、出席点、小テスト、最終講義試験の総合得点によって判定する。なお出席点は、授業開始後5分までに入室した者にのみ与えられる。5分以上の遅刻者は欠席として扱う。大幅に遅刻した者については、入室を認めないこともあるので注意すること。

講義スケジュール

## 1～3回 Word

Wordの基礎知識

文書入力

保存方法

範囲選択の方法

文書の編集(Copy&amp;Paste、Cut&amp;Paste)

インデント

フォント変更+文字修飾

印刷設定

表の作成方法

行幅・列幅設定

セルの結合

表の書式設定

見栄えのする文章の作り方

## 4～7回 Excel

Excelの基礎知識

データ入力方法

データの編集方法

保存方法

罫線の設定

式(加減乗除)の使用法

関数の使用法(合計/平均/最大/最小など)

表検索

表示形式

行と列の変更・並び替え

## 8回 WordとExcelのデータの連携

## 9回 PowerPoint

PowerPointの基礎知識

プレゼンテーションの意義

プレゼンテーションの作業手順

## 10～14回 ホームページの仕組み

HTMLの基礎知識

文字のアレンジ

リンクの設定方法

画像ファイルの利用方法

サーバー登録の方法

## 15回 最終講義試験

テキスト

Wordについては『さあはじめようWord2000』（富士通ラーニングメディア）  
Excelについては『さあはじめようExcel2000』（富士通ラーニングメディア）  
その他のものについては、講義で指示する。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 岸田 良朗

### 講義内容・テーマ

20世紀後半から今世紀にかけて、「情報」の量とその重要性が飛躍的に増大した。中でも、世界中のコンピューターなどの情報機器を接続している、インターネットの技術と利用の増大は、もはや革命的と言えるであろう。インターネットでは、個人的なレベルから団体や組織など、あらゆるレベルでの情報発信が可能である。WWW (ワールドワイドウェブ) を利用した情報発信の方法について学ぶ事は、たいへん有用である。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

\* 筆記試験: 定期試験として実施

\* 日常点: 加味する

期末試験の評価点で評価を行う。ただし、実習の成果の評価点と、小レポートの評価点を加算する。

### 講義スケジュール

以下のような項目について解説し、実習を行なう。

情報技術の基礎。

インターネットの歴史としくみ。

インターネット上のアプリケーション。

WWW (ワールドワイドウェブ) について。

WWW 実習 (webページ作り)。

WWWの記述言語HTMLについて。

利用の広がる記述言語XMLについて。

その他。

ウェブページ作りの実習を中心に進める。

### 授業の方法

講義と実習。

演習室にて実際にコンピュータを操作し、webページ作りをする。

### テキスト

なし。

### 参考書

講義において紹介。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 畑中 和夫

### 講義内容・テーマ

日本国憲法の全体像を、平和主義、国民主義、基本的人権尊重主義という憲法三原則の視点からとらえ理解することを目標にする。法学部以外の受講者が多いことや、毎年むづかしいという学生諸君の評価を念頭において、誰にでもわかり、誰でも理解できる憲法講義であるよう努めたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

誰にでもわかる講義といっても、吉本興業のようにはいかないので、あらかじめお断りしておく。

### 評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施  
評価の基準は、国家公務員 種・地方公務員上級試験と同程度である。

### 講義スケジュール

- 1 国際社会と日本の憲法 平和主義原則と安保・国連
- 2 人権保障の歴史的展開と基礎構造
- 3 思想・良心、信教の自由
- 4 表現の自由と「知る権利」・プライバシー
- 5 経済的自由 営業の自由と財産権の制限
- 6 生存権、権利としての社会保障
- 7 勤労の権利と労働基本権
- 8 国民主義と天皇制
- 9 政治参加の権利
- 10 国家の組織と権力分立
- 11 国会 国権の最高機関の意味
- 12 議院内閣制と首相公選制
- 13 法の支配と司法権の独立
- 14 地方自治の保障と「地方分権」
- 15 憲法保障と憲法裁判(違憲法令審査制)

### テキスト

山下健次・畑中和夫編『ベーシック憲法入門[第二版]』(法律文化社)

### 参考書

多数につき、講義中に適宜指示する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

法律相談に利用しないこと

授業開講期間 夏期集中

単位数 2

配当回生

担当教員 森下 徹

講義内容・テーマ

いま世界と日本は戦争か平和か、大きな岐路に立っている。アメリカはイラク攻撃の準備を進め、日本もイージス艦を派遣し、有事法制の制定をすすめるなどアメリカへの協力の姿勢を鮮明にしている。一方、アメリカ国内をはじめ世界各地でイラク戦争反対の世論と運動が広がっている。平和のために、われわれに何ができるのか、何をなすべきか。本講義では戦後の平和運動の歴史、民衆の平和意識の展開をふり返り、歴史の中から21世紀の世界とアジア、日本の平和への道を探りたいと思う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義形式ですすめるが、毎回、コメントカードを提出してもらい、それを翌日の講義で紹介する。積極的な参加を期待する。講義をふまえて平和ミュージアムを見学する予定。

評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
- おおそレポート90%、出席10%

講義スケジュール

戦争か平和か 9・11テロ以後の世界と日本  
平和に生きる権利 憲法第9条の世界史的意義  
民衆はだまされていたのか 東京裁判と日本の戦争責任  
全面講和か単独講和か 講和・安保両条約の成立  
命どう宝 沖縄本土復帰30年  
基地の子たち 基地問題と亀井文夫  
ゴジラはなぜ生まれたのか 反核・平和運動の出発  
日本に核は持ち込まれていた 非核3原則の虚像と実像  
戦争をしない国から戦争のできる国へ 1999年という年  
戦争のできる国から戦争をする国へ テロ特措法・有事法制・イラク攻撃  
平和ミュージアムの見学  
問われる歴史認識 歴史教科書・靖国神社公式参拝・北朝鮮問題

テキスト

なし。史料プリントを配布。

参考書

講義中に指示。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生以上

担当教員 藤原 啓助

講義内容・テーマ

我が国は、河川・湖沼・海など、多様で豊かな水環境に恵まれ、その恵沢を享受してきた。しかし、近年、異常気象と水資源の有限性からくる構造的な水不足を象徴して、渇水状況が頻発し、また、それと裏腹に大雨による洪水もしばしば起きている。さらに、公共用水域の水質汚濁も、見掛け上の良化(例えば、川に鮎が帰ってきたなど)とは反して、観測技術・機器の発達により、今まで検出されなかった新たな汚染物質の存在が判明するなど、複雑、多様化して進行しているように見受けられる。それらの状況は、地球温暖化現象に象徴されるように、地球規模での問題ともなっている。我々が水環境の保全について、これまでどのように取り組んできたか、また今後どのように取り組んでいかなければならないかを、地球規模の視点で問題を提起し考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

科学的思考力と高校卒程度の理科(特に化学、生物)の一般基礎知識を有すること。

評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
- 受講後、レポートの提出を求める。評価はレポートと出席状況によって行う。

講義スケジュール

- 第 1 回 水環境の意義と環境という価値観の多様性(授業の内容と方針の説明)
- 第 2 回 我が国の水資源の現況と水資源開発の状況
- 第 3 回 水資源に係る課題と施策
- 第 4 回 水質の評価方法と公共用水域の水質汚染の状況
- 第 5 回 公共用水域の水質保全に対する取組み
- 第 6 回 環境基本法と環境基本計画
- 第 7 回 下水道と水環境の保全
- 第 8 回 河川管理と水環境の保全
- 第 9 回 環境を軸とする水系整備
- 第 10 回 琵琶湖・淀川水系の水環境の状況
- 第 11 回 琵琶湖・淀川水系における水環境保全の取組み
- 第 12 回 世界の水問題
- 第 13 回 地球温暖化と水環境
- 第 14 回 水循環とエネルギー問題
- 第 15 回 流域の総合的水管理

テキスト

講師自作のレジュメを使用する。  
レジュメは授業の始めに配布する。  
(市販のテキストは使用しない)

参考書

適宜、授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

環境省 <http://www.env.go.jp/>  
国土交通省 <http://www.mlit.go.jp/>

その他

初回を除いて、毎回、出席調査を行う。  
最終回または最終回の前日に、水環境に関するアンケート調査を行う。